

2019年度 活動報告書

法政大学ボランティアセンター

2019年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書 目次

2019年度ボランティアセンター活動報告

巻頭言（伊藤マモル 全学ボランティアセンター長）	1
ボランティアセンターについて	4

市ヶ谷ボランティアセンターについて

2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要	6
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会	8
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計	9
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー	10
2019年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告	16

多摩ボランティアセンターについて

2019年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要 （橋本 到 多摩ボランティアセンター長）	86
2019年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計	89
2019年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー	90
2019年度 多摩ボランティアセンター活動の報告	94

小金井ボランティアセンターについて

2019年度 小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括 （田村 信幸 小金井ボランティアセンター長）	130
2019年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）	131
2019年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）	132

2019年度採択された助成金一覧・メディア掲載一覧	135
---------------------------	-----

2019 年度 ボランティアセンター活動報告 巻頭語

ボランティアセンターの使命と役割 ～市ヶ谷ボランティアセンター2019 年度の活動を振り返って～

全学ボランティアセンター長 伊藤マモル

1. はじめに

法政大学ボランティアセンター（以下、本学ボラセン）は、2009 年 4 月に 3 キャンパス（市ヶ谷・多摩・小金井）同時に設立され、各キャンパスの学部特性や地域性に合わせた活動を行う学生たちの支援を継承し、今年度で 10 年が経ちました。その活動の記録^{*}を振り返れば、様々な現場に立ち向かってくれた卒業生や在学生の姿が目には浮かびます。活動を共にした学生たちは、「ボランティアを通じて、多様な文化や価値を尊重することを学んだ」と口をそろえ、立派に成長して社会に巣立って行きました。このような彼らに成長させることができたのは、学生たちを暖かく見守って下さった関係諸団体や行政の皆様、休日出勤も厭わず超過業務を背負って下さるボランティアセンター職員など、多くの皆様のご尽力なくして成しえることはできませんでした。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

※法政大学ホームページ⇒「学生生活・スポーツ」⇒「学生生活サポート」⇒「ボランティア活動支援」⇒「ボランティアセンター活動報告書 (https://www.hosei.ac.jp/volunteer/katsudo_hokoku/)」をご覧ください。

2. 法政大学ボランティアセンター

本学ボランティアセンターが設立以来築き上げてきた伝統の背景には、以下のような使命と役割がありました。

1) 建学の精神に則り、学生の成長を促し、社会貢献に寄与する仕組みを構築する

ある種の固定観念でボランティアを縛らずに、「いつ・どこで・誰から・何を求められているのか」「そして何ができるのか」を考え、行動に移そうとする学生たちの自主性を大切にして、ボランティアセンター職員が一丸となって支えています。学生が自発的に企画したボランティアであっても、公共性が担保された活動であれば、これまで手掛けてこなかった分野におけるパイオニア的な提案であってもボランティアセンター専属職員が丁寧な支援を行います。

2) 学生たちの自主性を重んじて、その活動を支援する

学生が自主的に企画したボランティア活動に資する事前学習会、講師派遣、資格取得セミナー開催、助成金紹介や相談など、学生が企画したボランティア活動の実現に向けたさまざまな支援です。どこかの団体に代わってボランティアを募集することや、本学ボラセンが企画した活動に学生を募って送り出すような運営は行いません。

3) 本学ボランティアセンターが設立以来支援を継続してきた活動を絶やさない

設立以来続けてきた地域との交流、被災地支援などのボランティア活動がいくつかあります。それらは卒業生の熱い意思を後世に繋ぐためにも、ボランティアセンター職員が全面的に支援し、今後もその活動を継続していきます。

3. ボランティア活動・2019年度の概要

昨年度までのボランティア活動は、言うまでもなく本学における建学の精神を重んじた「自主性」と「社会貢献」に資するものでした。2019年度は、昨年度の活動に一段と磨きをかけるとともに、新たな企画への取り組みを支援し、その継承と発展をめざして成長していく学生たちの姿を見ることができた一年でした。

市ヶ谷、多摩、小金井の各キャンパスに置かれたボランティアセンターでは、各キャンパスの特性に合わせて、ボランティアの基本的精神を尊重しつつ、学生の自由な発想から生まれた活動を大切に育てるという視点に立ち、その実現の可能性を高めるための助言に加え、安全性への目配りも忘れずに学生たちの活動を見守りました。

学生たちが展開した活動の舞台は、各キャンパスやその近隣地域に留まらず、地方の被災地など多岐にわたる現場がありました。私が主に携わった市ヶ谷ボランティアセンターにおける活動には、「(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する講座の実施」、「(2) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施」、「(3) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続」、「(4) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施（東京メトロ飯田橋駅ボランティア）」、「(5) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施」、「(6) 学生スタッフの育成」、「(7) 各キャンパスボランティアセンターの連携」などがあり、年間の企画数は約140プログラムにもなりました。

4. 市ヶ谷ボランティアセンターに芽生えた企画

前述の活動の中では、今後その継承と発展が期待されるプログラムの種がいくつも蒔かれ、そして芽生えました。例えば、チームオレンジによる被災地支援・防災啓発活動である「避難所体験」や「防災キャンプ」、VSPによる新しい視点を取り入れた「食べ物を求めてます〜フードドライブ（学祭）」、「性的マイノリティについて考える」「高齢者と音楽を通じて楽しく交流しよう」「日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう」「外濠の浚渫工事について知り環境問題改善について学ぶ」などの数々の企画は、いずれも学生たち自らが発案したものでした。

特筆すべき企画として、「防災キャンプ」は上級生の指導の下で1年生が企画運営した本年度が初めての大学での宿泊訓練でした。「食べ物を求めてます〜フードドライブ（学祭）」は、VSPとキャンパスエコロジー、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、チームオレンジの4団体が協力して行い、ボランティア・サークルの横のつながりを深めた企画で、どれも次年度以降の更なるプログラムの充実が期待されます。

さらに、チームオレンジとVSPの有志が多摩キャンパス・ボランティア・サークルの企画である「第6回大学生ボランティア写真展&イベント（報告会、パネル展示、物産展：2月15日）」の応援に駆けつけた件は、キャンパスという枠を超えた学内ボランティア活動の今後の連携を示唆する出来事で、3キャンパスの交流がさらに深められることを願っています。また、VSPによる「富士山外来種ボランティア」や「避難所体験」には、「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」の大学からの参加があり、ボランティア活動がコンソーシアム大学相互の連携強化に寄与する可能性を実感しました。

多摩キャンパスや小金井キャンパスにおいても「児童福祉」、「震災復興」、「環境保護」などを柱とした同様な活動が行われました。様々な現場で得られたボランティアの成果については、本誌の中でその詳細をお確かめいただければ幸いに思います。

5. 前代未聞の活動延期と中止

2019年度は、「3. ボランティア活動・2019年度の概要」で紹介した成果を得た一方で、中止や延期に追いやられた企画が少なからずありました。市ヶ谷ボランティアセンターにおいて涙をのんだ主な企

画は「千代田区ふれあい福祉祭り」、「富士山清掃トレイル整備ボランティアツアー（電通育英会助成事業）」などがそうです。

その原因は、近年の地球温暖化の影響が色濃く表れた予測不可能な多発的ゲリラ豪雨の発生、台風15号、19号などによる、まさに自然の猛威を目の当たりにさせられた自然災害が学生たちの企画をふいにしました。そして、さらに中国武漢に端を発する Covid-19 が世界に広がり、我が国でも 2020 年 2 月 3 日に横浜港へ入港したクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の一件から徐々に深まった感染防止の自粛を受け入れ、「富士見わんぱくひろば・アートフェスティバル」、「岩手・宮城スタディツアー」などの基幹プログラムを含め、3 月に予定されていたボランティア活動の全てが延期または中止という事態に至りました。

6. 次年度に向けて

Covid-19 の影響が長引けば、ボランティア・サークルの活動それ自体だけではなく、2020 年度のボランティア活動を準備してきた学生たちの士気やモチベーションの低下は避けられません。しかし、このような歴史的にも困難な状況においては、ピンチをチャンスに変えるという逆転の発想で新たな企画やこれまでの活動を継承するための方策を生み出すべく、ボランティアセンター職員が全力で学生たちを支援して下さると信じています。

ボランティア活動と言えば、物質的な支援、時間と体力を提供することだと受け止められがちですが、ボランティアは人の目に映るものばかりとは限りません。その場所に行かなくてもできるボランティア活動があるわけで、自分のペースで無理なく、自分で考えたボランティアに取り組めれば、今まで以上に活動の幅が膨らむかもしれません。

前述したゲリラ豪雨や台風以外にも、首都直下型地震に対する備えは本学としても今後必然的に取り組むべき課題です。万が一の時にはボランティア・サークルへのニーズも高まることが予想されます。このような課題への即答は大変難しいものですが、「学生たちと共にじっくり課題に向き合えるのはこのような時だからこそ可能だ」と、ボランティア活動の自粛が長引いた場合には腹をくくる必要があるかもしれません。

来る 2020 年度は、本学ボランティアセンターもその枠組みや仕組みを見直すチャンスという考え方もできます。例えば、3 キャンパスに分かれて活動していた同様な企画の連携を後押しできれば、マンパワーや時間を要していた活動準備の効率化がはかれ、規模の拡大も見込めます。また、「忘災させない！」をテーマとしたチームオレンジが継承する防災啓発活動の企画に 3 キャンパスが協力して取り組むとともに、その輪を各キャンパス近隣地域と力を合わせて進めることが可能となれば、学生たちの社会的貢献度はさらに高まります。ボランティアセンターは、人と人との繋がりを大切にできる学生を育み、次の 10 年に引き継ぎ発展させるための支援に今後も取り組んでいく所存です。次年度も皆様のご理解・ご支援を切にお願い申し上げます。

ボランティアセンターについて

1 活動内容

(1) ボランティアコーディネート（情報収集／情報提供）

大学に数多く寄せられるボランティア情報を審査し、学生が活動するのに適したボランティア情報を厳選して、掲示板／ラック／ファイリング／メールリスト等で公開しています。

(2) ボランティア活動促進

ボランティア講座などを実施しています。学生自ら企画、実践するボランティアプログラムやボランティア講座のサポートも行なっています。

(3) ボランティアサークル活動支援

ボランティアサークルの合同新入生説明会を行っています。また、各ボランティアサークルがイベント等を開催する際は、広報等で積極的に協力します。

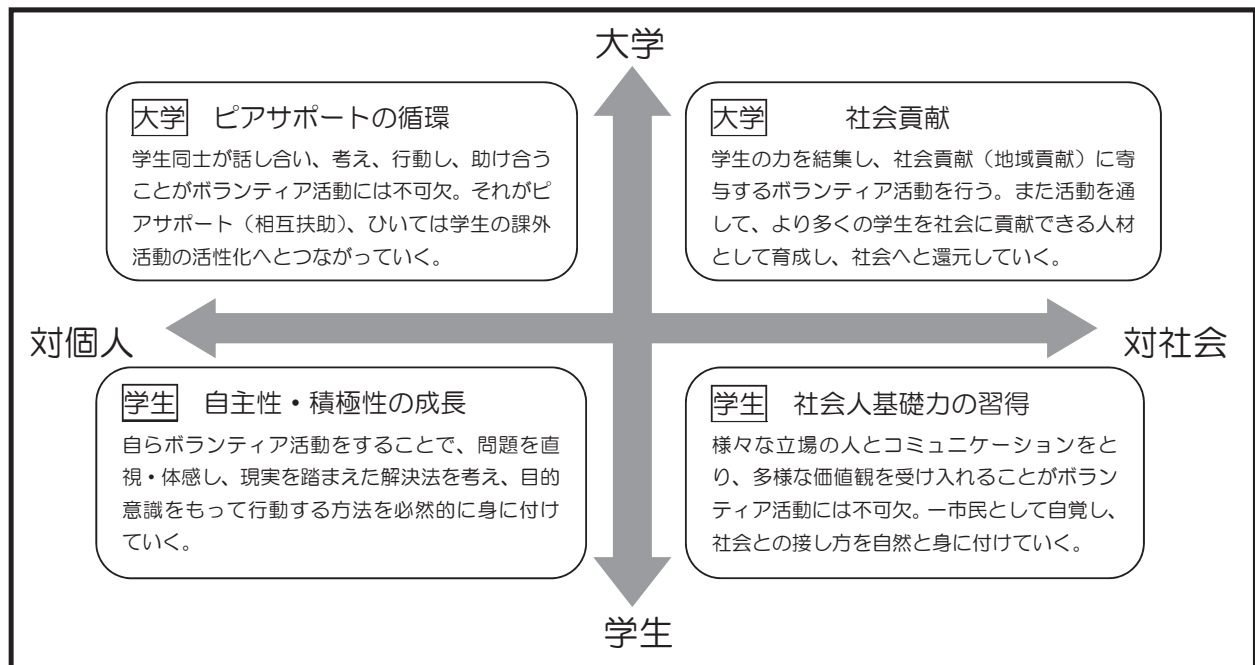
(4) 学内外ネットワークの構築

各キャンパス周辺地域やボランティア活動先の自治体、・教育機関・大学近隣の千代田区などと相互に連携を取り、地域貢献を主とする活動をしています。さらに学生スタッフが中心となり、他大学とも交流をはかっています。

(5) 学生スタッフの募集・育成

ボランティアセンターの運営に積極的に協力していただける学生スタッフを随時募集しています。また学生スタッフ育成のために、ボランティア体験ツアーの企画、一般学生も参加できるボランティア講座のほかスキルアップ講座なども実施しています。

2 ボランティアセンターの役割



3 ボランティアセンター全学運営委員会

日程：2020年3月19日

議題：各地区からの活動報告及び今後の活動計画、新型コロナウイルスの対応について、他

市ヶ谷ボランティアセンターについて

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要・・・・・・・・・・・・ 6

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会・・・・・・・・・・・・ 8

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計・・・・・・・・・・・・ 9

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー・・・・・・・・ 10

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告・・・・・・・・・・・・ 16

市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2019年度）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| （１）東京 2020 に関する講座の実施 | （５）学内イベントの継続的实施と見直しの実施 |
| （２）近隣の施設と連携した新規プログラムの実施 | （６）学生スタッフの育成 |
| （３）震災復興支援ボランティアの取り組みの継続 | （７）キャンパスボランティアセンターの連携 |
| （４）基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施 | |

2. プログラム数及び学生参加人数

2019年度活動の総プログラム数は142（中止含む）、総数学生参加者数は1656人となった。昨年に引き続きプログラム数は120を超え充実したが年間を通して充実した活動ができたといえる。

3. 2019年度活動の報告

（１）東京 2020 に関する講座の実施

東京 2020 組織委員会の要請をうけ、ボランティアセンターでは2018年度に続き「ユニバーサルマナーについて学ぼう～多様性の時代に～」 「それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？（性的マイノリティについて考える）」などの東京2020応援プログラムを29プログラム企画し、学内の東京2020大会の気運の醸成に貢献した。

（２）近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施

- 「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」に働きかけを行い「富士山外来植物駆除ボランティアツアー」や「避難所体験」などの企画に参加してもらった。
- 神田すずらん商店街振興組合が主催する「神田すずらん祭り」にポッチャの体験コーナーと防災クイズカルタを出展した。また荒川区社会福祉協議会が主催する「荒川区サントクロースプロジェクト」にも本学学生が主要メンバーとして加わり企画がらプログラムに参加した。その他「神保町ブックフェスティバル」「わんぱくこどもまつり」などにも協力をした。

（３）震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続

- 被災地ボランティア、被災地スタディツアーの継続実施
ボランティアセンター学生スタッフが主体となり「福島スタディツアー」「東北被災地ボランティアツアー」を継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深め風化防止に貢献することができた。
- 学外での防災啓発活動
チーム・オレンジオリジナルの防災クイズカルタを使い「防災ゲーム DAY」や「未来の防災リーダー」などの学外のイベントで防災啓発活動を行った。
- 学内での被災地支援・防災啓発活動の実施
被災地に売り上げの一部を募金できるオリジナルグッズの制作・販売を行った。また「法政フェア」では被災地に足を向けてもらうために魅力を発信するパネルを展示した。また、本年度初めて大学での宿泊訓練である「防災キャンプ」も実施した。

（４）基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施

- 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

2018年度に引き続き、東京メトロと連携し大学周辺にある飯田橋駅の安全性の向上と「見守る目」の強化のため、本学学生が介助を必要とする駅利用者へのお声かけ、道案内などのボランティアを実施した。ボランティア活動を行うにあたり研修を受け、学生たちの都合のよい時間に各々が飯田橋駅を訪ね、ボランティア活動を実施した。また毎月1回、活動後に定例会を行った。また、今年度は東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフによる企画「目の不自由な方のサポートについて学ぼう」や外国人に対しても案内できるよう「ASK・ME」の腕章の作成など駅ボランティアに係る企画も精力的に行った。

●継続実施活動

キャンパス周辺清掃、九段・靖国清掃や富士山でのボランティア活動などの継続ボランティア活動は引き続き今年度も実施した。また、エコキャンプの回収活動に関しても回収BOXを新調し、配置場所を見直して継続的に活動を行っている。また、パラスポーツの普及活動もポッチャをはじめゴールボール、車いすラグビーなどを引き続き実施を行った。

(5) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施

学生の発案で新規企画「食べ物を求めてます〜フードドライブ（大学祭）」「それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？（性的マイノリティについて考える）」「高齢者と音楽を通じて楽しく交流しよう」「日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう」「外濠の浚渫工事について知り環境問題改善について学ぶ」等の新しい視点を取り入れた企画を実施、学内に提供することができた。

(6) 学生スタッフの育成

●学生スタッフ研修の継続実施

8月及び12月にピアネット研修会を行い学生スタッフが参加した。

●学生イベントの企画・運営支援

学生スタッフが毎週開催するミーティング（VSP、チーム・オレンジ）への参加や、各プロジェクトごとの打ち合わせに職員が同席、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて企画の促進やアドバイス、相談等を行った。

(7) キャンパスボランティアセンターの連携

全学ボランティアセンター運営委員会を2020年3月に実施し、各キャンパスの活動報告を行った。また他大学と連携として六大学連絡協議会を7月に中央大学で行った。

4. その他（2019年度活動の特徴）

- 今年度は自然災害など（台風15、19号、新型コロナウイルス）による企画の中止などが相次いで発生した。一部企画は日程を変更して実施することができたが、富士山トレイル整備ボランティアツアーや岩手・宮城被災地スタディツアーなど中止となった企画も9つあった。
- 2019年度12月より「災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金」の制度が新たに設立され2019年度に関しては10名の学生が本制度を利用した。
- 本年度は、「Oluolu 発達障がい児サッカー教室」「北区まなび場 Let's study（外国にルーツを持つ児童の学習援助）」「バイタルプロジェクト（子供食堂）」などの外部団体のボランティア活動への参加が活発になった。また、これらのボランティア活動を通して、外部団体と協力した「バイタルプロジェクトで廃油石鹸づくり」企画や活動から問題提起をした学内イベント「日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう」等も実施することができた。
- 市ヶ谷キャンパスにおいては各団体内の相互協力による新入生向けの「ボランティア説明会」や大学祭での「フードドライブ」、中止にはなったがVSP主催のペイラー大学との合同ボランティア活動で他団体が一部協力を行う等「団体内の横のつながり」が確立されてきたといえる。

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議 題
第 1 回	4 月 25 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（助成金の採択について、フェアウェル Day、ボランティア説明会、春のボランティア WEEK、その他）：VSP（ベイラー大学との合同ボランティアツアー、エコキャップ DE キャンパスツアー、資源のムダについて考えよう、その他）：チーム・オレンジ（災害ボランティア図上訓練、子ども達と防災を楽しく学ぶ、岩手・宮城スタディツアーについて、その他）：ボラセン関連（メトロボランティア活動報告会、春の「まちのわ」）今後の予定。
第 2 回	5 月 24 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（神田すずらんまつり、4 団体合同ミーティング、新入生の入会状況について）：VSP（資源のムダについて考えよう、エコキャップの業者引き渡し、子ども食堂ボランティア、富士山外来植物駆除ボランティア、犬から教わる幸せ・ドッグセラピー、移民企画、ユニバーサルマナー、発達障害企画、ゴールボール体験会、その他）：チーム・オレンジ（遠野ボランティアツアーの打合せ、グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進、避難所体験、防災ゲーム Day、ファシリテーション講座、その他）：ボラセン関連（インクルーシブデザインワークショップ、OluOlu の参加者募集について、東京メトロ活動について）今後の予定。
第 3 回	6 月 28 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（神田すずらんまつり、4 団体合同ミーティング）：VSP（犬から教わる幸せ・ドッグセラピー、OluOlu ボランティア、荒川区道遊びボランティア、ユニバーサルマナー、自閉症スペクトラム障がいについて、ゴールボール体験教室、高齢者と音楽を通して交流しよう、富士山清掃・トレイル整備ボランティア、その他）：チーム・オレンジ（被災地で働くを考える、避難所体験、防災ゲーム Day、ファシリテーション講座、防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー、法政フェア、防災キャンプの進捗、その他）：ボラセン関連（ブラインドサッカー、外国人おもてなしボランティア、東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会、災害救援ボランティア講座、ピアネット研修会、6 大学ボランティア連絡会議、総長との座談会）今後の予定。
第 4 回	7 月 29 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（ピアネット研修会、4 団体ミーティングについて）：VSP（OluOlu ボランティア、ゴールボール体験教室、CKS 夏祭りポッチャ体験、キャンエココラボ・フードバンク、3 キャンパス清掃ツアー、高齢者と音楽を通じて交流しよう、荒川区の縁日イベント、高円寺子ども食堂、ユニバーサルシアター、MIW まつり、外濠浚渫工事、お寺での清掃&坐禅（中止）、富士山清掃・トレイル整備（中止）、車いすラグビー企画、その他）：チーム・オレンジ（避難所体験、防災ゲーム Day、ファシリテーション講座、防災リーダー、東北被災地ボランティアツアー、法政フェア、防災キャンプ、その他）：ボラセン関連（災害救援ボランティア講座、6 大学ボランティア連絡会議、日本盲人会連合の三宅氏と飯田橋駅構内を歩いてみよう、総長との座談会）今後の予定。
第 5 回	9 月 27 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（各団体の交代について）：VSP（キャンエココラボ・フードバンクについて、浚渫工事見学会、3 キャンパス清掃ツアー、高齢者と音楽を通して交流しよう、荒川区の縁日イベント、OluOlu ボランティア、高円寺子ども食堂、ユニバーサルシアター、MIW まつり、外濠の浚渫工事について知り環境問題について学ぶ、お寺の清掃と坐禅、富士山清掃・トレイル整備、車いすラグビー、大学祭期間中のポッチャ、その他）：チーム・オレンジ（防災リーダー、気仙沼児童館でのボランティア、東北被災地ボランティアツアー、法政フェア、防災キャンプ、HU 共同企画（グッズ販売）、福島スタディツアー、その他）：ボラセン関連（日本盲人会連合の三宅氏と飯田橋駅構内を歩いてみよう、総長との座談会、手話講座について、エコキャップ回収 BOX の交換について）今後の予定。
第 6 回	10 月 27 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（各団体の交代について）：VSP（ユニバーサルシアター、MIW まつり、外濠の浚渫工事を知り環境問題について学ぶ、車いすラグビー、わんぱくこどもまつりボランティア、北とびあで行う移民の子供への学習ボランティア、大学祭期間中のポッチャ体験、キャンエココラボ・フードバンク、性的マイノリティについて考える、移民に関する講義、荒川区クリスマスボランティア、お寺での清掃と坐禅、富士山清掃・トレイル整備、OluOlu ボランティア、田町校舎での活動、その他）：チーム・オレンジ（防災キャンプ、HU 共同企画（グッズ販売）、日中友好事業での中国学生向けプレゼン、教職員対象の防災訓練、福島スタディツアー、その他）：ボラセン関連（日本盲人会連合三宅氏と飯田橋駅構内を歩いてみよう（中止）、総長との座談会、手話講座、ピアネット研修、台風 15、19 号助成金関連）、今後の予定。
第 7 回	11 月 22 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（各団体の交代について）：VSP（わんぱくこどもまつりボランティア、北とびあで行う移民の子供への学習ボランティア、大学祭期間中のポッチャ体験、キャンエココラボ・フードバンク、性的マイノリティについて考える、移民に関する講義、お寺での清掃と坐禅、バイタルプロジェクトと行う廃油石鹸づくり、荒川区クリスマスボランティア、子ども食堂で行うクリスマスボランティア、ベイラー大学との合同ボランティア、その他）：チーム・オレンジ（防災キャンプ、HU 共同企画（グッズ販売）、日中友好事業での中国学生向けプレゼン、教職員対象の防災訓練、福島スタディツアー、その他）、今後の予定。
第 8 回	12 月 20 日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：共通（ピアネット研修について、ガイダンス期間に行われる説明会及び宣伝について）：VSP（移民に関する講義企画、お寺での清掃と坐禅、バイタルプロジェクトと行う廃油石鹸づくり、荒川区クリスマスボランティア、子ども食堂で行うクリスマスボランティア、ベイラー大学との合同ボランティア、富士山トレイル整備ボランティアツアー、その他）：チーム・オレンジ（HU 共同企画（グッズ販売）、日中友好事業での学生向けプレゼン、教職員対象の防災訓練について、福島スタディツアー、気仙沼児童館ボランティア、岩手・宮城被災地スタディツアー、アートフェスティバル、その他）：ボラセン関連（手話講座、日本視覚障害者団体連合三宅氏による講演、台風 19 号に伴うボランティア活動について、東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会について、その他）：今後の予定。

【付記】

- 運営委員会は市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。
- ボランティア依頼審査は、審査基準（2011 年 4 月作成・一部 2019 年改定）に照らし合わせて判断。

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他（人）	相談数（件）※	開室日数（日）
4月	359	348	11	72	20
5月	313	307	6	47	21
6月	259	252	7	53	21
7月	242	233	9	56	21
8月	82	76	6	6	16
9月	169	161	8	28	21
10月	393	372	21	84	23
11月	347	327	20	61	20
12月	200	190	10	47	19
1月	166	162	4	32	17
2月	86	78	8	12	15
3月	54	51	3	9	21
合計	2,670	2,557	113	507	235

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

2019 年度 市ヶ谷ボランティアセンター イベントカレンダー

実施日	イベント・講座・訪問先	団体名、講師、協力先
4月6日(土)	ボランティア説明会	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア 各スタッフ
4月8日(月)～12日(金)	春のボランティア WEEK	学生6ボランティアサークル (VSP、チーム・オレンジを含む)
4月10日(水)	公益財団法人キリン福祉財団「キリン・福祉のちから開拓事業」助成金表彰式	公益財団法人 キリン福祉財団、チーム・オレンジ代表者
4月13日(土)～5月31日(金)の期間8回	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティアの活動見学会	東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
4月15日(月)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4月16日(火)	エコキャップ DE キャンパスツアー	VSP
4月19日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
4月23日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4月24日(水)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
4月27日(土)	資源のムダについて考えよう リサイクルペーパーのゆくえと環境保護	VSP
5月14日(火)	オリンピックの映像わたしたちが作ります (OBS)	オリンピック放送機構 (OBS)、本学学生
5月15日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
5月17日(金)	[東京 2020 応援] インクルーシブデザインワークショップ	インクルーシブデザイン・ソリューションズ
5月18日(土)	高円寺子ども食堂ボランティア	高円寺子ども食堂、VSP
5月19日(日)	<電通育英会助成事業> (千代田区コンソーシアム協力・三大学連携協定) [東京 2020 応援] 富士山外来植物駆除ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
5月20日(月)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
5月23日(木)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
5月24日(金)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
5月25日(土)	第32回神田すずらん祭りボランティア	神田すずらん通り商店街振興組合、神田すずらんまつり実行委員会、VSP、チーム・オレンジ
5月26日(日)	川口市の日本語ボランティア見学	川口市、VSP
5月27日(月)	[東京 2020 応援] 犬から教わる幸せ～ドッグセラピーの可能性を知ろう～	NPO 法人セラビードッグすまいるわん、VSP
5月28日(火)	4 団体合同ミーティング (説明会の反省会)	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア 各スタッフ
5月30日(木)	[東京 2020 応援] ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	日本ブラインドサッカー協会、VSP
6月1日(土)	<東京都・法政大学ボランティアセンター共同実施> 外国人おもてなしボランティア講座	東京都
6月2日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
6月5日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6月8日(土)	荒川区道あそびボランティア	荒川区社会福祉協議会、VSP
6月8日(土)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会①	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月10日(月)	[東京 2020 応援] ユニバーサルマナーについて学ぼう～多様性の時代に～	株式会社ミライロ、VSP
6月15日(土)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会②	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月15日(土)、22日(土)、29日(土)	災害救援ボランティア講座 (千代田区助成事業)	災害救援ボランティア推進委員会
6月19日(水)	[東京 2020 応援] 自閉症スペクトラム障がいについて考えよう	特定非営利活動法人 ADDS 加藤愛理氏、VSP
6月20日(木)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
6月20日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
6月24日(月)	[東京 2020 応援] 被災地で働くを考える～仕事として被災地を支え、地域を作るとは～	遠野・山・里暮らしネットワーク、チーム・オレンジ卒業生、チーム・オレンジ
6月25日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6月25日(火)	4 団体合同ミーティング①	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、メトロボランティア 各スタッフ
6月28日(金)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
6月29日(土)	ピアネット研修会	ピアネット所属の団体
6月30日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
7月2日(火)	[東京 2020 応援] 頭で考えるな。身体で感じる。ゴールボール体験教室	ゴールボール日本代表主将 信澤用秀氏、国際審判員 小野和人氏、VSP
7月6日(土)	(コンソーシアム協力) [東京 2020 応援] いざという時、あなたならどうしますか。避難所体験	チーム・オレンジ
7月7日(日)	防災ゲーム Day	防災教育普及協会、災害救援ボランティア推進委員会、チーム・オレンジ
7月8日(月)	主体性を育む ファシリテーション講座	鈴木まり子氏、チーム・オレンジ
7月9日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
7月10日(水)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
7月15日(月)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
7月19日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
7月24日(水)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
7月28日(日)	北区学び場 Let's study	北区学び場 Let's study、VSP
8月3日(土)	千代田区未来の防災リーダー	千代田区 政策経営部 災害対策・危機管理課、チーム・オレンジ
8月5日(月)～7日(水)	フードバンク	VSP、キャンパスエコロジーフォーラム
8月6日(火)～8日(木)	<キリン福祉財団助成事業> 東北被災地支援ボランティアツアー下見 (チーム・オレンジ)	チーム・オレンジ遠野班
8月6日(火)～8日(木)	気仙沼児童館ボランティア (チーム・オレンジ)	チーム・オレンジ
8月7日(水)	第10回外濠市民塾「外濠浸水工事見学会」	エコ地域デザイン研究センター協力、外濠市民塾実行委員会主催、VSP
8月8日(木)	「夏」の大清掃、3 キャンパス清掃	VSP
8月9日(金)	<キリン福祉財団助成事業> 東北被災地ボランティアツアー事前説明会	チーム・オレンジ
8月19日(月)～23日(金)	<キリン福祉財団助成事業> 東北被災地ボランティアツアー (38、39 次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ

概要	場所	学生参加者数	(内) 留学生数
ボランティア4団体の合同説明会	富士見ゲート G502 教室	100	—
学内ボランティアサークルの新入生勧誘（活動紹介&説明会）	外濠校舎 1 階メディアラウンジ	50	—
平成 3 1 年度キリン・地域のちから応援事業助成金贈呈式	中央区 キリン日本橋ビル	1	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の見学会	東京メトロ飯田橋駅構内	34	3
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	16	1
新入生と VSP メンバーでエコキャップを回収しながら、新入生に大学構内案内をする	外濠校舎、富士見坂校舎	12	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	6	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	外濠校舎 102 会議室	4	0
過剰な新歓ビラに関する学生の自主企画（2019 年度 10,000 枚回収）	斉藤英次商店 柏沼南営業所（柏市）	6	0
オリンピック放送機構による活動紹介とサポートスタッフ募集説明会	BT26 階スカイホール	119	—
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	14	0
プロセスの上流から巻き込むデザイン手法（インクルーシブデザイン）について学ぶ	外濠校舎 526 会議室	17	2
子ども食堂でのボランティア	高円寺子ども食堂（杉並区）	4	0
富士山麓に生息する侵略的外来種（植物）などの駆除作業と、樹海のトレッキング活動、コウモリ穴見学	富士山麓	38	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	雨天中止	
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	13	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	6	0
地域貢献ボランティア活動、神田すずらんまつりでパラリンピック正式種目ボッチャについての紹介、防災クイズカルタの紹介	千代田区神田すずらん通り	29	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり（見学）	川口市	3	0
セラピードッグについての講義と触れ合い体験、アニマルセラピーを学ぶ	外濠校舎 526 会議室	29	4
4 団体合同説明会の反省会	外濠校舎 526 会議室	6	0
ブラインドサッカーに関してゲームを通しチームビルディングを学ぶ	富士見坂体育館	15	0
東京 2020 をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	大内山校舎 Y604 教室	52	4
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	4	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	8	0
荒川区の商店街のおまつりでのボランティア	荒川区はっぴいもーる商店街	11	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修	外濠校舎 526 会議室、東京メトロ飯田橋駅	13	0
障がいのある方々に対しての心づかいを学ぶ	外濠校舎 526 会議室	7	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修	外濠校舎 526 会議室、東京メトロ飯田橋駅	15	1
災害模擬体験と実技、災害時のチームビルディングとリーダーシップについて学ぶ	大内山校舎 Y402 教室、本所防災館、市ヶ谷総合体育館	30	2
自閉症スペクトラム障がいについての知識を身につける、講義とワークショップ	外濠校舎 526 会議室	9	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	5	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	4	0
被災地復興のために働くとは、被災地支援を活かしたキャリア形成	外濠校舎 526 会議室	26	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	14	0
4 団体合同ミーティング	外濠校舎 527 会議室	12	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	5	0
ピアニネットに所属する団体の発表と懇親会	ポアソナードタワー 26 階スカイホール	22	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	4	0
ゴールボールを体験し、障がい者スポーツについて学ぶ	富士見坂体育館	17	3
非常食の試食、避難所運営ゲームで防災についての知識を身につける	大内山校舎 Y803、804 教室	15	1
防災教育普及協会からの要請による防災イベントで防災カルタを出展	有明 東京臨海広域防災公園そなエリア 東京	5	0
防災・減災対策の一環として災害の現場でのファシリテーターの重要性を学ぶ	外濠校舎 526 会議室	15	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎・外濠校舎 106 会議室（分別）	9	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	11	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	1	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	雨天中止	
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	8	1
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	1	0
千代田区主催の子供向け防災イベント、防災クイズカルタ体験	千代田区役所	10	0
フードバンク（学祭に向けての試行）	富士見坂教授室、58 年館入口	2	0
東北被災地支援ボランティアツアー下見	陸前高田市、大槌町	3	0
気仙沼児童館での子どもボランティア	気仙沼市 気仙沼児童館	11	0
飯田橋～小石川橋までの浚渫工事の見学	大内山校舎 Y804 教室、外濠 新見附橋～飯田橋	4	0
市ヶ谷、多摩、小金井 3 キャンパスを 1 日で回り清掃	市ヶ谷キャンパス、多摩キャンパス、小金井キャンパス	11	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア事前説明会	外濠校舎 526 会議室	35	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	陸前高田市、大槌町	20	0

8月22日(木)～26日(月)	＜キリン福祉財団助成事業＞東北被災地ボランティアツアー（40、41 次隊）	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8月27日(火)	[東京 2020 応援] 千代田キャンバスコンソーシアム協力 高齢者と音楽を通じて楽しく交流しよう	千代田区立高齢者総合サポートセンター かがやきプラザ、VSP
9月7日(土)	荒川区緑日大会～お祭り～ポッチャ体験会（荒川区社会福祉協議会）	荒川区社会福祉協議会、VSP
9月9日(月)	[東京 2020 応援] 目の不自由な方のサポートについて学ぼう（三宅氏講演&メトロ構内見学）	日本視覚障害者団体連合 三宅氏、東京メトロ、飯田橋駅ボランティアスタッフ
9月14日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
9月15日(日)	法政フェア	チーム・オレンジ
9月19日(木)	総長との座談会	田中優子総長、VSP、チーム・オレンジ、教プロ、新聞学会（各1名）
9月20日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
9月21日(土)	高円寺子ども食堂ボランティア（ポッチャ体験）	高円寺子ども食堂、VSP
9月23日(月・祝)	＜キリン福祉財団助成事業＞東北被災地ボランティアツアー報告会	チーム・オレンジ、ボランティアツアー参加学生
9月24日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
9月25日(水)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
9月25日(水)	キャンバス周辺清掃ボランティア	VSP
10月1日(火)	4 団体合同ミーティング②	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、メトロボランティア 各スタッフ
10月2日(水)	[東京 2020 応援] ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画	シティ・ライツ、シネマチュブキタバタ、VSP
10月3日、10日、24日、11月7日、14日、21日、28日、12月5日(木)	手話講座（入門編）	NHK 手話キャスター中野佐世子氏
10月5日(土)	MIW 祭り（ポッチャ体験会）	VSP
10月7日(月)	[東京 2020 応援] オリニピックとドーピング	法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート、近藤良孝氏、伊藤マモル教授
10月9日(水)	[東京 2020 応援] 外濠の浸透工事について知り環境問題改善について学ぶ	小柳建設株式会社、VSP
10月12日(土)	お寺をきれいにしついでに心も（坐禅企画）	新宿区大龍寺、VSP
10月12日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
10月12日(土)	千代田区ふれあい福祉祭り	第17 回ふれあい福祉まつり実行委員会、VSP
10月13日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
10月15日(火)	キャンバス周辺清掃ボランティア	VSP
10月18日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
10月19日(土)～20日(土)	＜電通育英会助成事業＞富士山清掃・トレイル整備ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
10月23日(水)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
10月23日(水)	[東京 2020 応援] 車いすラグビーから学ぶパラリンピック競技の魅力	日本車いすラグビー連盟 福井正浩氏、VSP
10月24日(木)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
10月26日(土)・27日(日)	神保町ブックフェスティバル	神保町ブックフェスティバル実行委員会、VSP
10月26日(土)	(千代田キャンバスコンソーシアム協力) 富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり」ボランティア	千代田区ふじみわんぱくひろば、パフォーマンスサークルすだま、児童文化研究会
10月27日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
10月27日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
11月1日(金)～4日(月)	食べ物を求めてます～フードドライブ（大学祭）	VSP、キャンバスエコロジーフォーラム
11月1日(金)	ポッチャ企画（大学祭）	VSP、学祭実行委員会
11月5日(火)	キャンバス周辺清掃ボランティア	VSP
11月9日(土)～10日(日)	防災キャンプ	防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ
11月14日(木)	[東京 2020 応援] それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？（性的マイノリティについて考える）	国際文化学部専任講師 岩川ありさ氏、VSP
11月16日(土)	＜東京都・法政大学ボランティアセンター共同実施＞外国人おもてなし語学ボランティア講座	東京都
11月18日(月)～11月22日(金)	千代田区キャンバスコンソーシアム	法政大学教学企画課、VSP
11月20日(水)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
11月22日(金)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
11月24日(日)	2019 年度中国大学生友好交流訪日団「環境・防災セミナー」プレゼンテーション	公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）主催「環境・防災セミナー」
11月25日(月)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
11月25日(月)～11月29日(金)	HOSEI SDG s WEEK ポスターセッション	HOSEI SDGs WEEK、VSP
11月26日(火)	4 団体合同ミーティング③	VSP、チーム・オレンジ、キャンエコ、メトロボランティア 各スタッフ
11月28日(木)	チーム・オレンジが教える秋学期防災訓練	庶務課、チーム・オレンジ
11月28日(木)	日本に暮らす外国人のサポートについて学ぼう	聖心女子大学非常勤講師 加藤丈太郎氏、VSP
12月3日(火)～2月28日(金)	[新設] 2019 年災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金募集	台風15、19号災害等による被災地支援（学内応募者）
12月7日(土)	お寺をきれいにしついでに心も（坐禅企画）（振替）	新宿区大龍寺、VSP
12月8日(日)	[東京 2020 応援] 福島スタディツアー	チーム・オレンジ
12月10日(火)	キャンバス周辺清掃ボランティア	VSP
12月11日(水)	[東京 2020 応援] 目の不自由な方のサポートについて学ぼう（振替）	日本視覚障害者団体連合 三宅氏、東京メトロ、飯田橋駅ボランティアスタッフ
12月14日(土)	ピアネット研修会	ピアネット所属団体
12月15日(日)	荒川サントクロースプロジェクト（荒川区社会福祉協議会・汐入おもちゃ図書館）	荒川区社会福祉協議会、VSP
12月15日(日)	荒川区 バイタルプロジェクト廃油石鹸づくり	バイタルプロジェクト（吉まぐれ屋）、VSP
12月18日(水)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
12月18日(水)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
12月20日(金)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
12月21日(土)	高円寺子ども食堂クリスマス会で子どもと遊ぼう	高円寺子ども食堂、VSP
12月22日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP

岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	陸前高田市、大槌町	20	0
高齢者の方達との楽器演奏＆合唱を通じた触れ合いボランティア	千代田区高齢者総合サポートセンター	18	0
荒川区の商店街のおまつりでポッチャ体験会	荒川区ジョイフル三ノ輪商店街	3	0
講義と体験を通じて、視覚障がいのある方へのサポートを学ぶ	外濠校舎 526 会議室・東京メトロ飯田橋駅	台風のため延期	
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	2	0
東北のイメージアップ、被災地支援のためのパネル展示、防災クイズカルタ体験	外濠校舎	9	0
田中総長との対談、雑誌 HOSEI に掲載	ボアソナードタワー 25 階スタッフクラブ	4	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	3	0
子ども食堂ボランティア、バラスーツポッチャを子ども達に紹介	高円寺子ども食堂（杉並区）	3	0
各隊の被災地での活動報告、ふりかえり	大内山校舎 Y402 教室	35	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	3	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	3	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	12	0
4 団体合同ミーティング	富士見坂校舎 F408 教室	8	0
視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターについて学ぶ	北区田端 シネマチュブキタバタ	12	0
手話講座入門（手話ゲームブック）歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ	大内山校舎 Y504 教室	35	0
千代田区地域貢献ボランティア MIW 祭りでのポッチャ体験イベントを行う	千代田区役所 男女共同参画センター MIW（ミユウ）	4	—
スポーツに関わる学生にアンチ・ドーピングの重要性を伝える	ゲート棟 G401 教室	102	—
浅瀬工事の概要や環境問題について講義、ワークショップ	外濠校舎 526 会議室	33	0
清掃活動、座禅体験、ボランティアについての講話	新宿区 起雲山大龍寺	台風のため延期	
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	台風のため中止	
福祉まつりの緑日ブースお手伝い	千代田区役所かがやきプラザ	台風のため中止	
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	台風のため中止	
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	雨天中止	
富士山トレイル整備と清掃（宿泊）	富士山麓周辺	台風の影響により延期	
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	11	0
バラスーツ車いすラグビーの体験と障がい者スポーツについて学ぶ	富士見坂体育館	17	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	4	0
神保町のブックフェスティバルの運営等のお手伝いボランティア	千代田神田神保町すずらん通り	19	0
千代田区の児童施設でのハロウィンイベントでの受付や演奏、マジックや歌などのボランティア	千代田区富士見わんぱくひろば	23	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	3	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	2	0
正門前にてフードバンクを行い、大学寮中に出た食料をセカンドハーベストジャパンへ送付	富士見ゲート正面	2	0
学生ラウンジにてポッチャ体験	富士見ゲート棟学生ホール	8	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	5	0
外濠校舎 1 階メディアラウンジ等を使用し、首都直下地震を想定したキャンブ	外濠校舎メディアラウンジ等	17	0
性的マイノリティについての講座とワークショップ	外濠校舎 526 会議室	14	0
東京 2020 をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	大内山校舎 Y604 教室	35	0
千代田区キャンパスコンソ大学のポスター掲示	外濠校舎メディアラウンジ	—	—
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	3	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	5	0
2019 年度中国大学生友好交流訪日団に向けて、防災の試みについてのプレゼンテーション	港区 AP 浜松町	3	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎、田町校舎	15	0
SDG s に関する企画の紹介ポスター展示	外濠校舎メディアラウンジ	—	—
4 団体合同ミーティング	外濠校舎 529 会議室	7	0
避難所運営ゲームを通じて職員に向けての防災啓発	外濠校舎 526 会議室	10	0
日本で暮らす外国人のサポートについて考える講義とワークショップ	外濠校舎 526 会議室	27	2
災害地へのボランティア参加学生への交通費、保険費の補助	—	10（申請者数）	—
清掃活動、座禅体験、ボランティアについての講話	新宿区 起雲山大龍寺	18	0
福島被災地をめぐる学ぶツアー	福島県いわき市、相双地区	38	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
講義と体験を通じて、視覚障がいのある方へのサポートを学ぶ	外濠校舎 526 会議室、外濠校舎	7	0
ピアニストに所属する団体の発表と懇親会	大内山校舎 7 階 Y705 教室、BT 地下 1 階フォレストガーデン	17	0
クリスマスにサンタクロースに扮して子ども達を楽しませるボランティア	荒川区 汐入おもちゃ図書館	3	0
廃油による石鹸づくりを通して環境保護を子ども達に教える	荒川区 吉まぐれ屋	7	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	東京メトロ飯田橋駅	6	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎、田町校舎	4	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	4	0
子ども食堂ボランティア、子ども達と一緒にピアノ演奏でクリスマスソングを歌う	高円寺子ども食堂	8	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	3	0

12月24日(火)	荒川サタクロースプロジェクト(荒川区社会福祉協議会・あらかわおもちゃ図書館)	荒川区社会福祉協議会、VSP
12月25日(水)	荒川サタクロースプロジェクト(荒川区社会福祉協議会・おく銀座おもちゃ図書館)	荒川区社会福祉協議会、VSP
12月26日(木)～28日(土)	気仙沼児童館ボランティア(チーム・オレンジ)	チーム・オレンジ
12月中旬	チームオレンジ被災地応援グッズ企画	HU、チーム・オレンジメンバー
12月27日(金)	大和証券福祉財団「第26回ボランティア活動助成」贈呈式	大和証券福祉財団、チーム・オレンジメンバー(1名)
1月9日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
1月12日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
1月19日(日)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
1月20日(月)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
1月20日(月)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
1月24日(金)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
2月16日(日)	北区まなび場 Let's study	北区まなび場 Let's study、VSP
2月20日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
2月22日(土)	富士見わんぱくひろば「アートフェスティバル」	富士見わんぱく広場、伊藤口ポット研究室、Bebap
2月25日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
2月29日(土)	OluOlu 発達障がい児サッカー教室	OluOlu、品川区特別支援学校体育館、VSP
3月1日(日)～4日(水)	岩手・宮城スタディツアー	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
3月5日(木)	[東京 2020 応援] 東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会	東京メトロ、ケアフィット共有機構、日本視覚障害者団体連合、千代田区社協、メトロスタッフ
3月8日(日)～10日(火)	バイラー大学との合同ボランティアツアー	バイラー大学(テキサス州)、荒川区社会福祉協議会、国際交流課、富士見わんぱく広場、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、キャンエコ、チーム・オレンジ、VSP
3月16日(月)	<電通育英会助成事業>(千代田区キャンパスコンソーシアム協力)[3大学連携協力協定]富士山トレイル整備ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
3月17日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
3月19日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
3月26日(木)	[東京 2020 応援] 東京メトロ本社訪問	東京メトロ、飯田橋駅ボランティアスタッフ

142プログラムに1,658名参加(学生のみカウント)

クリスマスにサンタクロースに扮して子ども達を楽しませるボランティア	荒川区 あらかわおもちゃ図書館	1	0
クリスマスにサンタクロースに扮して子ども達を楽しませるボランティア	荒川区 おぐ銀座おもちゃ図書館	2	0
気仙沼児童館での子どもボランティア	宮城県気仙沼市気仙沼児童館	5	0
チーちゃんオーレくんのポーチ、エコびよんのエコバッグ（売上の一部を被災地へ募金）	法政大学オリジナルグッズショップ	2	0
大和証券福祉財団「令和元年度（第26回）ボランティア活動助成」贈呈式出席	グランドトウキョウ ノースタワー	1	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	5	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	3	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	1	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	2	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎	7	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月1回）	東京メトロ飯田橋駅・外濠校舎	6	0
日本語を母語としない子ども達の学習支援、居場所づくり	北区北トピア	3	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	3	0
テーマ「音と光」に沿ったパフォーマンス	千代田区富士見わんぱくひろば	コロナウィルス感染防止のため中止	
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	9	0
障がい児サッカー教室でのスポーツボランティア	品川区特別支援学校体育館	コロナウィルス感染防止のため中止	
岩手県遠野市、釜石市・宮城県気仙沼でのスタディツアー	岩手県釜石市、宮古市、陸前高田市、宮城県気仙沼市など	コロナウィルス感染防止のため中止	
今年度の活動報告など	大内山校舎 Y401 教室	コロナウィルス感染防止のため中止	
海外交流協定大学ベイラー大学の学生と日本でのボランティアを体験（子ども食堂・おもちゃ図書館）、東京観光、日本食文化体験など	大学構内、東京メトロ飯田橋駅、荒川区バイタルプロジェクト、富士見わんぱくひろば、外濠周辺など	コロナウィルス感染防止のため中止	
富士山麓のトレイル整備ボランティアツアー、富士山麓の環境学習もあり	富士山麓	コロナウィルス感染防止のため中止	
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動	外濠周辺	コロナウィルス感染防止のため中止	
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	靖国通り周辺、九段商店街	コロナウィルス感染防止のため中止	
飯田橋駅ボランティアスタッフによる本社訪問、次年度についての打合せ	東京メトロ本社ビル	コロナウィルス感染防止のため中止	

1. ボランティア説明会

1. 日 程 2019年4月6日(土)

2. 場 所 富士見ゲート G502 教室

3. 概 要

説明会に参加したボランティア団体は、VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、キャンパスエコロジーフォーラムの4団体でした。

今回のボランティア説明会は2部制となっており、前半は各団体の説明、後半は団体ごとにブースを設置して個別相談を実施しました。

前半は、持ち時間5～10分程度で団体の特徴や活動内容を新入生に分かりやすいようスライドや動画を用いて工夫しながら新入生に説明をしました。

後半は、新入生が興味を持ったブースで不安な点や疑問点を質問したり、先輩の話を聞いている姿が多く見られました。

今回のボランティア説明会は企画段階から各団体の代表者が集まり、どのように広報すればより興味を持った学生の来場を促せるのか、どのような方法で開催すればより新入生に団体の魅力が伝わるのか、を考えて実施しました。当日の司会・進行、設営も学生が主体となって行いました。説明会の開催は初の試みでしたが、80名以上の新入生の参加があり盛況のうちに終了することができました。

4. 学生参加者数 100名

5. 企画学生の感想

想像以上に多くの新入生が来場し、チーム・オレンジや、他の団体について知っていただいていたことが良かったです。私自身他の団体については知らないことも多かったのでここで知ったことをボランティアウィークでの説明に活かすことができ良かったです。

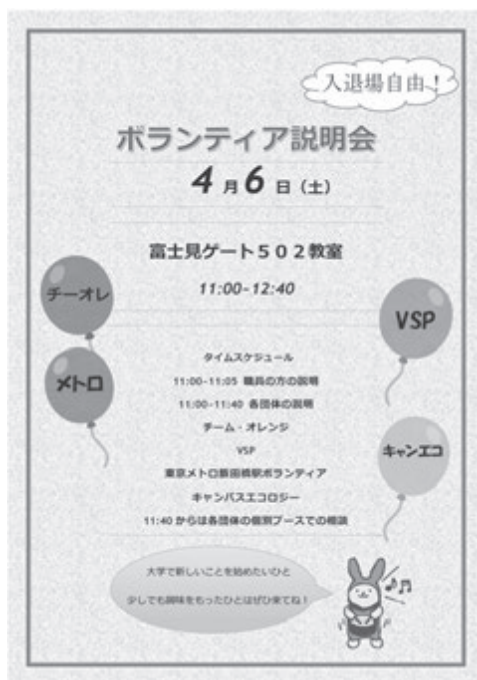
チーム・オレンジ学生スタッフ 法学部政治学科3年 三輪 窓佳

初めてのボランティア説明会でしたが、多くの学生に来てもらえました。段取りもスムーズに行えたので、個別対応で詳しい活動内容や、魅力を伝えられました。一方、スライドの内容が少ない、見辛いという印象を抱いたので、冊子配布などで改善した方が良かったと思います。

VSP 学生スタッフ 人間環境学部人間環境学科2年 赤羽 永遠

私たちは実質いつも独立して活動しているため、他のボランティア団体と共通の場で発表することで、自分たちの立ち位置や、新入生が興味のある分野など、普段の活動だけでは気付けないことを体得する貴重な機会となりました。

東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ 文学部日本文学学科2年 田中 康太



各団体のチラシを手に説明を聞く様子



ボランティアスタッフからの活動紹介

2. 春のボランティア WEEK

1. 日 程 2019年4月8日(月)～12日(金)

2. 場 所 外濠校舎 1 階メディアラウンジ

3. 概 要

ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボランティア学生団体、サークルを紹介することで、新メンバーを求める各ボランティアサークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対し、4月8日(月)～12日(金)の期間「春のボランティア WEEK」を実施しました。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生の相談に応える姿が見られました。

学生主体による SNS での宣伝や説明会前のビラ配り、来場者への声かけなどを気軽に行い、イベントの認知度も上がりました。

各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、新入生の相談の対応、学生スタッフ自身も他団体について理解を深め、学生スタッフ同士の交流の場にもなりました。

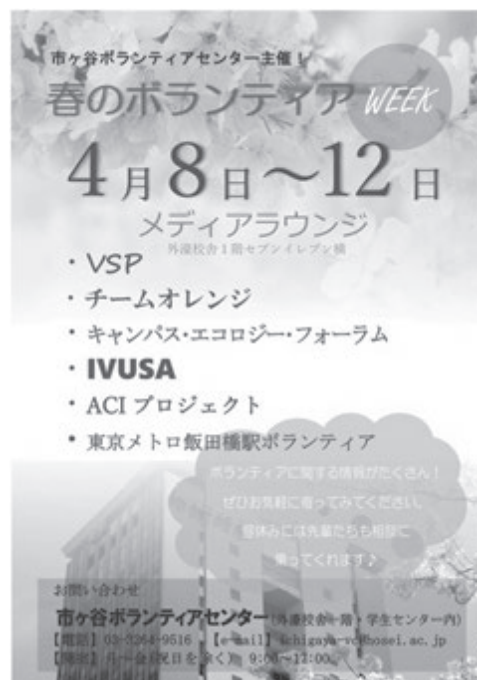
4. 学生参加者数 50名

5. 企画学生の感想

今年の春のボランティア WEEK には約 50 人の学生が訪れ、多くの方にボランティアに興味を持ってもらうことができました。また実施までに他団体と連携しながら行うことで、自分たちの活動を客観的に振り返ることができたと共に、他団体の様々な活動を知ることで多くの刺激を受けました。

今後も他団体と積極的に連携・協力しながら、多くの方に興味を持ってもらえるよう積極的に活動していきたいと思います。

人間環境学部人間環境学科 2 年 河野 慎平



熱心に話を聞く学生



ボランティアメンバーの交流の場にも

3. キャンパス周辺清掃ボランティア

1. 日 程 2019年4月～2020年3月（基本は毎月1回 昼休み）

2. 場 所 市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

3. 概 要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。基本的に月1回、毎回30分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行っています。今年度は、ゴミを集める際に使用しているビニール袋についても、環境保全の観点から見直しを行い、まずは自宅にあるビニール袋を再利用しようという案が出ました。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の1つであり、参加する一般学生と一緒に活動しながら、ボランティア活動の促進につなげていきます。

4. 学生参加者数 のべ88名 ※8、3月は休み

日 程	参加者数（申込者数）
4月23日（火）	9名（9名）
5月15日（水）	14名（16名）
6月25日（火）	14名（14名）
7月10日（水）	11名（11名）
9月25日（水）	12名（13名）
11月5日（火）	5名（6名）
12月10日（火）	9名（9名）
1月9日（木）	5名（5名）
2月25日（火）	9名（9名）

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催
地域清掃ボランティア
市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。
「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽に参加できるボラン
ティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

★キャンパス周辺清掃★
法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル飲料をプレゼント!

×九段・靖国地区清掃×
靖国神社の周辺で、市ヶ谷キャンパスの清掃活動と一緒に、お掃除ロボットを動かす活動を行います。(毎月2008年)

5月15日
(水)
12:25~12:55

5月20日
(月)
15:30~17:00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターへ、またはメールにてお申込みください。
お申込・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター内）
【電話】03-3264-9516 【e-mail】ishizawa-vol@hosei.ac.jp
【開室】月～金（祝日除く） 9:00～17:00



外濠の土手を清掃する様子



清掃終了後、全員で集合写真

4. エコキャップ DE キャンパスツアー

1. 日 程 2019年4月16日(火)

2. 場 所 外濠校舎、富士見坂校舎

3. 概 要

VSPは学内に設置されているペットボトルキャップの回収容器から、定期的にペットボトルキャップを回収しており、集めたペットボトルキャップは、無料の回収業者に送付し、世界の子供たちにワクチンを贈る活動を行っています。2018年度は、353kgのペットボトルキャップを回収しましたが、本活動の認知度は高くありません。そこで、この回収活動を新入生に関心を持ってもらうため、ペットボトルキャップの回収ポイントをまわりながら、学内の施設を学生目線で案内するというボランティアイベントを昨年同様実施いたしました。本企画を実施するにあたりVSPのメンバーが、ツアーの経路図を作成したり、下見を重ねたりした結果、当日は参加者とエコキャップを回収しながら、外濠校舎と富士見坂校舎を効率よく案内することができました。新入生が6人参加し、また参加者で集めたペットボトルキャップは約15kgとなり、参加者からは「意外と集まった」、「ボランティアしながらキャンパスのことが知れてよかった」など意見がありました。

・主なコース(経路)

ボランティアセンター～外濠校舎4階～富士見坂校舎3階～富士見坂校舎2階～富士見坂校舎1階～外濠校舎3階～外濠校舎2階～図書館前～ピロティ～富士見ゲート前正面階段～外濠校舎1階～ボランティアセンター

4. 学生参加者数 12名

5. 企画学生の感想

多くの新入生に参加していただけてとても嬉しく思います。昼休みだけのツアーということもあり、時間的にキャンパス内をすべて回することは出来ませんでした。キャップを回収しながら、他の参加者と話せて良かったです。

文学部哲学科2年 佐久間 喜望

多くの新入生に参加してもらい、キャップを回収しながらキャンパス内の「お得」な情報を伝えることが出来ました。今回の企画を通じてエコキャップの回収に興味・関心を持ち、新入生・在学生問わず、今後より多くの学生に参加してもらえればと思います。

人間環境学部人間環境学科2年 河野 慎平

市ヶ谷キャンパス完全制覇！
先輩のアドバイスもキャップを救済す！
新入生 必見！
学内の施設や設備をキャップ！
ボランティアセンター学生スタッフ VSP
エコキャップ DE キャンパスツアー
4月16日(火)
12:25～12:50 お昼休み
12:25 学生センター内
ボランティアセンターに集合！
学内の不案内、ステキな
スポットがわかります。
エコキャップ回収しな
がら私たちといっしょに
歩いてみませんか。
★ボランティアセンター
VSPスタッフ★
キャップ約500個＝ワクチン1本分
エコキャップは
リサイクルされ
再生医療装置やワクチ
ン代になります。
ワクチン代
ペレット など
●お申込は… 市ヶ谷ボランティアセンター → 窓口にて申込書記入
●お問合せは… 市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)
TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp



キャップ回収の経路を皆で確認する



回収の様子

5. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

1. 日 程 2019年4月～2020年3月（基本は毎月1回 20日、土日に重なる場合は前日）

2. 場 所 九段さくら館→靖国通り周辺→市ヶ谷駅周辺→九段商店街→九段さくら館

3. 概 要

毎月20日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。大学周辺の地域貢献ボランティアの活動の1つになっています。

4. 学生参加者数 のべ25名

日 程	参加者数（申込者数）
4月19日（金）	6名（7名）
5月20日（月）	雨天中止（5名）
6月20日（木）	4名（4名）
7月19日（金）	雨天中止（6名）
9月20日（金）	3名（3名）
10月18日（金）	雨天中止（6名）
11月20日（金）	3名（4名）
12月20日（金）	4名（4名）
1月20日（金）	2名（2名）
2月20日（木）	3名（2名）

※8月はお休み、毎月の実施について雨天・高温等の場合は中止。

5. 参加学生の感想

活動には地域の方々も参加されており、普段何気なく過ごしている地域も多くの方々によって支えられているのだと実感しました。また私は法政大学に通っていながらも、キャンパス周辺を気にしたことがありませんでしたが、本清掃に参加することで、今まで知らなかった場所・お店、特に風景を発見でき、日々の大学生活がより充実したものになりました。

これを機に一学生として大学周辺の地区に少しでも貢献したい、そう思わせるような活動だと思います。今後も参加していきます。

法学部法律学科2年 鶴田 征也



靖国通り沿いのゴミを拾いながら歩く



地域の方と交流もしながら活動

6. 資源のムダについて考えよう リサイクルペーパーのゆくえと環境保護

1. 日 程 2019年4月27日(土)
2. 場 所 齋藤英次商店 柏沼南営業所(柏市)
3. 概 要

この企画は、昨年4月の新歓期間中に行った新歓ピラ回収を行った際に、数千、数万にも及ぶピラ・チラシが集まり、「何かに再利用出来ないか」と考えたのが始まりです。昨年の収集だけで終わった悔しい想いと、新歓期の周りからの評価により企画に対する想いも強いものがありました。

今回の企画実施については、事前の新歓ピラ回収と企画実施とで、2段階による構成となりました。新歓期間前から、今年のピラの量、新歓に来る学生数等を予想し、それ相当の回収箱の設置や、ピラの回収後についても企画メンバーで議論し合い、回収時は定期的にメンバーが回収箱の確認、ごみ等の不要物を取り除く活動も行いました。新歓期間中に集まったピラの枚数はおよそ8,000枚で大学全体の収集量としては10,000枚を超えました。

そうした中で、収集したピラの使用法を議論し合い、結果としてリサイクル会社に持参し、古紙がこういった流れで製紙会社へ送られているのかを知る企画を行うことになりました。

リサイクル会社、齋藤英次商店(株)へ訪問し、古紙の回収から、プレス、お送り先の企業や紙リサイクルの循環についてを詳しく学び、企画参加学生で意見を共有することで、また1つ古紙のリサイクルに対する想いに変化しました。



法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 学生参加者数 6名

5. 参加学生の感想

段ボールの山にはとても驚きました。段ボールが大量にある理由が、中国の輸入規制によることはもちろん、電子化が進むにつれて、紙の廃棄が減る一方、通販の広まりなどで段ボールの廃棄物が増えているからだということには、得心が行きました。

また、上質なパルプである牛乳パックは特に分別が大切であること、紙・段ボールにホチキスがついていてもよいことなど、分別・リサイクルについて多くのことを学びました。

法学部政治学科2年 高橋 克典

昨年の4月から始めた新歓ピラ回収、惜しくも昨年は収集するだけで終わってしまったが、この度リサイクル工場の見学を踏まえ、自分達の排出した古紙がこういった流れで、再び紙へ戻っているのか理解することができた。また古紙のリサイクル循環から日本、中国、アジアとの社会政策についても触れる事ができ、身近な問題が世界を動かす大きな問題なのだと驚きを隠せなかった。来年も是非継続したい。

法学部政治学科3年 藤山 雄多



収集車の前で



見学の後、集合写真

7. インクルーシブデザインワークショップ体験会

1. 日 程 2019年5月17日(金)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

講師である株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ 高山希氏から、インクルーシブデザインの説明と、私たちが普段使用しているストローやZippoライター、リンスとシャンプーを見分けるためのボトルについている凹凸などが紹介され、学生たちは興味深く講義を聞いていました。

その後、2人1組でワークショップを行いました。1つ目は、財布を利用する際の感情をグラフ化するワークです。何気なく使用している財布も細かく分析すると「ポイントカードが多すぎて見つからない」、「小銭が財布から落ちやすい」、「いらないレシートで財布が膨らむ」等、小さな不便や不快感が分かり健常者でも潜在的には今使われているモノに不便さを感じていること、その不便さが新たなニーズを生むことを理解しました。

2つ目のワークは、1人が視覚障がい、片方の手が使えないなどのハンデを抱えている役をし、絆創膏を袋からとりだしケガしている部位に張る。もう一方の学生は、この一連の動作観察、不便だと思われる点を附箋に記録するワークを行いました。学生はいろいろなハンデの中で試行錯誤しながら絆創膏を張っていました。一方で、記録する学生も熱心に一つ一つの動作を丁寧に記録し絆創膏の問題点を洗い出していました。体験会を通して、普段の生活では気づかない視点、考え方を体験できたのではないかと思います。

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

自分が生活の中で使っている物が、身体的条件の違いで見え方も違うことを学びました。その上でどのように改良するかを考えることにより、既存の道具の使い方を見直し、製品へのアプローチについて考えることができました。

チームワークで他者の考え方も聞けたので、自分にはないアイデアがとても参考になりました。

経営学部経営学科3年 宇野 葉美

健常者である自分が、今まで考えたことのないようなことがたくさんあった。今まで多くのことを見逃していたことがわかって、これからの日常も注意深く観察してみようと思えたいい機会となった。

文学部史学科2年 坪井 雄大



相手の不自由な点から商品開発にチャレンジ



リードユーザーを設定して相手の問題点を探す

8. 高円寺子ども食堂

p.60「高円寺子ども食堂ボランティア」もご参照ください。

1. 日 程 毎月第 1、3 土曜日

2. 場 所 高円寺子ども食堂

3. 概 要

杉並区にある「高円寺子ども食堂」は毎月第 1・3 土曜日に開かれており、毎回多くの子もたちや保護者の方、ご高齢の方が訪れています。私たち VSP 学生スタッフは、子ども食堂の運営のお手伝いをするために、定期的に活動に参加しています。活動内容はその時によって様々ですが、毎回行うのは「会場設営」「受付」「配膳補助」「後片付け」です。「会場設営」は、会場の飾りつけや子どもたちに渡すお菓子の袋詰め、机や椅子の配置を行います。「受付」では、お客様の名前の確認、袋詰めしたお菓子の受け渡しなどを行います。「配膳補助」は、ご飯を運ぶのが大変そうな方のお手伝い、お茶運びです。「後片付け」は、食器洗いや会場の掃除などを行います。そのほかにも空いた時間に子どもたちと一緒に遊んだり、季節によって様々なイベントを開催したりすることもあります。

4 年目を迎える子ども食堂ボランティアは、VSP 学生スタッフだけでなく、毎回多くの一般学生が参加しています。他大学や社会人ボランティアの方とも交流が持てることもあり、今後も継続したい活動の一つです。

4. 学生参加者数 延べ 18 名

日 程	参加者数
5 月 18 日（土）	4 名
10 月 19 日（土）	3 名
2 月 1 日（土）	5 名
2 月 15 日（土）	6 名

5. 参加学生の感想

私は 1 年生の頃からこの子ども食堂ボランティアに参加しています。最初は子どもたちとお話できるのが楽しいということだけで活動していましたが、回数を重ねるごとにそれぞれのご家庭の事情なども見えるようになり、子ども食堂の存在意義も考えるようになりました。大学生の私に何ができるのか、今後も活動を通して考えていきたいと思います。

VSP 学生スタッフ 文学部日本文学科 2 年 齋藤 真悠



来場者の受付をして食券を渡す



お皿洗い、片付けの様子

9. ～電通育英会助成事業～ 富士山外来植物駆除ボランティアツアー

1. 日 程 2019年5月19日(日)

2. 場 所 富士山麓

3. 概 要

「NPO 法人・富士山クラブ」の指導のもと実施した「富士山外来植物駆除」の活動は今年で7度目の実施となり、38名の学生が参加しました。また、「千代田区内近接大学の高等連携強化コンソーシアム(千代田区キャンパスコンソーシアム)」を構成する他大学の学生(共立女子大3名)も参加しました。行きのバスの中では、一人で参加する学生も楽しめるように、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が考えたクイズによるレクリエーションを行い、キャンパスや大学を超えた交流をしました。

世界文化遺産でもある富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、富士山クラブの指導のもと、青木ヶ原樹海のトレッキングを約2時間実施し、樹海に生息している動植物の生態系を学ぶことができました。また道中では、コウモリ穴にも入洞し自然の壮さを感じることもできました。

その後、アルピニストの野口健さんの事務所もある富士山クラブの事務所前広

場で昼食をとり、外来植物が多く生息している西湖畔に移動し、駆除対象である「オオキンケイギク」の説明を富士山クラブから受けました。オオキンケイギクは北米原産のキク科の宿根草で、繁殖力が非常に高く、日本の特定外来生物(環境省指定)植物類6種のうちの1種、また、日本の侵略的外来種ワースト100(日本生態学会指定)のうちの1種に指定されています。説明をうけた後に、西湖畔の水辺に生息するオオキンケイギクの駆除に参加者全員で行いました。加えて、当日は湖の水位が低く岸辺にゴミの漂着が見られたので、清掃作業も合わせて行いました。約1時間半の活動でしたが、今回の作業範囲内は全て駆除することができ、達成感が得られました。

活動後は、「富士山世界遺産センター」に移動し、各班にわかれ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、情報共有、振り返りを行い、外来植物駆除を広めるアイデアを発表するなど充実した活動となりました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは富士山の外来植物駆除・清掃活動を継続的に行っていきます。

VSP 企画学生スタッフ デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 長谷川 陸

4. 学生参加者数 38名

5. 参加学生の感想

青木ヶ原樹海のトレッキングでは、普段生活しているなかでは見ることでできない大自然の中に実際に足を踏み入れることにより身体全体で“自然”というものを感じることができました。今回初めてこのツアーに参加させていただきましたが、特定外来植物であるオオキンケイギクの駆除では、この活動を継続することが微力ながらも自然を保護する力になるのだと学びました。

法学部法律学科1年 武田 大空

外来植物(オオキンケイギク)がもたらす自然界への影響について知ることができ、またコウモリ穴やコウモリ自体が天然記念物であったことを学ぶことができたのは良かったと思います。普段から目にする松の木にも様々な種類や特徴があることや、歩きながらよく見た銀葉草について知ることができたのも良かったと思います。

何も後先考えず綺麗だからというような理由から持ち込み、植えてしまいました。これを受け特徴や知識をちゃんと認識し、外から受け取らないことが大切だということを改めて感じました。

今回のボランティアを受け、自然環境についての認識を高めることができました。ゴミの分別や自然環境に配慮された容器を使うなど、自分たちができるところは今まで以上に気をつけていきたいと思います。

共立女子大学 文芸学部劇芸術専修3年 中田 光咲



「富士山駆除活動」に参加するのは、今回で2回目ですが、前回は11月に訪れたので、5月の富士山は前回と違う感じで、とても興味深かったです。

今回のトレッキングでは緑が多く、珍しいキノコや野草を発見できました。またガイドの方が富士山の自然に関して、親切に教えて下さった為、とても楽しめました。

駆除活動については、多数の外来種が群生していて、しかも生えている場所が急斜面だったので、思いのほか手間取りました。また、活動の最中に、多くのゴミが自然を汚しているのを見て、やはりゴミの不法投棄は、厳重に禁止しなければならないと感じました。

今回の企画を通じ、富士山に限らず、身近な自然に対しても、関心を向けていこうと思いました。

法学部法律学科3年 正田 一成



河口湖畔で清掃をする



活動の後、全員で集合写真

10. エコキャップ回収ボランティア

1. 日 程 2019年4月～2020年3月（毎月1回）
2. 場 所 外濠校舎、富士見坂校舎、田町校舎 ペットボトル回収場所
3. 概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（以下 VSP）は、2019 年 4 月から 2020 年 1 月まで全 9 回、外濠校舎と富士見坂校舎にてエコキャップ回収ボランティアを実施し、延べ 57 名の学生が参加しました。

今年度は 3 月 10 日時点で合計 323kg を回収、ワクチン本数で約 220 本になりました。回収したエコキャップは、2019 年から VSP 学生スタッフが自主的に探した無料で引き取りをしてもらえる会社、アルファジャパンさんに計 5 回引き取っていただきました。

2015 年 9 月から始まったキャップ回収は、5 年目を迎えました。この活動を始めた当初のメンバーは全員入れ替わりりましたが、毎月一般学生も参加して行っています。今年は、小さかった回収箱を大きな容器に替えたことで、多量のエコキャップを集めることが可能になりました。

参加者が集まりにくい時期もあり、回収の意義を考えた年でもあります。「持続して行っていく必要のある活動」「一般学生へのボランティア活動の周知に役立つ」との意見が出て、少しずつ、安定した参加者が集まるようになっていきます。

また、VSP 田町の発足に伴い、あらたな活動としてデザイン工学部のメンバー

が、田町校舎での回収を開始しました。学生への認知度アップを図るため、回収した量をポスターにして掲示したことも、新たな試みです。今後も毎月の活動を定期的に見直し、引き続き改善をしていきたいと思っています。

4. 参加学生の感想

僕はこのボランティア活動に参加して小さなことでも積み重ねることがすごく大切だと実感することができました。

活動に参加する前は、キャップが本当に集まるのか少しだけ疑問に思っていました。しかし、実際に回収を行ってみると多くのキャップが集まり、驚きました。一人一人の行動はキャップを分別するという小さなことでも、多くの人が行えば、命を救う大きなことにつながるのだとその時に強く実感しました。

エコキャップ回収活動は自分の意識を大きく変えてくれました。この活動で学んだことを生かし、これからも積極的にボランティア活動に参加したいです。

～学生スタッフVSP企画～
「エコキャップ回収ボランティア」募集！
VSPエコキャップ回収
6月20日(木)
12:25～12:55 お昼休み
★ 12:25 市ヶ谷ボランティアセンター集合
エコキャップを回収して、困っている人を助けよう！
まずは小さいボランティアから... お申込みはボラセンまで。
●お申込は... 市ヶ谷ボランティアセンターへメール または来室にて申込みください
●お問合せは... 市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階) TEL:03-3264-9516 メール:ichigaya-vc@hosei.ac.jp



外濠校舎でのエコキャップ回収



田町校舎でも自主的に回収

11. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア

※p.38「2019年度東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会」、p.80「目の不自由な方のサポートについて学ぼう」は、関連プログラムです。

1. 日 程 毎月1回（定例会、準定例会）その他随時活動

2. 場 所 東京メトロ飯田橋駅構内

3. 概 要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアは、駅を利用するにあたって全ての利用者に気持ちよく安全に駅を利用していただくために、駅構内の見守りを中心に活動を行っています。今年度は発足から3年目ということで、新たな取り組みを多く行いました。今年度は初めて活動見学会を行いました。活動に興味を持ってくれた方に駅に来ていただいて、実際の活動を見学していただきました。この見学会を研修会参加の条件としたことで、その後、継続して活動するメンバーが昨年に比べて多いと感じられました。また、既存メンバーとしては、自分の言葉でやりがい伝えられる良い機会となりました。

6月に行った研修会では、初めてグループに分かれて行いました。このボランティアの”個人で好きな時間に活動できる”点はプラスでもありマイナスでもあるので、この研修会で仲間を作って、一緒に活動してもらうことが目的でした。毎月行う定例会には学年問わず様々なメンバーが集まって意見交換が出来たので、一定の効果は見られたと感じています。また、夏以降は嬉しいことに、多摩や小金井キャンパスから活動に来てくれる3期生の活躍が目立ちました。

4. 学生参加者数 32名（登録者数）

◎定例会参加者数一覧

定 例 会 日 程	参 加 者 数
4月24日（水）	4名
5月24日（金）	6名
7月24日（水）	8名
9月25日（水）	3名
10月24日（木）	4名
11月22日（金）	5名
12月18日（水）	6名
1月24日（金）	6名
3月5日（木）	コロナウィルス感染防止のため中止

※その他、自主ボランティア活動者数（延べ）55名

5. 参加学生の感想

12月には、研修会でお招きした日本視覚障害者連合の三宅隆さんを再びお招きし、メトロボランティア主催として初めてのイベント（p.80「目の不自由な方のサポートについて～」参照）を行いました。視覚障害をお持ちの方に対するわたしたちのサポートの仕方や、日本における公共交通機関の現状など、さまざまな切り口から視覚障害という世界と私達の相関を学ぶことが出来ました。この講演会はメトロボランティアのメンバーに加えて一般の活動参加者も募ったことで、より広く本活動を知ってもらう機会にもなったかと思います。

来年度力を入れたい点として、学内での認知度を上げることが挙げられます。特に今年度活動してくれた3期生の力を活かし、この活動をより多角的な視野で工夫し、継続しやすい環境にできるよう取り組んでいきます。今後も見守りはもちろんのこと、駅利用者の方のニーズに合わせたご案内もできるよう、努力していきたいと考えております。

人間環境学部人間環境学科2年 皆川桃子



乗換案内をする様子



活動後はミーティング



外国人の方に声をかけてもらえるようにメンバーで腕章を作成



白杖をお持ちの方をご案内する

12. 第32回神田すすらん祭り

1. 日 程 2019年5月25日(土)

2. 場 所 神田神保町すすらん通り

3. 概 要

学生スタッフ(VSPとチーム・オレンジ)は、神田すすらん通りにて開催された「すすらん祭り」で、VSPはポッチャ体験会、チーム・オレンジはオリジナル防災クイズカルタの実演の実施、囲碁研究会は一般来場者向けに対局のボランティア活動、また、一般のボランティア参加学生も受付、後片付けなどのボランティアに協力しました。

ブースは大勢の方に来ていただき、VSP、チーム・オレンジから各8名、その他学生ボランティア10名が参加し大変盛り上がりしました。千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム <https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html> に所属する共立女子大、そして明治大学、専修大学など近隣の大学と共に、昨年に引き続き、本年も神田すすらんまつりに協力しました。

今年はパラリンピック競技であるポッチャについての認知度も高まっていて、様々な世代に楽しんでいただく事ができました。ブース内で防災クイズカルタで

は、正解絵札の元となる解説を来場者に丁寧に説明する姿もあり、千代田区の地域貢献ボランティアの一助となりました。

私たちは、ポッチャについての知識を学びながら、来場者にわかりやすく説明する、伝える素晴らしさを学ぶことができ、貴重な経験になりました。

来年夏には東京パラリンピックが行われます。大会に向け私たちもポッチャの普及活動、パラリンピック競技の普及活動にも取り組み組んでいきます。

VSP 企画学生スタッフ 法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 学生参加者数 29名

5. 参加学生の感想

これまでは防災啓発を目的としたイベントを中心に活動を行い、今回のすすらん祭りではどれくらいの方が防災に興味をもって足を運んでくれるのか不安でした。予想以上に多くの方に私たちの活動に注目してもらうことができました。これからも地域における防災啓発の活動に関しても進めていきたいと思います。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

ポッチャは、体験してみると案外難しく、戦略も必要な奥の深い競技でした。私は初めてのボランティア活動で来場者にうまく説明できるか不安でしたが、最終的には多くの人にポッチャの魅力を伝えられたと思います。ポッチャを通して地域の人と交流できて、とてもいい機会になりました。また来年も参加したいです。

VSP 学生スタッフ 文学部史学科2年 坪井 雄大

当日はとても天気良く、気温が高かったにも関わらず沢山の方が訪れてくれて楽しい時間を過ごすことができました。特に、初心者の子供たちが来てくれたのはとても嬉しかったです。囲碁人口は決して多くないのでこのようなボランティアを通じて囲碁の面白さをもっと広めていきたいと感じました。

デザイン工学部 建築学科2年 囲碁研究会 鈴木 清恵





チーム・オレンジ防災カルタ



一般の方との対局（囲碁研究会）



VSP ポッチャブースの様子



受付のボランティアの様子

13. 犬から教わる”幸せ“～ドッグセラピーの可能性を知ろう～

1. 日 程 2019年5月27日(月)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

当日は、「NPO法人セラピードッグすまいるわん」より3名のトレーナーの方々と3匹のセラピードッグが来構し、代表理事の時田 真緒氏に講義をしていただきました。前半は講義、後半はワークショップと2部に分け、最後にグループワーク兼振り返りを行いました。「ドッグセラピー」について学びとともに、正しい知識を身に付け、理解を深めることを主な目的としました。

前半では、国際資格ドッグトレーナー等である時田氏にアニマルセラピーの定義や種類、歴史、日本と世界との比較などをご説明いただきました。特に、「日本の『ドッグセラピー』に対する一般の認識と世界標準との間には深刻な乖離があるので正しい理解を広めていくことが必要である」という今後の課題に関するお話に参加者は関心を寄せていました。

後半のワークショップでは、セラピードッグと実際に触れ合いました。会場は笑顔で溢れていました。その時間があつたことで効果を体感できました。最後に「自分が理想とする人と犬が共生する社会」をテーマに、グループで意見交換をし、発表してもらいました。その意見や課題は、一人ひとりが企画の趣旨と目的に真摯に向き合えた事を実感しました。

今回は、「犬」という私たち人間の生活に身近な存在を取り上げたものでした。だからこそ一層、問題意識を持ちながら受講できたのではないかと思います。このプログラムにより現在の日本社会について、「犬」という観点から、見つめ直すきっかけを提供することができたのではないかと思います。

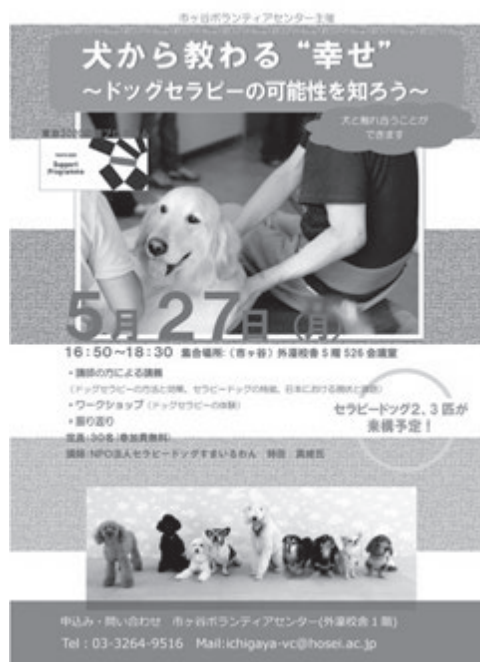
人間環境学部人間環境学科3年 岡部 琴美

4. 学生参加者数 29名

5. 参加学生の感想

セラピーとアクティブの違いや、科学的根拠をもった犬や動物とすごすことによって生まれる効果を第一線の方に教わることでできて良かったです。犬権向上のためにもこれらの活動が広まってほしいし、自分も周りの犬に積極的に愛情をもって注ぐ等、まずはできることから始めていきたいと思っています。

文学部日本文学科4年 小泉 結菜



見つめ合うことでセラピー効果が得られる



指示を聞きながら犬に触れる

14. ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング

1. 日 程 2019年5月30日(木)

2. 場 所 富士見坂体育館

3. 概 要

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけ、音のなる特殊なボールを使うフットサルです。今回は、ブラインドサッカーを通じ、チームビルディングに必要なコミュニケーション法と、「見えない」ことを体で感じることを目的としました。

〔ワーク1〕見える人1名が、アイマスクを着用した人に、5メートル先のボールの場所を言葉だけで伝えました。「まっすぐ!」だけでなく、具体的に伝える大切さを学び、参加者全員がクリアーできました。

〔ワーク2〕アイマスクをし、1月～6月生まれと、7月～12月生まれで、声と手のみで分かれ、それぞれの人数を数えるワークを行いました。ここでは個性が出て、大きな声でリーダーシップを取る学生と、その声を頼りに聞き役に回る学生に分かれました。

〔ワーク3〕アイマスクをし、血液型ごとに分けられました。グループ数が多くなると自分のグループに合流できない人も現れました。声を出すタイミングに加え、聞くタイミング、何を声にするかを学びました。

〔ワーク4〕ワーク3を活かして、名前50音順に整列するというワークを行い、このあたりから、「まだ整列していない人いませんか?」など他人を気遣う言葉で、チームビルディングらしくなりました。

〔ワーク5〕4名が四隅に立ってパスを行い、アイマスクをした人が、制限時間内にボールに何回タッチできるかというワークを行い、どうすれば多くタッチできるかを議論し、改善点を見つけ出しました。

本プログラムを通して、障がい者と健常者の間の「見えない壁」を取り払い、共生に関心をもってもらうこと、自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら共通のゴールを達成するチームビルディングを学べたかと思います。

4. 学生参加者数 15名

5. 参加学生の感想

視界が遮られるというのは予想以上に不安で、周りの仲間の声がいかに大きなものかを実感できました。ゲームを通じて初めて会った人と距離が近づいて良かったです。これを機にブラインドサッカーに注目したいと思いました。選手たちのスゴさも身をもって感じました。

経営学部経営学科1年 宮川 昇

「声を出す、声を聞く、思いやり」のキーワードは部活やグループワークなどのシーンでも役に立つと思いました。みんなが初めてのことをやっているのだから、最初から打ち解けてきたが、声を出す(=意見を発信)、声を聞く(=意見を受け入れる)、思いやりを意識していたというのが大きいと思いました。

グローバル教養学部グローバル教養学科2年 岡林 伊吹



相手の合図に向けてボールを蹴る



声と手を頼りにグループをつくる

15. 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

1. 日 程 2019年6月1日(土)、11月16日(土)

2. 場 所 大内山校舎6階 Y604 教室

3. 概 要

市ヶ谷ボランティアセンターは、東京都と共同で、「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施しました。

この講座は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、実施しており、今回は本学で7、8回目の実施となります。

今回は、市ヶ谷・小金井キャンパスから52名(6月)、35名(11月)の学生が参加しました。

毎回、参加応募者が多く集まる人気の講座で、参加学生は、活発な Role-Play で英語力アップと外国人へのおもてなしの基礎知識を学びました。最後は「おもてなし5か条」を参加者全員で考えました。講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から87名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

おもてなし5か条

1. 相手を受け入れる
2. さりげなく相手の求めること+α(プラスアルファ)のおもてなし
3. 多文化の尊重
4. 無理しすぎない
5. 笑顔

4. 学生参加者数 87名(6月、11月合計)

5. 参加学生の感想

英語が上手く話せなくても、自分にできることはたくさんあることが分かりました。世界中の人々とコミュニケーションをとり、お手伝いができたら良いです。May I help you? をたくさん使いたいです! 国際文化学部国際文化学科2年 伊東 菜々子

グループワークがたくさん行われたので、周りの人とコミュニケーションができて楽しかったです。

「おもてなし」ってひと言では具体的なことはあまり分らなかったけれど、今回「相手を思う+αのことをすること」を1つの意味にとらえることができたので次は行動につなげたいです。文学部英文学科2年 加藤 萌子



グループワークを通じて会話に挑戦!



講義終了後、全員で集合写真

16. OluOlu 障がい児サッカー教室

1. 日 程 2019年6月2日(日)6月30日(日)、7月15日(月)、9月14日(土)、10月27日(日)、
12月22日(日)、2020年1月19日(日) ※10月12日(土)は台風により中止

2. 場 所 品川区特別支援学校体育館

3. 概 要

毎月1～2回(天候などにより異なる)品川区の公共施設で特定非営利活動法人 OluOlu の方々が運営を行っている CP サッカー・障がい児サッカー教室に参加しお手伝いさせていただいています。

OluOlu の CP サッカー・障がい児サッカー教室は、脳性まひ、もしくは手足に何らかの障がいがあり、独歩ができる小・中学生または、身体の障がいやダウン症、発達障害により運動が苦手で、独歩ができる小・中学生がスポーツを楽しみ、心も体も笑顔になれる場を提供することを目的としています。

私たちは、理学療法士や児童の発達に関する有識者であるコーチの方々と共に、子どもたちが安全に活動できるようサポートしたり、子どもたちと一緒に楽しんでサッカーをしています。

ランニング、準備体操、鬼ごっこでウォーミングアップの後、シュート練習や風船を使ったリフティングのあと、試合を行います。声を掛け合ったりハイタッチをしたりと子ども達がコミュニケーションを取りやすい工夫を大切にしています。定期的に参加することで、子ども達との繋がりや信頼関係が築くことがこの活動の重要な点です。

4. 学生参加者数 延べ18名

日 程	参 加 者 数
6月2日(日)	4名
6月30日(日)	4名
7月15日(月)	1名
9月14日(土)	2名
10月12日(土)	台風のため中止
10月27日(日)	3名
12月22日(日)	3名
1月19日(日)	1名

【OluOlu について】

Homepage: <https://www.oluolusports.org/>

FB: <https://www.facebook.com/oluolusports/>

5. 参加学生の感想

満足にスポーツを楽しむことが難しい子どもたちと、一緒にサッカーを楽しみたいと思い、参加をはじめました。何回か参加していくうちに子どもたちとの距離も近くなり、元気に走りまわっている姿や技術的にも精神的にも成長していく様子を見て、活動を続けるやりがいを感じています。

VSP 学生スタッフ 法学部法律学科1年 武田 大空

CP サッカー・障がい児サッカー教室のボランティアに参加してみて、感情が抑えられなかったり、気づいたらどこかに行ってしまうといった個性豊かな子どもたちの対応を通じて多くのことを学ぶことができ、元気をもらいました。これからも参加したいです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 鴨 潤矢

何かの役に立てたらいいなと思い参加したボランティアだったのですが、お手伝いをしていく中で子ども達のエネルギッシュな行動に元気をもらいました。ボランティアに参加することで誰かの助けになるだけでなく、自分も多く得るものがあることを改めて実感することができたので良かったです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 川上 健太



こどもたちと一緒に準備運動をする



こどもたちと一緒に試合をする



始まりはお互いに握手をしてから



お別れの挨拶で「みんなの輪」を作る

17. 北区学び場 Let's Study

※p.76「日本で暮らす外国人のサポートについて考えよう」は関連プログラムです。

1. 日 程 2019年7月28日(日)、10月27日(日)、
2020年1月12日(日)、2月16日(日) ※2019年10月13日(日)は台風のため中止
2. 場 所 北区学び場 Let's Study

3. 概 要

北区学び場 Let's Study の活動に月 1 回程度参加しています。毎週日曜日に、北区にある北とぴあにて、日本語を母語としない、小学生から中学生の子どもたちに勉強を教えるボランティアを行います。教える科目は様々で、本人の希望する内容を行います。宿題であったりテスト勉強であったり、その日その人によって異なります。基本的に同じ子どもたちが来ますが、毎週来なくてはならないということはありません。来た時に担当した先生が簡単な報告書を書き、終わった後にも全体で共有をすることで、次に来てくれた時に担当する先生に繋がります。最近は先生の人数が生徒の人数より多い場合があるようです。

4. 学生参加者数 延べ9名

日 程	参 加 者 数
7月28日(日)	1名
10月27日(日)	2名
1月12日(日)	3名
2月16日(日)	3名

5. 参加学生の感想

毎月訪れる事で、その場にいる子どもたちを段々と覚えられたり雰囲気になれることができたり、お互いがリラックスしていられる環境になっていくのを感じました。

勉強を教える活動といっても学習塾とは異なり、もちろん勉強はきちんと教えますが、適度に雑談を挟んだり、休憩時間も設けてあり、楽しい雰囲気が進められています。居場所づくりとしての役割を強く感じました。子どもたちの中には勉強に乗り気ではない子もありますが、みんな来ることを楽しみに来ている様子で、自分と同じような境遇の子や優しく話を聞いてくれる学生や大人たちが居る空間は子どもたちにとって大きな居場所なのではないかと感じました。

私が中学 1 年生に英語を教えていた時に、役員の方がその子に『今後、英語がわかると思って話しかけられてしまう事があると思うよ。その時に話せないと困るから頑張ろうね。』と声をかけていたのが印象的でした。見た目が日本人でないと言うだけで英語が話せると思われてしまうなどの難しさもあるのだと気が付きました。

人間環境学部人間環境学科 1 年 荒巻 洋恵



学習サポートの様子



小学生に算数を教える様子

18. 荒川区 道あそびボランティア

1. 日 程 2019年6月8日(土)
2. 場 所 荒川区はっぴーもー熊野駅前商店街

3. 概 要

はっぴーもー熊野前商店街で行われた催しには、学生ボランティアスタッフ、一般応募した学生を含め11名が協力しました。また、他大学からのボランティアの方々とも協力して、イベントを盛り上げることができました。

道あそびは、「だるまさんがころんだ」や「電車ごっこ」、「民族ダンス」、「シャボン玉・ペーゴマ」、「牛乳パックで作るフリスビーづくり」、「紙芝居」、「腹話術」など10個のブースに分かれ行われました。また遊びの中には昔遊びも含まれており、失われつつある遊びを知ってもらえるいい機会にもなりました。道遊びの雰囲気は、子どもばかりではなく保護者や地域の方々にも好評で、遊びを通して地域全体で交流できたと感じました。また、片づけの時にたくさんの子供たちが積極的にブラシを手に持ち、地面の汚れを落とす手伝いをしてくれました。掃除も遊びと同じように楽しんでいる様子が見受けられ、ボランティアの方々だけでなく地域全体で「道あそび」を作り上げていると実感しました。

今回初めてボランティアに参加しましたが、とても楽しく、充実した一日を送ることができました。小さな子どもに関わる事を緊張していたのですが、自然と一緒に楽しむことができました。「牛乳パックで作るフリスビーづくり」では真剣に創作作業に取り組んでいる子どもが多く、創作意欲に驚きました。また、あまり遊んだことのない「ペーゴマ」などもあり、自分自身でも新鮮さや、懐かしさを感じることができました。子どもや地域の方々との交流など貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

文学部心理学科1年 三代 莉里子

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

今回、初めて地元荒川のボランティアに参加しました。私自身もNPO法人に所属して、各地にボランティアへ行ってきました。今までは、あまり当事者意識を持つことができなかったのですが、荒川の地域に暮らす地元民として、感慨深いものがありました。

みちあそびイベントの時は、商店街自体が明るく、元気で活気がありました。ある意味、イベント当日は、非日常の出来事です。だからこそ、その出来事を日常にしていきたいと思いました。このような新たな気づきが得られる大変良い活動で、参加してみても良かったと思いました。ありがとうございました。

経営学部経営学科3年 田口 瑛理



牛乳パックで作るフリスビー作り



路面の大きなオセロで遊ぶ

19. 2019年度東京メトロ飯田橋駅 ボランティア研修会

※p.27「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」p.80「目の不自由な方のサポートについて学ぼう」は、関連プログラムです。

1. 日 程 2019年6月8日(土)、15日(土)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、2019年度も飯田橋駅構内の「見守る目」を強化するため、学生によるボランティア活動を継続して実施しています。

2017年6月にスタートしたこの活動は、大学と東京メトロとの連携により3年目を迎えています。

公益財団法人日本ケアフィット共育機構より講師を招き、座学と実技を交え、活動にあたっての基礎知識や注意点、心構えを学びました。

まず座学では、障がい者差別解消法の説明、障がいには個人差があること、サポートを不要としている人もいるので、必ず声がけをして確認して欲しいとお話がありました。また簡単な手話や英会話など教わり、ボランティアに活かせる技術を教えていただきました。

その後、車椅子利用者や視覚障がい者との接し方についての実技を行いました。車椅子の折り畳み方などの基本的な車椅子の取り扱い方法や、段差を乗り越える方法などを体験しました。

また視覚障がい者の気持ちを理解するために、視界が悪くなるゴーグルを装着し、どのように見えるかを確認してもらい、2人1組になり、1人が目を閉じ、もう1人に肘を掴んでもらい介添え歩行体験をしました。また、盲人会連合の方からは、視覚障がいの方への接し方をお話いただきました。

最後にペーパーテストを実施し、全員がサービス介助基礎検定の資格を取得することができました。

その後、市ヶ谷キャンパスから飯田橋駅に移動し、ホームに設置されているインターホンや、出口の場所などやトイレの場所を確認しました。既存の学生スタッフが3期生にむけて注意事項や心構えについて話してもらい研修会を終えました。

今年度は新たな試みとして、活動見学会を既存の学生スタッフがを行い、実際に駅ボランティアを見学してから研修会に臨んだこともあり、参加者の意欲の強さを感じることができました。

市ヶ谷ボランティアセンターは、今後も東京メトロ飯田橋駅ボランティアを「大学から一番近い地域貢献ボランティア」としてもり立てていきます。

4. 学生参加者数 28名

5. 参加学生の感想

昨年度に比べ、4人までのグループ席に先輩・後輩の分け隔てなく座ってもらったり、グループリーダーとなる1・2期生の頭文字のアルファベットを借用し、グループ名をメトロの路線に当てはめるなど、1・2期生と3期生の間で相互に楽しく学びが深められるよう、工夫を凝らしました。今後の活動に移るにあたっていかにして参加しやすい環境を作るかが、課題になるかと思っています。Googleフォーム等を活用の上、各メンバーの意見をできる限り汲み取って、フレキシブルに活動する形を目指したいと思います。

文学部日本文学科2年 田中 康太

私は鉄道が好きという理由で、メトロボランティアへの参加を決めました。正直、人を助けるより、鉄道に関わることがしたいという気持ちが強かったのですが、研修会を受けてその気持ちに変化がありました。ボランティアを行う上での動きや知識を学び、実際に視覚障がい者の方の話を聞き、人を助けることの素晴らしさを学びました。この経験をこれからのボランティア活動に生かしていきたいです。

経済学部経済学科1年 田中 海翔



実際に体験することで、さまざまな人の視点を考え得ることができました。年配の方の視界や、車いすに乗っている感覚、目が見えない不安。自分で実感することで、相手の立場に立てました。そして、困っているかもしれない、と思うことで、お声かけする勇気を得ました。ご案内の仕方だけでなく、マインドも学ぶことができ、参加してよかったと思います。

文学部哲学科 1 年 蒲生 幸穂

研修会は3～4人の班に分かれて行い、ご年配の方、身体の不自由な方への対応についてのレクチャーを受けました。ご案内の練習では車椅子に乗って、どんな時に安心し、あるいは怖いと感じるのか、操作だけでなく「心のバリアフリー」を学べたのは、貴重な経験でした。新たなメンバーを迎え、メトロボランティアは3年目のスタートを切りました。今年度は活動の定着、そしてメンバー同士の連携を深めることにも注力していきたいと思っています。

人間環境学部人間環境学科 2 年 皆川 桃子



車いす介助の様子



駅構内を案内していただく



駅ボランティア認定証を受けとる



研修を終え集合写真

20. ユニバーサルマナー～多様性の時代に～

1. 日 程 2019年6月10日(月)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

ユニバーサルマナーとは環境(ハード)ではなく、障がいがある方々に対してのこころづかい(ソフト)に焦点を置いたものです。今回は株式会社ミライロからお越し頂いた田中 理子氏を講師に迎えました。

初めは講義形式、後半は障がいがある方々はどのように社会を感じているのか、ということを実践形式で体験しました。

まず、ユニバーサルマナーについての概要や心づかいについての具体的な内容を学びました。身近な例では、プレゼンテーションなどで背景を黒にして、文字を白くすることがありますが、弱視の方への配慮であるそうです。この機能はスマホにも搭載されていることを知り、みんな驚きました。

ワークショップでは、実際に障がいがある方々の社会の感じ方を体験しました。2人ペアになり、1人がモニターに背を向けて、もう1人がモニターに映し出された文字を言葉に出さず、ジェスチャーのみでもう一方に伝えるゲームです。いざ聴覚に障がいがある方と同じ状況になると、なかなか難しく、伝わらないこともありました。

最後に、車いすの方の体験談から「ハードではなく、ハートが大事だ」といったお話がありました。私たちが持つ些細な優しさがその人にとって大きな喜びに代わるのだと思いました。

ユニバーサルマナーは、最初聞きなれない言葉でしたが、実際は私たちの身近に深く関わっていることが学べました。そして今回学び、体験したことが少しでもさまざまな方のお役に立てたらいいなと思いました。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

「障がいは人にあるのではなく、環境にある」という概念を忘れないようにしたいです。「障がい者」という言葉があるとつい「人」にあると考えてしまいます。でも実際はそうではなく、周りの物、人、つまり環境にあるということをもっと自覚しないとダメだと思います。身近で、目が不自由な方が電車に乗ってきたとき、座席に案内するなど、自分ができることをできる範囲で考え、行動できたらと思います。「ユニバーサルマナー」大切にしたいです。

法学部政治学科2年 高橋 克典

思いの外、国際支援の考え方と通ずる点が多かったです。世界の見方が違うという点が一番の共通点でした。ユニバーサルマナーは、ユニバーサルデザインと同様に、すべての人が対象で、バリアをなくし、人に接しても良いのかなと思いました。

「違いより、同じを見つけるほうが難しい」という言葉は響きました。

法学部国際政治学科1年 高柳 茉佑



視覚障がいの方に絵の内容を説明する



他人と違う部分を探し出すワーク

21. 災害救援ボランティア講座

1. 日 程 2019年6月15日、22日、29日（毎回土曜日）
2. 場 所 大内山校舎4階Y402教室、本所防災館、市ケ谷総合体育館

3. 概 要

市ケ谷ボランティアセンターでは、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

第1日目は、市ケ谷キャンパス大内山校舎Y402教室にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験と実技などを行い、大学に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリーダーシップ（図上訓練など）」などのグループワークを行いました。

第3日目は、本学市ケ谷総合体育館柔道場にて、上級救命技術講習として応急手当活動について、実技を交え学びました。人工呼吸、AEDの使用法、災害時などでのけがの応急処置を含めた実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。市ケ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成を目標にしています。

4. 学生参加者数 30名

5. 参加学生の感想

災害時、自分や周りの人の命を守る方法を学ぶ事ができ、良かったです。3週間の講座で学んだことを災害時に活かし、1人でも多くの人の命を守りたいです。ありがとうございました。

生命科学部環境応用化学科 3年 渡辺 柚衣

災害に関する座学だけでなく、グループワークや防災館での体験、救急救命の実習を通して、普段から防災に対して意識を高めていくことだけでなく、いざという時に誰でもなく自分自身が適切な行動を起こせることが如何に重要であるかを思い知らされました。

この講座で身につけた知識は、「災害大国」と呼ばれる日本に住んでいる私たちだからこそ学ぶべきことだと思います。地震や豪雨などの脅威が高まってきている現在、いつ自然災害が起きても自ら率先してとるべき行動を起こせるようにしていきたいです。

社会学部社会学科 3年 黒田 英里馨



1日目、クロスロードゲームの様子



2日目、本所防災館での消火演習



3日目、上級救命技能講習 AEDを使う



3日目、講義終了後、全員で集合写真

22. 自閉症スペクトラム障がいについて考えよう

1. 日 程 2019年6月19日(水)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

講座には9名の参加者があり、ワークショップや、講義を通して参加者、企画者ともに自閉症スペクトラム障がいについての知識を身につけることができました。

まずスタンブラリー形式のワークショップで、自閉症スペクトラム障がいのある方が何をするのが難しいのか参加者全員に体験していただきました。ワークショップの内容は、2枚重ねにした軍手をはめ、手の感覚が鈍くなっている状態ではさみを使ったり、パソコンで文字を入力したりしました。視野が狭くなるゴーグルを装着し、障害物の周りを歩くこともしました。次に模擬授業で騒がしい教室の中、集音器を付けて耳が過剰に聞こえる状態を再現し、ある大学生の1か月の予定のディクテーションを行いました。最後に特定非営利活動法人 ADDS の加藤愛理氏より講義をしていただきました。自閉症スペクトラム障がいについて、障がいを持った方との接し方などを学ぶことができ、私たちが今からできることを考えることで有意義な時間を過ごすことができました。

ワークショップや講義を通して、私たちの「当たり前」が当たり前でない人もいることを再発見することができました。自閉症スペクトラム障がいの特徴は健常者であっても該当するものもあり、自分たちにとって遠い存在でないことがわかりました。今後も「違うから面白い」という意識を持っていただけるような活動を行っていきます。



ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 高師 桜子

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

・企画に参加する前は自閉症スペクトラム障がいについてよく分からず、心の病気？引きこもりの人？少数派なのではないか？育つ環境が原因？といった偏見を持っていましたが、身体的な障がいでもあることや、身近に存在する可能性があること、先天性であることなどを知って、もし今後自閉症の人に出会ったら、壁を作らず、できる限り理解してあげたいと思いました。

・視野を狭くすることで、これまで人と会話する際に自分がいかに非言語コミュニケーション(表情)を手がかりとしてきたのかに気づきました。人の表情を確認するためには、その人の方へ顔を向ける必要があり、このことは会話のテンポ低下へもつながると考えました。障がいを持った人への支援がより豊かに自然にできるような社会になってほしいとあらためて思いました。



障がいのある人をサポートする体験



集音器を付けてのディクテーション

23. 被災地で働くを考える

1. 日 程 2019年6月24日(月)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

今回の講義では、前半は講師にはチーム・オレンジの現地活動にご協力いただいている遠野 山・里・暮らしネットワークの田村氏を招き、大学時代での活動、学びから今までのキャリアに至るまで実体験を講演いただきました。

東京に住みながら、東京を飛び出して地方に移り住み、自ら道を切り開きキャリアを形成してきた田村氏の言葉を学生たちが真剣に聞いている姿が印象的でした。後半はチーム・オレンジのOG2名に講師として登壇いただき、現在の仕事や研究内容、大学時代に行った被災地支援の活動で経験したことが卒業してからどのように活かしているかを講演いただきました。後輩への力強いメッセージはこれから就職活動を控える3年生にとっては貴重な経験となったようです。

ボランティア活動は相手のために行う活動ではありますが、ボランティアをした側も大きく成長することができます。大学の経験を通して社会で活躍されている卒業生2名の講演は、学生にとってもボランティア活動について考える貴重な体験になったと思います。

4. 学生参加者数 26名

5. 参加学生の感想

実際に被災地訪問や、東北での就職も考えている自分にとっては身近なテーマで「学生が東北に来てくれるだけでボランティアになっている」という言葉は現地でもよく耳にしますが、就職活動でも活かせるような視点だと感じました。

個人的に、田村さんが働く土地も内容も、自分の志望と重なる部分があるので、田村さんの働き方を目標として今後とも取り組んでいきたいと思います。

チーム・オレンジ 副代表 文学部地理学科3年 木全 俊介

今年の田村さんの講演はキャリアデザインという新しいテーマで、自分の人生について見つめ直すきっかけとなりました。OGの方の話からは、チーオレで学んだことは社会でも活きるということを知り、少し日々の活動に自信ができました(笑)

一つ改善点があるとすれば、少し終了が遅くなってしまったことです。次回からは、OB OGの方の講演は別日にしてもいいのかなと思いました。大変勉強になった企画でした。

文学部地理学科3年 伊達 隼人

山里ネットさんの活動を深く知ることが出来て良かったです。田村さんのキャリアのお話には、自分自身が1ターン就職を考えているのでとても興味を持ってました。また、チーオレ OGのお二人のお話はチーオレの活動をどのようにされていたのか、就職や進学にどのように生かしたのかがわかり、とても参考になりました。

法学部政治学科3年 長嶋 真綾



質問に答えるチーム・オレンジ OB と山里ネットの田村さん



多くの学生が熱心に耳を傾けた

24. 頭で考えるな。身体で感じろ。 ゴールボール体験教室

1. 日 程 2019年7月2日(火)

2. 場 所 富士見坂体育館

3. 概 要

ゴールボールは、戦争で目に障がいを負った軍人のリハビリを目的として考えられたプログラムをスポーツにアレンジしたものです。選手全員が目隠しをし、3対3で行う球技です。

視覚障がいの有無に関わらず、目隠しをすることによって同じ条件で競技の体験が可能になるので、視覚障がい者の身体の動かし方や考え方を理解できます。また、ゴールボールは2020年東京パラリンピックの正式種目であり、一般学生の東京2020大会への関心を高めることも目的として、今回の企画を実施しました。世界選手権にも参加し、日本代表で主将を務める信澤用秀(のぶさわようしゅう)氏と、国際審判員で東京都ゴールボール連絡協議会の小野和人氏に講演していただきました。ルールについての説明だけでなく、ゴールボールを取り巻く環境や視覚障がいを持つ方の私生活に関することまで貴重なお話を伺うことができました。

企画1: ゴールボールと東京パラリンピックの説明を国際審判員の小野さんにいただきました。

企画2: ゴールボールの形、ボールの重さ、手触りを確認する為に対面のパス交換を行いました。

企画3: パス交換でボールに慣れた後にアイマスクで視界を塞ぎ、見えない中でどの様の行動や思考について学びました。

企画4: これらの活動を行った後に、実際に3対3のゲームを行いました。

プログラムを通して、ゴールボールについての楽しさや難しさ理解や関心が深まりました。また、実際に目隠しをして競技を体験することで、「目が見えない」ということを肌で感じ、東京2020やパラスポーツ、障がいについての理解を深めるきっかけになったのではないかと思います。

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

ゴーグルをつけてディフェンスをすると、ボールが近づいてくるのが怖かったが、思ったよりも鈴の音で転がってくるのが分かっておもしろかったです。チームメイトの位置を把握したり、パスを出すために手を叩いたり名前を呼んで位置を伝えました。はっきりと伝えないと、意思疎通ができないこと、音で伝える大切さがわかりました。

スポーツ健康学部スポーツ健康学科1年 小林 千夏

I'm an exchange student from Taiwan, this is my first time to play goalball. Actually, there isn't any sports like this in Taiwan. I felt new and interesting in the game, hoping that I can play it again in the future!

留学生 時遠 陳

目が見えない中で音だけを頼りにボールを探したり、投げたりするのはとても難しかったです。非常に良い体験になりました。今までテレビの番組等でしか知りませんでしたが、今後生の試合や機会があればパラリンピックで応援したいと思いました。

人間環境学部人間環境学科2年 河野 慎平





ボールを止める姿勢を教わる



音を頼りにボールの方向へ



学生スタッフ VSP メンバーからの挨拶



メンバー全員で

25. [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] いざという時あなたならどうしますか～避難所体験

1. 日 程 2019年7月6日(土)
2. 場 所 大内山校舎8階 Y803、804 教室
3. 概 要

この企画は、避難所で役に立つ知識、震災関連死などの問題についての知識を得ながら、避難所の運営の難しさなどを理解することを目的としています。

実際に、地震によって被災した地域の避難所の運営者をゲームで体験する「避難所運営ゲーム」を行いました。まず、プレイ時間を1時間として、ある程度ゲームを進めた状態からスタートし、次に、開始時間を午前中から午後にし、土曜日2限のある人でも参加しやすいようにしました。また、今回も非常食の試食を行いました。

プレイ時間を短くしたことで、参加者の考えたことを共有する時間を多くとることができました。避難所運営ゲームは今回で私が行うのは4回目ですが、何度行ってもあらゆる意見や違った考え方が出てきます。このような意見や考え方を取りこぼさず、次回の企画をする際、さらにいいものにするために活かしていきたいと思っています。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 文学部地理学科3年 鬼頭 雅也

4. 学生参加者数 15名

5. 企画学生の感想

途中まで進めておいた分、ゲーム実践の時間が長いなど感じることはありませんでした。初めて避難所運営ゲームを行った人の考え方が新鮮でした。また、全体でどう配置したか理由を聞くことで違う視点も得られ、どれを優先したら良いかなどを考えるきっかけになったのも良かったです。

文学部英文学科3年 植松 秀美

各班 5、6 人と少なかったため、1人1人が積極的に参加できた。最初はイベントの処理に時間がかかり悩んでいたが、次第に判断が早くなっていました。一般参加者が少なかったが、チーム・オレンジの1年生に参加してもらえて良かったです。来年度行う場合、参加者をどう増やすかが課題であると思います。

法学部法律学科2年 内田 彩音

今回は各カード1分という制限時間があったため、迅速な避難所運営を心掛けてゲームを行うことができました。実際の避難所ではより多くの要望が出て対応も難しくなると思います。また、マスコミなどの対応も大変だと感じました。それらを予測し適切に対処できるように考え、地域の力になれるように勉強していきたいです。

文学部哲学科2年 山野 亜美

6. 参加学生の感想

日本へ来たばかりなので、地震に関する恐怖が大きかったのですが、今回のこの機会を通じ避難所の運営、いろいろな状況などが考えられてとても役に立ちました。恥ずかしいのですが、私の近くの避難所がどこにあるのか、まだ分からずにいました。今からでも避難所の位置、避難方法などいろいろ調べるつもりです。

法学部政治学科 1年(留学生) 金 秀珍





運営ゲームについて説明する



運営ゲームに取り組む



非常食の試食の準備



学生スタッフが選んだ非常食を試食

26. 防災ゲーム Day

※p.51「千代田区未来の防災リーダー」も同様にチーム・オレンジオリジナル防災カルタを使った企画です。

1. 日 程 2019年7月7日(日)
2. 場 所 有明臨海広域防災公園そなエリア東京
3. 概 要

ボランティアセンター学生スタッフ(チーム・オレンジ)が、一般社団法人防災教育普及協会主催イベント「防災ゲームDay2019in そなエリア東京」で、開発した防災クイズカルタの展示及びブース体験をさせていただきました。

このイベントは、東京都教育委員会の後援を得て、防災教育材やプログラムの普及啓発を目的とし、毎年実施されています。今回のブース体験では、多くの子どもたちや、ツアーでお越しになっていた団体の中でカルタに興味を持っていただいた方々に加えて、KDDIの方やURコミュニティなど出展していた企業様、そして老人ホームや地域コミュニティの方々など、チーム・オレンジのカルタ活動とのコラボや依頼を考えている方がいらっしゃり、本来の防災啓発活動に加えて、他の団体とのコネクションをつくることもできたのではないかと思います。

今回はブースのみでの参加でしたが、来場者の反響もよかったので、来年は体験会での参加も視野に入れていきたいと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

4. 学生参加者数 5名

5. 参加学生の感想

防災ゲームDayは防災クイズカルタを広める良い機会でした。他の団体のゲームにも、参加させていただき防災カルタと比較しながら、ゲームをより良いものにするためにこういったものを取り入れるべきか参考にさせてもらうことができました。

文学部哲学学科2年 山野 亜美

今回初めて参加して、子ども達にだけでなく、企業の方や他のボランティア団体の方々にも、防災クイズカルタを知っていただける良い機会だったと思いました。他の団体の展示等から刺激を受けたので、これからの活動に生かしていきたいです！

法学部国際政治学科1年 小林 都香

まずは、参加人数が少ないことに驚き、この企画が有意義なものか不安になりました。ただ、普段なら絶対やらないことだったので、いざというときに必要な危機管理能力を高めるという点で、非常に役立つものでした。 法学部法律学科1年 柏 和真



訪れた子ども達にカルタを教える様子



防災カルタの展示ブースの前で

27. 「主体性を育む」ファシリテーション講座

1. 日 程 2019年7月8日(月)
2. 場 所 外濠校舎5階526会議室
3. 概 要

ファシリテーションとは英単語の facilitate の名詞形であり、「促進する、〈事を〉容易にする」という意味です。ファシリテーションスキルは災害現場や企業、まちづくりなど様々な現場で活用されます。本講座では「主体性」をテーマにし、特に会議などの話し合いの場に特化した「主体性の育み方」について学びました。また法政大学兼任講師であり、NPO 法人日本ファシリテーション協会フェローである鈴木まり子氏を講師に迎えました。

本講座は「参加型」であることが特徴的でした。まずオリエンテーションからはじまり、講座参加にあたっての説明がありました。

その後「チェックイン」を行いました。初めは2人で、次に円になり全員で自己紹介を行いました。この時間のスキルは①チェックイン②グループサイズです。「チェックイン」とは会議などの話し合いの場で、参加者全員が話す機会を設けることが目的です。また、これは「話す」ことではなく「聴く」ことに注力して行います。

次に「グループサイズ」は、話す場の人数を変えるというものです。人数が少ないと人は距離が縮まり、本音で話しくなります。また、グループサイズが小さくなればなるほど人は強制的に話さざるを得なくなります。はじめに2人で自己紹介を行ったことがこれに当たります。

これ以外にもファシリテーションスキル・ファシリテーターとは何か、どういったことを行くと「主体性を育む」上で効果的なのか、ということを実際に体験を通して学びました。

チーム・オレンジ学生スタッフ 人間環境学部 人間環境学科 3年 小長井 愛

4. 学生参加者数 15名

5. 参加学生の感想

自分のサークルなどの活動でも、短いアイスブレイクが効果的だと思いました。椅子の並べ方や、人数を変えてみるなどをして、距離を近くするとより話しく、会議も進むのだと思いました。私もチーム・オレンジのミーティングに参加することだけが目的になってしまっているので、この講座を受けて反省しました。

文学部 地理学科 2年 中野 ゆかり

話し合いの主役となるのは、進める側ではなく、参加者、出席者である、という考えを持っておくことが重要な事だと感じました。そのために椅子の配置を工夫したり、意見に対する「なぜ」にこだわったり、終わる時間を明確にしたりと視野を広げて、心遣いや柔軟な対応を絶やさないことが大切だと感じました。

法学部政治学科 2年 高橋 克典



円になってチェックイン



話し合いを「見える化」する

28. 千代田区未来の防災リーダー

※p.49「防災ゲーム Day」も同様にチーム・オレンジオリジナル防災カルタを使った企画です。

1. 日 程 2019年8月3日(土)

2. 場 所 千代田区役所区民ホール

3. 概 要

このイベントは、千代田区で、地震体験車による地震体験、AR(防災シミュレーション)などを通して、将来に役立つ防災に関する知識を身につけること、そして災害時にはその知識を活かせるような人材を育成することを目的として実施されました。また、チーム・オレンジの学生が中心となって、防災クイズカルタを行いました。

この養成講座には、小学生1年～4年の生徒20名のほか、保護者の方も一緒に参加していただきました。

防災クイズカルタは、身近な問題から、保護者の方でも難しい問題もありますが、言葉ではなく、絵が描かれていることから、低学年の生徒も十分に楽しみながら、防災教育に触れていただき、短い時間でしたが、閉会時には、「カルタが楽しかった。」などの声をいただきました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

4. 学生参加者数 10名

5. 参加学生の感想

小学生低学年の子が多く、とても楽しそうにカルタをしてくれたのが嬉しくて、カルタをした甲斐があったなと思います。親御さん達も気づきが多かったらしく、大人の方も楽しんでいただけたのかなと思います。楽しくゲーム感覚で防災に関する知識を学び、少しだけでも役に立ててくれたらいいなと思います。

法律学部法律学科1年 福田 桃子

イベントに参加した子どもたちが関心を持って参加する姿が印象的でした。防災クイズカルタでは、大人より、子どもの方が積極的に参加してくれました。イベントに参加した子どもだけでなく、私自身も千代田区が防災に対してどのような取り組みをしているのかがわかり良かったです。地震体験車をアトラクションのように体験する子どもが多くいて、わんぱくさに驚きました。

人間環境学部人間環境学科1年 横山 萌

僕が最も印象に残っていることは子ども達がとても楽しそうに防災カルタに取り組んでくれた点です。

子どもを対象としてカルタをやったことがなかったので不安でしたが、子ども達はチーム・オレンジのカルタでとても楽しそうに防災について学んでくれたので本当に嬉しく感じ、ボランティアをやってよかったと思いました。

今回のボランティアを通して、知らなかった防災の知識を学べ、自分自身も成長することができました。

これからも様々なボランティアに参加し、人の笑顔をつくったり人の力になったりしながら成長していきたいと思います。

デザイン工学部建築学科1年 遠山 開



洪水を想定したAR体験



防災カルタに夢中になる子どもたち

29. 夏の大掃除・3キャンパス清掃

1. 日 程 2019年8月8日(木)
2. 場 所 市ヶ谷キャンパス、多摩キャンパス、小金井キャンパス
3. 概 要

本活動では、普段から定期的に行っている市ヶ谷キャンパス周辺に加え、多摩・小金井の3キャンパスをまわる清掃ボランティア活動を行いました。当日は快晴の空のもとで参加者は楽しみながら熱心にゴミ拾いを行いました。多摩・小金井キャンパスでは清掃活動に加えて、職員さんにキャンパス内の案内をしていただき、参加した学生にとって今まで知らなかった法政大学について新しい発見ができる良い機会となりました。

清掃活動を通して、タバコやペットボトルのポイ捨てが多いことと、注意深く探さないと見つからない意外な場所にもゴミが隠れているということが印象的でした。また、真夏の外での広範囲な清掃活動ということもあり、次回をもっと涼しい時期にもっと多くの人数で実施できたら良かったです。

各キャンパスのボランティアセンターの方々、ご協力ありがとうございました。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1年 鴨 潤矢

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

今回の清掃に参加して、キャンパスの掃除を行ったことで、法政大学の「ポイ捨ての実態」を目の当たりにして、危機意識を得ました。この活動に参加したことが、普段の学生生活で気に留めないような、身近な問題に気がつくキッカケになりました。今回の活動で得た「気づき」を自らの生活にも取り入れ、よりよい学内環境を整える一員としての意識を高めたいと思います。

経営学部経営学科 1年 五味 祥紀

猛暑日の中での活動で、全身が汗でビショビショになりましたが、かなりの量のゴミが回収できたので達成感がありました。一番回収したのはタバコの吸殻だったので、ポイ捨てするのではなくしっかりと灰皿に捨てて貰いたいと感じました。また各キャンパスの特徴について、ゴミ拾いを通じて知ることができました。

法律学部法律学科 1年 清宮 幹太

普段使っているキャンパスを含め、1日で全てのキャンパスを回り清掃を行うことで大学に対する一層の愛着を持つことができました。あまり意識することのないゴミ拾いに着眼することで、普段スポットが当たらなくとも大学をきれいに保ってくださる清掃員の方々への感謝や学生のマナーや配慮の大切さを感じました。

経済学部国際経済学科 4年 田中 雅也



市ヶ谷外濠公園を清掃する様子



多摩キャンパスでの清掃

30. 気仙沼児童館ボランティア

1. 日 程 2019年8月6日（火）～8日（木）

2. 場 所 宮城県気仙沼児童センター

3. 概 要

現地の子どもたちと楽しく防災の知識を深めることを目的に、毎年夏と冬の長期休暇にこの活動を行っています。

今回は多くの学生が参加することができたので、子どもたちとの交流をメインに企画を進めて行いました。子どもたちと共に遊びやゲームをすることによって親密になることができれば、恒例の防災クイズゲームも盛り上がるのではないかと考えたためです。実際、カルタを広げるとすぐに小学校低学年の子どもたちが集まってきてイベントが始まるのを待っていてくれました。しかし高学年の子どもたちはあまり関心がなさそうな様子でした。今後の課題として防災クイズカルタについて、興味を惹きつける策も考えていく必要があると感じました。

さらに前回に引き続き、パラリンピックの種目であるボッチャも行い、こちらは多くの子どもが興味を持ってくれました。学生も競技に参加し白熱した試合を見せてくれました。

今回は、1年生が多く参加してくれました。カルタの作成者では無い1年生の感想や意見をチーム・オレンジ内で共有し、防災クイズカルタをより良いものにしていきたいと思います。

文学部哲学科2年 山野 亜美

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

子どもは非常に元気だったが、各自なりのアプローチで接していた。カルタは1年生が中心となって読み手に加わったり、子どもと一緒に札を取ったりしていました。とても頼もしい1年生だと感じました。ボッチャも想定以上に盛り上がったので、次回以降も継続できればと思います。

文学部史学科2年 小島 悠輔

カルタは小学校低学年の子から「難しい」と言われたけれど、頑張って1枚でも多く取ろうと楽しんでくれていて良かったです。2日間という短い時間だったけれど、別れが惜しくなるくらい素晴らしい時間を過ごすことができました。

法学部1年 間宮 理子

児童館の子どもと対面した時には、戸惑う部分もありましたが、最後には名前を覚えてくれるほど距離を縮めることができ、とても嬉しかったです。そのおかげで、防災クイズカルタもすることができ、本来の訪問した目的も果たすことができました。とても良い思い出を残すことができたと思います。

法学部国際政治学科1年 橋本 琴音



防災クイズカルタを行う



ボッチャを楽しむ子供たち

31. 第10回外濠市民塾「外濠^{しゅんせつ}浚渫工事見学会」

※p.66「外濠の環境をまもる～浚渫工事について知り環境問題について学ぶ」の関連イベントです。

1. 日 程 2019年8月7日（水）

2. 場 所 大内山校舎8階 Y804 教室、外濠 新見附橋～飯田橋

3. 概 要

10月9日（水）に予定されている学生スタッフ企画「外濠の環境をまもる～浚渫工事について知り環境問題について学ぶ」をふまえ、事前に外濠の浚渫現場を見たいという希望があり、見学会に参加させていただきました。

この講座はエコ地域デザイン研究センター協力のもと、外濠市民塾実行員会主催で行われました。外濠を取り巻く法政大学をはじめ、東京理科大学、日本大学、中央大学などの大学や近隣の企業の協力のもと、開催されています。外濠市民塾の学生スタッフの誘導で大学前から飯田橋を経由し、小石川橋の浚渫土積込状況を実際に見学し、大学に戻りました。猛暑の中でしたので、学生は日陰への移動や冷媒を使用して行動するなどに気を付けていました。

実際に浚渫現場を見ると、車両が入れない、水源がない、潮の満ち引きと深い関係がある、などを聞くことができ、いつもの風景を別の視点から見ることもでき、身近な外濠の浚渫工事について新たな発見がありました。

4. 学生参加者数 4名

5. 参加学生の感想

いつも何気なく通っている外濠でしたが、見学していると、普通の河川よりも上から眺めているだけで近くに行くことができないという距離感を感じました。

もっと、無料で安全性があり、川に近づける場所ができれば、外濠の賑わいもよくなると思いました。また、パイプだけでヘドロを運搬している建設業さんの技術に驚きました。いつもはできないことを見学を通して体感することができました。

文学部地理学科1年 三村 優奈

外濠にも生態系が存在していたことに驚きました。また、浚渫（しゅんせつ）などについて、一般の人が頭の片隅に置いておけるようにすることが大切なのかなと思いました。また、そうするために自分たちが何をしていけばいいのか考えて行動していきたいと参加をしてみたいと思いました。

デザイン工学部都市環境学科1年 川上 健太

外濠の構造や歴史的背景、地域社会との関わりなど、多角的な視野からの考察を深められた。街中の見落としがちな風景にも、関心を持って様々な見方をすることが、思わぬ発見をもたらす事を学べた。また、浚渫工事は決して世間から注目をされてきたものではないが、外濠市民塾に参加したことで、その影の努力が我々市民の豊かな生活を成り立たせているのだと知り、ありがたさを実感するきっかけとなった。

経営学部経営学科1年 五味 祥紀



現地でポンプ浚渫工事について関係者から説明を受ける



浚渫工事の下流、土運船で汚泥を運ぶ

32. [キリン福祉財団助成事業] 2019年度東北被災地ボランティアツアー

1. 日 程 2019年8月19日(月)～23日(金)、8月22日(木)～8月26日(月)

2. 場 所 岩手県

3. 概 要

NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワークの協力により法政大学ボランティアセンター、私たち学生スタッフ「チーム・オレンジ」が企画し、震災直後から8年間、毎年40名前後の学生が岩手県遠野市を拠点とした東北被災地ボランティアを行っています。

学生が自ら現地に赴くことで、メディアからは伝えられない被災地の現状や課題を知り、住民の声や経験を聞くことで、防災意識も高めることができます。

また、地方自治体が抱える低所得化や少子高齢化、住民減少などの社会問題を直に学ぶことで、復興支援の在り方や地方自治体の活性化について考える機会を得ることができます。

今年度の本プログラムにおけるキーワードは「変化」でした。震災から8年経ち、東日本大震災の記憶を持つ学生も減りつつある現在、様々な試みを行いました。具体的には、学生の被災地ボランティアのニーズを知るために、アンケートを行ったり、事前説明会で自然地理、自然災害学の先生をお呼びし、地震について学び直したり、学生が被災地に行くことの意義をきちんと説明、現地活動においても様々な試みをしました。現地では、公営住宅でコミュニケーションをとりながらのハーバリウム作り体験や、軽作業を1日行ったり、訪れる地域をあえて限定させるなど、工夫をしました。

本プログラムは、ボランティアセンター学生スタッフのチーム・オレンジが中心となって、ボランティアの内容や活動意義について事前説明会を実施し、帰着後には、このプログラムにおける成果や感想の報告会を実施しました。

また、法政大学の被災地支援の取り組みをまとめた「チーオレ新聞」を作成し、ボランティア先で配布し、現地NPO法人とミーティングを重ね活動内容を検討するなどして、大学の被災地支援の取り組みの活性化に大きく貢献しました。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 法学部政治学科3年 白川 直樹

4. 学生参加者数 40名

5. 企画学生の感想

震災から8年が経過し、私たちができることは、震災を忘れないこと、そして現地で学んだことを東京に持ち帰り周りの人に伝えることです。震災を過去のものと風化させず、いつか起こると言われている首都直下型地震や南海トラフに備えること。これからの時代を担っていく私たち学生にしかできないことがまだまだあると思います。今回のボランティア活動を通して、課題がたくさん見つかったのでそれを無駄にすることなく活かし、来年以降もより良い活動にしていきたいと思います。

最後に現地でお世話になった方々、山里ネットのスタッフの皆様、助成金の援助をいただいたキリン財団様、法政大学の教職員の方々など、遠野プロジェクトに関わってくださった全ての方に心から感謝を申し上げます。

法学部法律学科2年 内田 彩音

最も印象に残ったのが木こりである芳賀さんの震災講話です。事実として知ったつもりになっていましたが、被災された方々は自分の想像をはるかに超える出来事を経験したのだと改めて思いました。

ボランティアでは、こちらが何か力になるつもりでいますが、逆に勉強になったり元氣や勇気をもらったりすることが多く、「不思議なものだな」と思いました。それと同時にボランティアは敷居が高いと思っている人に、このような素晴らしい経験をしてもらいたいです。

文学部英文学科2年 中辻 佳菜



行ってみて本当によかった、行ってみないと得られない知識があったし、人々の様子は実際に見てみないとわからないと、とても実感しました。私の被災地の記憶は津波が押し寄せて家や施設が瓦礫となって流れているという衝撃的な映像で止まっていました。でも、今回行ってみて、町にはショッピングモールがあったり、思っていたより住宅が立ち並んでいたりと現状は大きく異なり驚きました。また、被災地に必要なことはコミュニティ支援なのだと気づかされました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 柏木 玲美

遠野市から陸前高田市に移動する際、あたりが何も無いところに出た景色が印象的でした。語り部の釘子さんのお話で、盛り土が終わるまで企業や商業施設が来れないということを聞き、それまで若者などが働き口を求め都市部へ流出が続いていくのだと思いました。

しかし「みんなが集まる」ところがあればそれが復興なんだという言葉聞いた際には、そのすぐく前向きな姿勢に驚きました。また自分も頑張らなくてはと思いました。

法学部法律学科4年 高田 輝



公営住宅での集合写真（40、41 次隊）



公営住宅でお年寄りとコミュニケーションを取りながらのボッチャ（38、39 次隊）



大槌町での震災講話（40、41 次隊）



ネギ畑でのボランティア（38、39 次隊）

33. [千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム] 高齢者と音楽を通して楽しく交流しよう！in かがやきプラザ(学生スタッフVSP企画)

1. 日 程 2019年8月27日(火)
2. 場 所 千代田区立高齢者総合サポートセンター かがやきプラザ
3. 概 要

今回のボランティアでは楽器演奏や合唱を通じ、地域の高齢者の方々と交流しました。「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム」を構成する他大学の学生(共立女子大2名)も企画に加わりました。

当企画は学生と高齢者とが関わる機会を双方に提供し、かがやきプラザが行っている多世代交流事業の一環としても機能しました。曲目はNHK朝の連続テレビ小説(以下朝ドラ)主題歌、テーマ曲、挿入歌の中から選曲し、高齢者も学生も多くの人が知っているような曲が詰まった音楽会になるようにしました。

「大学生と振り返る!朝ドラテーマ曲」をタイトルにし、「おしん」のテーマから「優しいあの子」(『なつぞら』主題歌)まで、全8曲を演奏しました。そのうち4曲は学生のピアノや管・弦楽器による演奏、残り4曲は学生の伴奏に合わせて会場にいる参加者全員で歌をうたいました。また、「365日の紙飛行機」ではサビの部分に手振りを取り入れ、全員で振りを練習したときには和気あいあいとした雰囲気包まれました。

経営学部市場経営学科2年 後藤 優音

4. 学生参加者数 18名(共立女子大2名)

5. 企画学生の感想

高齢者向けの企画に参加するのは初めてで、また普段あまり高齢者の方と接することもないので、不安でしたが、沢山の暖かい言葉をいただくことができ、地域と学生を繋ぐ企画として成功したと思っています。3年前に始まった音楽ボランティア企画も、4回目を迎え、回を経る毎に進化を遂げています。大学の垣根を越え、地域の方々と学生とのコミュニケーションを取れる機会として、更に発展させることができるよう努めていきたいと思っています。

経営学部経営学科3年 菅 結菜

人生の大先輩方と触れ合うことができ、貴重な経験をすることができました。音楽ボランティアは今回が初めてだったのですが、無事やり遂げることができ、お褒めの言葉もいただき嬉しかったです。また、自分の考えた振り付けで皆さんと交流し、やりがいを感じることができました。音楽を通じた交流の素晴らしさを知ることができたので、このような企画を継続して行っていきたいなと感じています。

経営学部経営学科1年 富岡 美友

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画
In かがやきプラザ
高齢者と音楽を通して
楽しく交流しよう!

演奏が得意な学生はもうらん!
演奏はできなくてもお年寄りの方々と一緒に歌を歌ってくれる学生や、
会を一緒に盛り上げてくれる学生を募集します! 募集人数: 12名

日時: 8月27日(火) 14:00~15:00
→当日10:30にボランティアセンター集合
場所: 千代田区立高齢者総合サポートセンター
かがやきプラザ1階 ひだまりホール

当日の予定
13:30 集合、14:00~14:15開演、14:15 演奏、14:30 挨拶、14:45 演奏、15:00 閉演
15:00 閉演、15:00~15:15 挨拶、15:15 演奏、15:30 閉演、15:30~15:45 挨拶、15:45 演奏、16:00 閉演

申し込み: メールで市ヶ谷ボランティアセンターへ
メール: 市ヶ谷ボランティアセンターへ
「学生スタッフ」、「学生スタッフ」、「学生スタッフ」、「学生スタッフ」を
ご記入ください

問い合わせ: 市ヶ谷ボランティアセンター
TEL: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



365日の紙飛行機 一緒に体を動かす



高齢者と音楽を通して楽しく交流しよう
ボランティアメンバー

34. 荒川区縁日大会～お祭り～ボッチャ体験会 (荒川区社会福祉協議会)

1. 日 程 2019年9月7日(土)
2. 場 所 荒川区ジョイフル三ノ輪商店街
3. 概 要

この催しには、荒川区社会福祉協議会の職員の方々が8名と実習生1名、法政大学からは学生ボランティアスタッフVSPの3名が参加しました。

縁日大会では、「ボッチャ風当てゲーム」を行いました。この当てゲームでは、パラリンピックの競技種目である「ボッチャ」を簡易化したルールが取り入れられており、小さい子どもでも簡単にボッチャのようなゲームを遊ぶことができます。普段はあまり見かけない多くの子ども達が一斉に集まり、「当てゲーム」のブースにもたくさん子ども達が来ていました。また、ボッチャについての説明を書いたボードも用意されていた為、来場された多くの方々にボッチャを知っていただく機会となりました。始めたばかりの頃は、ボールを投げるゲームであることや店の前のスペースを広くお借りするということもあり、商店街の方々は不服そうな顔で見えておりましたが、使えるスペースを教えてください、壁の塗装が剥がれて落下してしまった時に張り紙を作ってください、最終的には商店街の方々にご協力いただくことができたおかげで成し遂げることができました。地域での大きな催しものは、地域の方々と協力してこそ成功させることができるのだと実感しました。

人間環境学部人間環境学科1年 荒巻 洋恵

4. 学生参加者数 3名

5. 参加学生の感想

休日ということもあり、親子で来場される方が多かった印象がありました。普段は仕事で忙しくて話す時間をあまり取れない保護者の方と子どもたちが楽しく過ごす時間になっていたとしたら嬉しいです。またこれをきっかけに地域の方々との交流が活発になれば、地域の中での「助け合い」も生まれてくるのではないかと感じます。このような機会があれば是非参加したいです。

文学部日本文学科2年 齋藤 真悠

このお祭りでは、ボッチャを体験してもらう企画をしました。来てくれた子どもたちにボッチャを教えたり、それ以外でも楽しく話せたり、このように地域の人たちと交流するのは初めてだったのでとてもいい機会でした。ジョイフル三ノ輪で行われたお祭りには多くの地元の方々が来場されていて、本当に地元の皆さんに愛されている祭りだと思いました。

文学部史学科2年 坪井 雄大



次々と参加者が集まる



的あての受付準備

35. 法政フェア

1. 日 程 2019年9月15日(日)
2. 場 所 外濠校舎1階メディアラウンジ
3. 概 要

東日本大震災の復興支援・防災啓発に取り組んでいるチーム・オレンジは、東日本大震災の被災地である東北のイメージアップのために、特徴的な4つのお祭りの紹介と福島米のおいしさ・安全性をアピールするパネル展示を実施したほか、防災について身近に楽しく学んでいただける防災カルタの体験をおこないました。

展示では、宮城県の「女川復興祭り」「仙台・青葉祭り」・福島県「相馬野馬追」・岩手県「宮古鮭まつり」を紹介しました。福島のお米展示では、おいしさの所以と安全への取り組みを紹介しました。

どちらも展示だけではなく、豆知識やクイズ・動画も利用したため、「知らなかった」「ためになった」といった声を頂き、東北のイメージアップができたかなと思います。

防災カルタでは、正解の札がとれたら拍手や「やったー!」といった歓声上がるなど、子どもから大人まで楽しく防災について学んでいただくことができたと思います。

企画立案当初から、難しい内容をどうすれば楽しんでいただけるか、グループみんなで工夫を凝らしました。しかし当日は約4時間で延べ263名(展示:149名 カルタ:114名※各ブース来場者数)という非常に多くの方にご来場いただくなど大成功のうちにイベントを終了することができました。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ 文学部地理学科3年 清水 遥貴

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

私達広報班は4月から法政フェアに向けて準備をしてきましたので、たくさんの方々にご来場いただけて嬉しかったです。特に、小さなお子さんが楽しそうに防災カルタやクイズに参加している姿が印象的でした。今回の展示を通して被災地に関心を持っていただけたら幸いです。

法学部政治学科1年 桐尾 奈菜

福島のお米の安全性や東北のお祭りをOB、OGだけでなく、小さなお子さん達にも楽しめる展示で伝えることで、皆さんにプラスのイメージを持ていただけたかと思います。また私自身も展示を作る過程で、ますます東北の魅力を感じることができました。

法学部国際政治学科1年 小林 都香

普段東北と関わりのある方にもない方にも、パネル展示を通じてお祭りやお米について知ってもらうことができ、良かったです。福島県からの来場者の方に「見ごたえのある展示だった」と言っていたことが特に感激でした。機会があれば、今回取り上げたお祭り(特に相馬野馬追)にも参加したいと思いました。

文学部地理学科3年 伊達 隼人



タイムテーブルを持ってブースを宣伝



チーム・オレンジの展示を見る来場者

36. 高円寺子ども食堂ボランティア

※p.23「高円寺こども食堂」も参照ください。

1. 日 程 2019年9月21日（土）

2. 場 所 高円寺子ども食堂

3. 概 要

最近「子ども食堂」という言葉はニュースなどでも頻繁に聞くのではないかと思います。子ども食堂は、子どもたちやその保護者・ご高齢の方に食事を提供するだけでなく、地域の方とコミュニケーションをとることでもできるので、人との繋がりを感じられる場所でもあります。また、現在全国に3,000か所以上あり場所によって様々な特色があります。

今回は以前から何度もお世話になっている高円寺子ども食堂に伺い、活動に参加させていただきました。午前中は食堂を開く準備のお手伝いをしました。受付や子どもたちが遊ぶおもちゃの配置などを行ったり、早く来た子どもたちとお話をしたりしました。

午後になると沢山の方が子ども食堂に訪れます。来られた方の受付や食器の後片付けを行うとともに、今回はパラスポーツのポッチャを子どもたちに体験してもらいました。子どもたちがポッチャを体験してとても楽しそうにしてくれていたのが、私たちも心が温くなりました。この体験をきっかけに、パラリンピックを身近に感じてくれる子が出てきてくれたら嬉しいです。

今回は約100名の方が食堂に足を運んでくださいました。とても忙しかったですが、子どもから大人まで多くの方の笑顔を見ることができたので参加して良かったと心から思いました。今後も継続的に子ども食堂での活動を行っていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 齋藤 真悠

4. 参加者の感想

私が目にした光景は沢山の親子と、地域の学生からおじいちゃんおばあちゃんがひとつの場所に集まり、みんなで大きなテーブルを囲んで賑やかにご飯を食べている姿でした。今回の体験を通して、パラリンピックの種目の一つであるポッチャを多くの方々に知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけになったかと思います。また、地域の方々が集まり、交流できる機会があることはとても大事なことでこの企画を通して感じました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宇野 瑠奈

初めて訪れた子ども食堂は想像していたよりも賑わっていて、子どもたちや地域の方からボランティアで訪れた私たちがパワーをもらいました。私たちが企画したポッチャをたくさんの人に体験していただき、ポッチャがより多くの人に伝わればいいなと今回の活動を通して思いました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 高師 桜子



折り紙を教え合って一緒に楽しむ



ポッチャをしながら子どもと触れ合う

37. [キリン福祉財団助成事業] 2019年度東北被災地ボランティアツアー報告会

1. 日 程 2019年9月23日（月・祝）

2. 場 所 大内山校舎 4 階 Y402 教室

3. 概 要

このボランティアは「チーム・オレンジ」が企画し、8月19日（月）～26日（月）の期間、2部4隊にわたり、NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークの協力により実施しました。

今回は、東北被災地ボランティアツアーに参加した学生・教職員はもとより、参加できなかった一般学生の参加もあり、被災地支援ボランティアプログラムへの学生の関心の高さがうかがえました。

報告会は職員からの挨拶の後、概要説明、38隊から41隊の実施報告&感想、教職員からの感想・総括の構成でした。事前学習や、下見、現地スタッフとの細かい打ち合わせなどを学生が自主的に進め、ボランティアツアーの実施に至りました。

4. 学生参加者数 35名

5. 企画学生の感想

まず、今回の報告会は始まった瞬間から昨年、一昨年とは違うことを感じました。

各人から出た感想もそれぞれがしっかり考えたものになっていて、特に1年生や初参加の人達の感想は新鮮で聞いていて面白く、今後の活動にも生かせそうなものもありました。

意見の共有、そしてこれからの東北ボランティア支援活動の可能性を感じられた事が何よりもの成果であり、同時に報告会の目的を達成することができたと思っています。

法学部政治学科3年 白川 直樹

改めてボランティアを振り返る機会があったことで、思い出す良いきっかけになりました。感想を言うために、この活動を通して何を感じたのかまとめることで自分の中で整理することができました。また、同じ活動をして違う感想を持った参加者の意見も聞くことができて良かったです。さらに、わたしとは全く違う活動をした方たちが何をして、どう感じたのかまで知ることができて、とても有意義な時間になりました。

文学部英文学科2年 中辻 佳菜

6. 参加学生の感想

～東北被災地ボランティアツアーに参加して（報告会での発表で）～

私が住んでいる地域は、震災時は停電が多かった地域だったので、大変だったのに、時間が経つにつれて思い出せなくなっています。また、現地に行く前に被災者を可哀想な対象として見ていた事が恥ずかしくなりました。行ってから持った感想は、ほんとに「自分ごと」だと思いました。また、ボランティア行ってから変化があったように感じ、家族にも「かわったんじゃない？」と言われました。防災意識が前と変わった事も感じています。そして、自分自身が未来にできる事がなにかあると考えるようになりました。



38次隊の発表～リーダーの白川さん



熱心に話を聞く参加者

38. チーム・オレンジ被災地支援オリジナルグッズ企画

1. 日 程 2019 年 9 月～11 月
2. 場 所 市ヶ谷ボランティアセンターなど

3. 概 要

ボランティア学生スタッフ「チーム・オレンジ」が 9 月～11 月にかけて被災地応援グッズを株式会社 HU と共同して作成しました。今回の商品は、「えこびよんのエコバック」とチーム・オレンジオリジナルキャラクター「オーレ君、チーちゃんのポーチ」の 2 種類です。

エコバックが 550 円（税込み）、ポーチが 880 円（税込み）で 12 月中旬より一ツ坂校舎 1 階の法政大学オリジナルグッズショップ（WEB ストアも開設中）、及びセブンイレブン法政大学市ヶ谷キャンパス店で販売を開始。1 つの商品のご購入で 20 円を被災地に募金することができます。

エコバックは青とオレンジの 2 種類でえこびよんがデザインされており、使わない時は小さく収納できるようになっています。今後、レジ袋が有料化されるため、エコバックのニーズは非常に高くなるのでお勧めの商品です。

ポーチも形状や色がシンプルなデザインで、可愛いキャラクターをアクセントとして入れた使い勝手の良いポーチに仕上がりました。

4. 学生参加者数 2 名

5. 販売数（3 月末現在） エコバック 173 個、ポーチ 24 個
被災地への寄付 9,640 円（その他オリジナルグッズも含む）
※岩手・宮城・福島・熊本の 4 県に寄付しています。

6. 企画者の感想

震災から 9 年がたった今、震災の記憶も少しずつ薄れてきてしまっているように感じています。グッズを通し、チーム・オレンジの活動を知っていただき、被災地のことを考えるきっかけになってほしいと思います。売り上げの一部は被災地へ寄付されるので、沢山のの方にグッズを手にとっていただくことで、少しでも被災地に貢献することができたら嬉しいです。

法学部政治学科 3 年 三輪 窓佳

チーオレ広報班は法政フェアでの企画展示といった取り組みをしてきましたが、より多くの方に、東京にいながらでも被災地の支援に繋がる企画ができないかと考え、今回のオリジナルグッズ(エコバック)製作企画に取り組みしました。1 個あたり 20 円の寄付と決して大きい額ではないのですが、少しでも被災地の発展に貢献できたらと思っています。

文学部地理学科 3 年 清水 遥貴

《購入者（ポーチを購入いただきました）の感想》

とてもかわいくてすぐに購入しました。中もポケットがついていて分けて物を入れられるので気に入りました。法政のグッズでポーチは初なので、いい着眼点だと思います。えこびよんに勝てるようにオーレ君、チーちゃんも頑張ってください。

法政大学卒業生



エコバックはオレンジとブルーの 2 色



グッズを手にするチーム・オレンジ企画メンバー

市ヶ谷ボランティアセンター
活動について

40. 手話講座 入門編(全8回)

1. 日 程 2019年10月3日、10日、24日、11月7日、
14日、21日、28日、12月5日(全日木曜日)

2. 場 所 大内山校舎5階 Y504 教室

3. 概 要

NHK 手話ニュースキャスター中野 佐世子氏を講師に招き、自己紹介をはじめ、基本的なあいさつから、聴覚障がい者について、また障がい者に関する法規にも触れながら理解を深めました。テキスト「遊んで学べる手話ゲームブック」を基本に、手作りの教材も使用し、歌を交えて多くの手話表現を覚えしました。講義を通じ、障がいのある方だけでなく、困っている方を見つけたら、何ができるか考えて、まず声をかけようという気持ちを持つことの重要性を知ることができました。

参加学生からも「ここで覚えた手話を、普段の生活や就職した後にも生かしていきたい」という声が聞かれました。

4. 学生参加者数 35名

5. 参加学生の感想

ドラッグストアでのアルバイトで耳が聞こえない方がご来店されたことがきっかけで参加させていただきました。新しい言語を学んでいるようで新鮮でした。また、障がい者についてやどのようにお手伝いをするのかということを講義で学び、驚く事や初めて知った事も多かったです。4年生でもうすぐ社会人となりますが、これから今回学んだ事を活かしていきたいです。

社会学部社会学科4年 杉浦 美優

私は、デフ・フットサルの日本代表選手として活躍する友人がいたことがきっかけで今回の手話講座に、参加させていただきました。彼は後天的な聴覚障害者だったので、口の動きを読み取って日々の会話はできていました。しかし、今回の手話講座で日常生活の中での大変な点をたくさん学び、もっと手話を練習して、彼と話したりできるようになりたいと思いました。

またどこかの手話センターでお会いできたらうれしいです。

文学部英文学科2年 大平 竜来

わかりやすく、丁寧で、楽しく学ぶことができたのでコミュニケーションの1つとしてもっとできるようになりたいし、自分がしている仕事で、告知する際の通訳としても使えるようになりたいと思っています。

もっとずっと長くてもいいかなって、知れば知るほどもっと学びたいと思える手話だったので毎週木曜日に学校行くこと楽しみにしていました。

法学部法律学科1年 藍原 由梨奈



ペアになって覚えた手話で会話



8回の講座を終えて集合写真

市ヶ谷ボランティアセンター主催 ボランティアプログラム

手話講座

入門編

難文字の暗記から始め、
あいさつや自己紹介など、
簡単な会話の習得までを学びます。
ぜひこの機会に手話にふれてみませんか？

※事前にまったく知らなかったことの多い
初心者の方でも大丈夫です。
※定員は限られていますので、お早めの申し込み
が参加の確率を高めます。

10月3日(木)～全8回
10月3日、10日、24日、11月7日、14日、21日、
28日、12月5日 毎週木曜日に開講します。

時 間 : 16:50～18:30 (5回)
場 所 : 大内山校舎 Y504 教室 参加費: 無料
募集対象 : 本学学部生、教職員・定員40名(定員に達し次第締め切り)
講 師 : NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子 氏
申込み方法: メールでの申込み、または市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書記入

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

41. 千代田区男女共同参画センター第7回 MIW 祭り ポッチャ体験教室

1. 日 程 2019 年 10 月 5 日（土）
2. 場 所 千代田区役所 男女共同参画センターMIW（ミュウ）
3. 概 要

MIW 祭りでは、学生が来年に迫る東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたポッチャの体験会を行いました。

昨年にはこの「MIW 祭り」で、今年 5 月には「神田すずらん祭り」で体験会を行いました。そうした活動の効果もあり、今回はポッチャをご存じの方が多く来場されました。

6 月の打ち合わせ会から参加し、学生自ら千代田区や MIW の担当者さん方と調整を取り合いながら進めました。調整を進めるごとに学生も千代田区の方々と話す機会が増え、勉強になることや、MIW の活動を知るきっかけにも繋がりました。

ポッチャは、目標球に向かってボールを投げ、どれだけ近づけることができるかを競う、重度の脳性麻痺者のためにヨーロッパで考案されたパラリンピック正式種目です。今回の盛り上がりから、ポッチャに興味関心をもった方々が多いのではないのでしょうか。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）法学部政治学科 3 年 藤山 雄多

4. 学生参加者数 4 名

5. 参加学生の感想

高齢者から子どもまで様々な方が参加し、障がいをお持ちの方や年齢や問わず誰にでも楽しめる競技だと感じました。今回の活動では、そのような競技を知り、実際にプレイを体験したりと、私にとって新鮮で刺激的でした。今後、ポッチャのような競技の存在が広まり、「どんな人でも参加できる競技」に目を向ける人が広まって欲しいと思いました。

文学部心理学科 1 年 三代 莉里子

僕は MIW 祭りにも昨年参加し、千代田区のイベントでは何度もポッチャの体験会を実施しました。顔見知りも増えて、今ではイベントへ出向くごとに挨拶をしてくださる方がいらっしゃるほどです。こうした活動は東京 2020 を盛り上げるのはもちろん、地域と私達学生との関係を促進するのにも繋がっており、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが終わった後も継続していきたいです。

法学部政治学科 3 年 藤山 雄多



来場者にポッチャを教える学生スタッフ



明治大学のボランティアスタッフとも交流

42. 外濠の環境をまもる～浚渫工事について知り 環境問題について学ぶ～(学生スタッフVSP企画)

※p.54「第10回外濠市民塾「外濠」浚渫工事見学会」の関連プログラムです。

1. 日 程 2019年10月9日(水)
2. 場 所 外濠校舍5階526會議室
3. 概 要

市ヶ谷キャンパスの目の前にある外濠も東京 2020 オリンピック・パラリンピックを
ふまえ、浄化を求められています。本企画では、東京都内で外濠などの^{しぜんせつ}浚渫の実績
がある小柳建設株式会社の方を講師としてお招きし、浚渫工事の概要や環境問題を理
解した上でワークショップをおこないました。

前半の講義では、会社についてご説明いただき、外濠の河川に浮かんでいる土運船^{ど うんせん}が、浚渫に重要な役割を果たしていることを知ることができました。また河川に蓄積した土砂を取り除く時は、臭いが発生したり、生態系を壊さないように注意したり、周囲の環境に被害が及ばないように工夫や配慮がされていることを学びました。工事を行うことにより、洪水や悪臭、放射線を取り除くといった社会貢献や環境保護・改善にも繋がっていることへの知識を得ることができました。

後半のワークショップでは、①講義を受けての感想・質問 ②オリンピックで取り組むべき環境問題 ③浚渫の PR についてグループごとに話し合いをしました。各議題に対して、講義を聴く以前は“浚渫”という言葉の意味がわからなかったけれど、外濠で何が行われているのか知ることができた、身近な外濠の環境保護への意見として、ゴミの分別やエコバック、熱電球からLED電球への交換、浚渫工事前後の比較画像を掲示して効果を広める、過去の外濠の記録公開する、などといった考えが出ました。本企画を通して浚渫工事を身近に感じることができ、外濠を取り巻く環境問題について理解を深める場となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科 1 年 三村 優菜

4. 学生参加者数 33 名

5. 企画学生の感想

ボランティアセンターの職員のみなさんや先輩方の助力、そして何より1年生メンバーとの協力によって、企画の成功に至ることができました。「浚渫」をきっかけに環境問題に対する意識が深まったのはもとより、多くの人と関わる機会を得られたことも、私にとって大きな経験となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科 1年 五味 祥紀

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科 1 年 五味 祥紀

学生だけでなく、先生方を含むたくさんの参加者といっしょに環境問題や浚渫工事について考える良い場となりました。この企画を通して、河川における環境問題について、外濠という身近なところから学べてよかったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学部 1 年 鴨 潤矢



小柳建設担当者様からの説明



グループワークでのまとめを発表

43. 車いすラグビーから学ぶ パラリンピック競技の魅力

1. 日 程 2019 年 10 月 23 日 (水)

2. 場 所 富士見坂体育館

3. 概 要

車いすラグビーは東京 2020 大会パラリンピックの正式種目であり、車いすを激しくぶつかり合わせながら得点を重ねるスポーツです。今回は車いすラグビーを通して、障がいと多様性、パラスポーツについて学ぶことを目的としました。

まず、一般社団法人 日本車いすラグビー連盟 福井 正浩氏より、パラリンピックの歴史や、ご自身が車いすラグビー選手となるまでの経緯について伺いました。パラリンピックの父と称されたルートヴィヒ・グットマン氏の言葉「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」が、障がい者と健常者の両方に向けられているというお話に、参加者は大きくうなずいていました。次に車いすラグビーを体験しました。安全な乗り方や方向転換の練習後、ルールなどを教えていただき、実際に試合を行いました。頑丈に作られた競技用車いすでタックルやパスに挑戦しながら競技を楽しみ、最後に、本学学生でもある車いすラグビー選手の牟田さんから、タックルを受ける体験を行いました。車いす同士がぶつかる衝撃は想像以上の迫力で大きな歓声があがりました。

パラスポーツは、多くの人が見たり体験することでより理解を深めることができます。パラリンピックが終わった後も多くの人に関心を持てるように、ボランティアセンターはこれからも様々なパラスポーツを紹介していきます。

4. 学生参加者数 17 名

5. 参加学生の感想

私のいとこが水泳で 2020 年の東京パラリンピック出場を目指しており、少しでも力になりたいと感じていました。車いすラグビーはルールが明確で、初心者でも壁がなく、男女混合で行われることも魅力の 1 つでした。障がい、初心者と経験者の、性別をも超えてしまう車いすラグビーこそ「ノーサイド」と言えるのかもしれません。パラリンピックについて考え、多くの刺激をもらい、自己成長に充てたいと思います。

社会学部社会学科 4 年 井上 拓

実際に車いすに乗ったり、ぶつかったりゲームをする体験ができ、とても楽しむことができました。動画を用いた説明が親しみやすく、わかりやすかったです。また福井さんが車いすラグビーを始めたきっかけや現在に至るまでの背景などを知る機会となり、興味深く感じました。できない事ではなく、できる事を見つけていく事の大切さを感じました。

人間環境学部人間環境学科 1 年 荒巻 洋恵



膝の上にボールを載せてゴールラインへ疾走



競技用車いすに乗って集合写真

44. 千代田区富士見わんぱくひろば 「わんぱくこどもまつり 2019」

1. 日 程 2019年10月26日(土)
2. 場 所 千代田区富士見わんぱくひろば

3. 概 要

千代田区富士見わんぱくひろばの「わんぱくこどもまつり」は、毎年行われ、約700名の参加者がある地域児童館最大のイベントです。法政大学では、児童文化研究会とVSPスタッフのコラボ企画、大型絵本「たまごとこんこんこん」の前にイラストで簡単なペープサートを作成し、手あそび歌「まあるいたまご」「手はおひざ」を行い、小さい子供たちを楽しませました。

パフォーマンスサークルすだまは、カードマジックや、ポールジャクリング、ヨーヨー、ディアボロ、シガーボックス、フローワンドなどのパフォーマンスを披露し、地下アリーナ舞台でこどもまつりに来た親子連れを魅了していました。また、一般応募した学生たちは、ハロウィン仮装パレードの交通案内、受付、子供の工作の補助、ゲームコーナー、フリーマーケットの準備などのボランティアをし、地域貢献活動の一助となりました。

4. 学生参加者数 23名

5. 企画学生の感想

手遊び歌のボランティアに関しては、良い経験をすることができました。また、職員さん方の対応がとても迅速で、どのように臨機応変に動くか良いのかを見て学ぶことができました。次の機会できっと活かすことができると思います。運営ボランティアでは、具体的な仕事を与えられておらず、自分で仕事を見つけることや、予定と違う進め方になっても臨機応変に対応していくことの大切さを感じました。

VSP 学生スタッフ 人間環境学部人間環境学科 1年 荒巻 洋恵

6. 参加学生の感想

手遊びでは、最初は緊張や恥ずかしさがありましたが、一緒に歌ったり真似をしてくれる子どもたちの素直な反応がとても嬉しく自然と肩の力も抜け、楽しんでやり切ることができました。ウォークラリーでは、一生懸命自分の言葉でお友達にルール説明をする様子にとっても感心しました。子どもたちの持つエネルギーに圧倒されつつも、楽しんでいる子どもたちをみているところが元気をもらえました。

社会学部社会学科 2年 吉田 悠乃



点数をチェックして景品と交換



VSP×児童文化研究会 手遊びうた

45. 食べ物を求めています～フードドライブ(学祭) (キャンエコ&VSP学生スタッフ企画)

1. 日 程 2019年11月1日(金)～4日(月)

2. 場 所 富士見ゲート正面

3. 概 要

自主法政祭では食べ物の管理や屋台企画で余った食材の廃棄が問題視されており、課題解決に向け、フードドライブを行ってきた市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)とキャンパス・エコロジー・フォーラム(キャンエコ)が協力して活動を進める運びとなりました。

自主法政祭開催日と同じ4日間連続で、正門前に専用の箱を設け、ご協力のお願いをしました。活動の運営はキャンエコが、食品の保管はVSPが中心に行い、4日間で多くご支援を受けることができました。お米やレトルト食品、缶詰など多くの食品、学祭期間中という事もあり、屋台企画で余分に発注してしまった食品も集まりました。

フードドライブは家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。

日本にはなじみの薄い言葉ですが、フードバンク発祥の地、アメリカでは1960年代から盛んに行われています。今回集めた食べ物は、認定NPO法人であるセカンドハーベストジャパン様を通して全国の子ども食堂や病院に届けられます。

来年度からはVSP、キャンエコ、学祭実行委員で進め、法政大学食品廃棄0を目指し活動をしていく予定です。

VSP 企画学生スタッフ (VSP 代表) 法学部政治学科3年 藤山 雄多

4. 企画学生スタッフの感想

一昨年から始めたフードバンク系の企画、地道に活動をしていく事で興味を持ってくれる方、そして実際に協力してくれる方が増え、多くの食べ物のご支援をいただくことができました。VSPは子ども食堂や児童福祉の企画も実施しており、今後は食べ物を集め、現場で人の口に入るまで一貫の企画も行っていきたいと思っています。

法学部政治学科3年 藤山 雄多

自主法政祭でフードドライブを企画したのは、昨年キャンパス・エコロジー・フォーラムとしてゴミの分別をしていた時に、新品の食品が捨てられていて、何かできないかと考えたからです。VSP、学祭実行委員会のご協力のもと初めての試みにしては、食品が集まり、嬉しく思います。しかし、まだ捨てるのにはもったいない食品はあったので、来年以降もフードロスが無くなるよう努力したいと思いました。

人間環境学部人間環境学科2年 本村 想悟



自主法政祭での回収の様子



法政祭期間中の活動としてはますます

46. 防災キャンプ(チーム・オレンジ学生スタッフ企画)

1. 日 程 2019年11月9日(土)～10日(日)

2. 場 所 外濠校舎1階メディアラウンジ

3. 概 要

講師：宮崎賢哉氏(災害支援・防災教育コーディネーター)

参加者設定：参加者は当日「被災者」となる。マグニチュード7.3の首都直下型地震により震度6強の被害を受け、ライフラインは使えない状況で大学構内に滞留することとなった。

宿泊型の企画であるが、実際は被災を想定することは不可能であるため持ち物は「普段の持ち歩いているもの」のみで行う。

—1日目—

・オリエンテーション(1時間)

講師宮崎氏より避難所について、首都直下型地震が起きた時の想定について

・防災備蓄倉庫見学、並行してAED講習(1時間)

・班活動：寝床づくり、簡易トイレ体験、非常食による夕食(2時間)

班に分かれ、寝る場所を新聞紙・段ボールで作った。並行し簡易トイレをつくりお茶を流して体験、非常食の夕食を試食した。

・クロスロード、暗闇体験(1時間半)

カードゲーム形式の防災教材を用いて、災害時の判断を体験した。暗闇体験では光の刺さない空間の中でアイスブレイクを行い、電気がなくあかりがない空間のシミュレーションを行った。

・振り返り(30分)

暗闇の中で円状になり、1日を通して学んだことの共有を行った。

・就寝

避難所を想定し、実際に大学構内に新聞紙・段ボール・毛布のみで寝泊りした。

—2日目—

・各自準備(朝食・寝床等を各自片付け)

各班は自分たちで時間配分を考えて行動。空き時間に宮崎氏にロープワーク講座を行っていただいた。

・防災運動会(2時間)

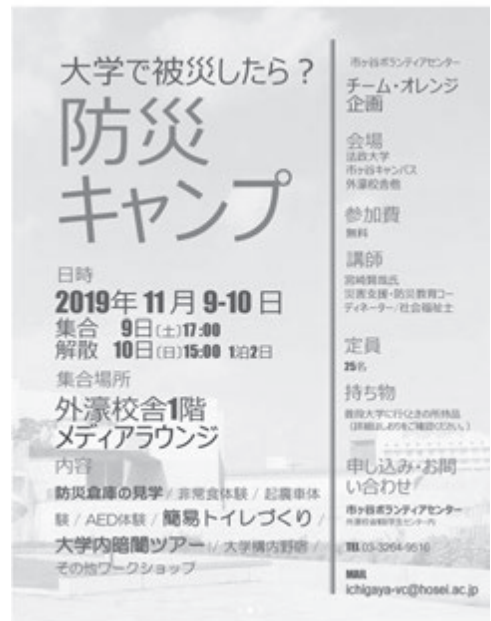
防災クイズ。防災グッズビンゴやバケツリレーなど、楽しみながら学べる企画を行った。大学内にある消火栓や消火器の位置もクイズ形式で確認した。

・振り返り(45分)

印象に残ったプログラムや防災キャンプに参加して自分の中でどういった変化があったのかなどを共有した。今後のことも見据えた振り返りをした。

・起震車体験(30分)

震度7までの揺れを体験し、地震の恐ろしさを実感した。



人間環境学部人間環境学科3年 小長井 愛

4. 学生参加者数 17名

5. 参加学生の感想

宮崎賢哉さんのお話では、災害の恐ろしさを改めて感じることができ、忘災から防災という言葉は大切だと思いました。また、「頭ではわかっているけど体が動かない」という状態がどれほど恐ろしいものかを実感しました。

AED講習や倉庫見学は、大学に通っている日常だけでは経験できないので新鮮で、また学生として必要なことだと思いました。

クロスロードでは災害時の行動の取り方など、考えさせられることが多く、ためになりました。班員のみんなで考えることで自分以外の答えを聞き広い視野の持ち方も学ぶことができました。

チームオレンジの皆さんや職員の皆様が考えてくれた今回の企画は、自分の経験値を高めてくれました。

いつ起こってもおかしくない災害に対して防災することの大切さや、人とのつながりの大切さなど、短い時間でしたが改めて感じることのできる企画でした。非常食もとても美味しく、班員のみんなでお話するのとても楽しかったです！

またこのような機会があったら是非参加したいと思います！

法学部法律学科 3 年 宮崎 智子

宮崎さんのサバイバル道具を見せていただき、真の防災プロフェッショナルを目の当たりにし、刺激になりました。この企画の核はやはり、校内で寝ることの大変さを肌で感じられたことだと思います。知り合いがいる中でコミュニケーションをとりやすいが、寝るときだけは班分けされたこともあって、避難所の再現に少し近づいていたように感じました。

社会学部社会学科 4 年 佐々木 敦史

遠野ボランティアをきっかけに防災への意識が高まったところに、今回の企画を行うと聞き、身近な防災について学べて企画に携われると思い参加しました。

暗闇体験、普段食べる機会のない防災食を食べられた点が良かったです。教えていただいた防災知識は知らないことも多く、学べることばかりで、自分が行った企画を参加者が楽しそうにやってくれたことが印象に残っています。

このような企画にチーム・オレンジメンバーだけではなく、もっと学内からの参加者も増えてほしいと思いました。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科 1 年 島田 知樹



班別にクロスロードを行っている様子



防災備蓄倉庫を見学している様子



ロープワークを教わり体験



学生スタッフ作成のしおり

47. それぞれの色で輝ける社会、考えてみませんか？ ～性的マイノリティについて考える(学生スタッフVSP企画)

1. 日 程 2019年11月14日(木)

2. 場 所 外濠校舎5階 526 会議室

3. 概 要

2020 東京オリンピックを迎え、多様化への理解が重要となります。本企画では、性的マイノリティの観点から、正しい知識や適切な行動など学び、他者に対して多様な理解を持ち、接することを目指し企画しました。マイノリティについて考えるのは、コミュニケーションをとる私たちにとって、重要なテーマです。

前半は、本学でジェンダーやセクシュアリティに関する「クィア・スタディーズ」を開講している国際文化学部専任講師の岩川ありさ先生に講義をしていただきました。マイノリティについて正しい知識を身に着ける大切さ、無意識にもジェンダーやセクシュアリティから遠ざかってしまっている現状、また、性的マイノリティに関する歴史について学びました。

後半のワークショップでは、クイズ形式で、企業の取り組みや、レインボーフラッグについて学びました。その後、ジェンダーに関するストーリーについてグループでワークショップをしました。班ごとに意見が違い、より深く性的マイノリティについて考えるきっかけになりました。今回の企画を通して、多様性について理解しようという気持ちや、ジェンダーやセクシュアリティについて考えるきっかけとなり、自由な意思を持った生き方ができるヒントとなれば嬉しいです。



ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 八木 里菜

4. 学生参加者数 14名

5. 企画学生の感想

企画に関ったこの4~5ヶ月で様々な事に気づけました。性的マイノリティを軸に多様性を知り、他者理解をするという企画でしたが、自己理解にも繋がると感じています。

このような機会がないと気づけなかったことがたくさんありました。ここで学んだ経験を実生活の中でも生かしたいと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 八木 里菜

6. 参加学生の感想

驚きの事実がたくさんありました。LGBT を特別扱いする世の中ではなく、当たり前のように生活できる、無意識に対応できる世の中にしていこうと、1人1人が思うようにならないといけないと思いました。

経営学部市場経営学科1年

LGBTs をどう定義するか、性的マイノリティがいかに生きていくべきかを知りたいと思った。マジョリティとマイノリティの間に境目があるということを感じる中、性の在り方をわからないと自分や他人を傷つける事にもつながるので、それぞれの意識の変革が必要だと思います。

文学部日本文学科3年



岩川先生の講義



クイズ形式ワークショップ



熱心に講義を聴き考える



ワークショップで班ごとの発表

48. 2019 年度中国大学生友好交流訪日団 「環境・防災セミナー」プレゼンテーション

1. 日 程 2019 年 11 月 24 日（日）

2. 場 所 港区 AP 浜松町

3. 概 要

公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）が主催する 2019 年度中国大学生友好交流訪日団「環境・防災セミナー」にて、中国人学生約 200 名に対し、チーム・オレンジが行っている災害復興支援事例及び、防災啓発活動のプレゼンテーションを行いました。その後中国人学生と共に、防災ゲーム「なますの学校」に参加し、交流を深めました。

海外の学生に自分たちの活動を伝える機会は初めてで不安でしたが、参加者は災害復興支援や防災啓発活動の紹介について熱心に聴いてくださいました。またその話を聞いて「日本の防災に対する意識の高さを感じ、改めて防災について考えさせられました。」というような嬉しいお言葉もいただきました。

このイベントには、中央大学の「チーム防災」さんや、青山学院大学の「Roote」さんも参加していました。同じように防災関連の活動をしている団体の活動内容や考え方について知る機会にもなり、今回得たことをこれからの活動で活かしたいと思いました。

これからもこのような広報活動に参加して、被災地支援や防災啓発活動の輪を広げていきたいと感じました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 2 年 高木 祐輔

4. 学生参加者数 3 名

5. 参加学生の感想

今回この企画に参加させていただき、中国の学生さんの熱心さを見ることができ、とても感心しました。また休憩時間に日本語で話しかけてくれる学生さんもいて、少しだけでしたが交流する時間もあって良かったです。ふだん海外の学生さんと関わる機会はないので、すごく良い機会になりました。

文学部史学科 2 年 上條 開

「なますの学校」という防災ゲームを中国からきた学生の方々と一緒に体験できたのはとても良い経験になりました。中国の学生の方たちはとてもフレンドリーに接してくださったのでリラックスして臨めました。

文学部英文学科 2 年 中辻 佳菜



チーム・オレンジの防災啓発に関するプレゼン



200 名の中国からの学生を前に登壇

49. チーム・オレンジ学生スタッフが教える 秋学期防災訓練

1. 日 程 2019年11月28日(木)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

11月28日(木)にボランティアセンター学生スタッフ、チーム・オレンジ10名と法政大学職員23名が秋学期防災訓練を行いました。第1部に避難所運営ゲーム、第2部に防災クイズカルタを行い、防災意識を高める機会となりました。

第1部に行った避難所運営ゲームとは避難所の運営を任された者の立場になり次々に訪れる避難者やハプニングに迅速かつ適切に対応していくゲームです。目的はいざという時に備え、想定内のことを増やし避難所で起こりうることを理解することです。長丁場になるゲームなので、チーム・オレンジが防災訓練前日までにリハーサルとして避難所運営ゲームを途中まで進め、その続きを大学職員の方と行いました。避難者の要望にどのように対応するか、最善の答えをそれぞれが考えるきっかけになったと思います。また、今回の防災訓練の反省から避難所運営ゲームを簡易的にプレイする方法をチーム・オレンジで話し合い、次年度に活かしたいと考えました。

第2部で行った防災クイズカルタは、楽しく簡単に防災知識が身につけられるようにとチーム・オレンジが制作したものです。参加して下さった職員の方にも、ルールや問題が分かりやすかったと感じてもらえ、非常時に役立つ知識を共有することができました。また、印象に残ったと言っていた問題は、他の防災クイズカルタを使ったイベントでも重点的に扱っていければと考えています。

今回の秋学期防災訓練では、災害が起きたら自分はどのように行動すべきか深く考えることができました。同時にチーム・オレンジが、普段どのような防災啓発活動をしているのか職員の方に知ってもらったいい機会だったと思います。

私たちが日常的に生活を送っていくなかで防災について考える機会は少ないと思います。今回の防災訓練を通し、防災について「意識」を高めることができたら意義のある活動であったと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 高木 祐輔

多くの職員の方に参加していただき、楽しく防災の知識を知っていただけたので良かったです。また、職員の方々は実際に災害時に避難所を運営する立場になるかもしれないので、その点今回の避難所運営ゲームはとても意味のあるものだったと思います。

文学部心理学科1年 加藤 咲



防災カルタのカードを説明しながら配置



職員と一緒に避難所を想定してカードを配置していく

50. 日本で暮らす外国人のサポートについて考えよう

※p.36「北区学び場 Let's Study」の活動より学生が企画したプログラムです。

1. 日 程 2019 年 11 月 28 日 (木)

2. 場 所 外濠校舎 5 階 526 会議室

3. 概 要

VSP 企画学生スタッフから、今回の企画のきっかけでもあるボランティアの活動を説明させていただき、プログラムでは、聖心女子大学非常勤講師であり在留外国人への支援をされている加藤丈太郎氏に講義をしていただき、その後ワークショップを行いました。

講義ではまず、在留外国人の人々の国籍や訪日の目的、在留資格などについての説明の後、日本の外国人の受け入れ態勢が、十分に整備されていない現状を紹介していただきました。加藤氏は、技能実習生等の、事実上の労働移民の不安定な労働環境や、外国人にばかり日本社会への適応を求め、日本人が外国人を積極的に受け入れようとしていない問題を、分かりやすく説明くださいました。この講義の主な目的は、在留外国人の人々の実情と、日本社会が抱える問題点について、参加者の方々に認識してもらうことでした。

続いて、ワークショップを実施しました。初めに、企画学生スタッフが選んだ法務省の人権啓発ビデオを視聴後、日本人と外国人との間で偏見と誤解からトラブルが発生する事例を、映像を通して理解していただきました。その後、問題を解決する方法を、ワークシートや資料を用いて考え、各グループの 1 名に解決案の発表をしてもらいました。そして、加藤氏から外国人の人々との共生の方法についてお話いただき本企画を終了致しました。

本企画を通じて、外国人の人々との間で、良好な関係を築く方法について、参加者の方々に考えていただき、最終的には自らボランティア活動等を通して、「多文化社会」の実現に向け、活動するきっかけを生み出すことができたのではないかと考えております。

学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科 3 年 正田 一成

4. 学生参加者数 27 名

5. 参加学生の感想

普段、同世代の学生と意見を交換したり、外国の方の意見を実際に聞く機会が少ないので、ワークショップも有意義な時間になりました。私は親が中国出身で、やはり外国人だからと言われ大卒にまとめられて見られたり、(行いの悪い人を例に挙げて)日本人ではないからと雑に扱われたりという経験をした事をよく聞いています。1 人で偏見を持たずに接することは小さい 1 歩なのかもしれないけれど、その 1 歩が心に届いてくれば大きな事になるのではないかと、また、それについて考える事も大切であるという事を今回のプログラムでとても強く感じました。実際に行動している企業や、学生の意見も聞けたので今後の参考にしたいと思っています。

経済学部現代ビジネス学科 3 年



移民の問題について熱くグループでディスカッション



学生スタッフが日本語を教えるボランティアを紹介

51. 2019年度災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金

1. 日 程 2019年12月1日(日)～2020年2月28日(金)

2. 概 要

本学ボランティアセンターは12月に「災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金」の制度を制定しました。

本制度は、近年多発する自然災害に対して、学生ボランティアの現地派遣の促進を目的としており、日本列島に深刻な被害をもたらした令和元年房総半島台風(19年の台風15号)と令和元年東日本台風(同年の台風19号)にあわせて制定されました。

本制度は災害救助法の適用地域とその近隣地域での復興支援活動を行った学生に対して、ボランティアの際に発生した交通費及びボランティア保険料に対して年間1万円を上限として助成する制度となっています。

運用初年度となる2019年度に関しては、東日本大震災に関するボランティア活動で5名、令和元年東日本台風に関するボランティア活動に対して5名の学生に本助成制度を適用し、計78,930円の補助を行いました。



市ヶ谷ボランティアセンターはこの助成金の制度を2020年度以降も継続的に実施して、万が一日本が災害に見舞われた際に本学学生が社会の一員としてボランティア活動に参加することを後押ししていきたいと思っています。

3. 助成金支給実績 10名

4. ボランティア活動後の学生の感想

同じ日本国内で被害を受けている地域があるにも関わらず、安全な場所にいたからと無関心でいていいのだろうか。その違和感から今回被災地支援に参加した。台風19号による被災地として特にいわき市は阿武隈川とその支流での破堤が起き、特に被害が多かったと聞いていた。実際訪ねてみると区によっては街の復旧がほぼ終わっていたり、被害が多かった地区へ支援が偏っていたりと、想像とは異なる現状であり、実際に行ってみてわかることと、行動する大切さを学んだ。

私は炊き出しと、ピラのポスティングを行った。被災地支援というと特別なスキルが必要のように感じるが、実際はそんなことはない。自然災害を止めることは難しいが支援は誰でもできる。災害大国と呼ばれる日本で自分にできることは何か改めて考えなおしたい。

文学部心理学科1年 青木 怜奈

私は台風19号の被災地支援活動に参加した際に災害等復興支援ボランティア活動に伴う助成金をいただきました。学生だけの力で離れた地域で行われる活動に参加することはなかなか難しいため、このような機会をいただけてとても感謝しています。支援を求めている地域に対してボランティアをしなくても金銭的事情等で諦めざるを得ない人達が、助成金のおかげで少しでも多く支援活動に協力できる社会になれば良いと思います。

デザイン工学部都市環境デザイン学科1年 鴨 潤也

5. 2019年度 災害等復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金 告知ホームページ

https://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/zaigaku/191121_01/

52. [教プロ×VSP共同企画] お寺をきれいについでに心も

1. 日 程 2019年12月7日(土)
2. 場 所 新宿区起雲山大龍寺
3. 概 要

清掃活動は、お寺の外と中の2組に分かれて行いました。外では通路だけでなく、お墓のまわりに落ちていた葉っぱを箒で丁寧に集めました。また、お堂の畳を雑巾がけをする、という貴重な体験をさせていただきました。

次に、住職である太田賢孝氏から坐禅の姿勢・体の軸の取り方を学び、坐禅体験へと移りました。時間を忘れ、何も考えずにただ座っている、ということはいあまり日常生活においてなかなかする機会がなかったため、無の境地から自分の心を改めて見つめ直すことができたようにも感じました。

坐禅が終わった後、住職の方から「ボランティア」というものについて、小さなものを積み重ねて、他の人への感謝の念を伝えていくことであると、話していただきました。その後、5グループに分かれて「ボランティアとは何か、自分が参加してみたいボランティアはあるか」について議論し、義務ではなく自分のやりたいことをするべき、またこういった清掃活動があれば参加してみたい、という意見があり、全体で共有し、考えを深めていきました。



最後に「キャリアとは何か」というお話を頂き、相手と競争するばかりでなく、一度自分というものを見つめ直し、他人にとらわれないで、自分の興味を持ったことにチャレンジしてみたい、というお話をしていただきました。

今回の清掃活動・坐禅体験そして法話は普段できないもので、この体験から自分の中に新たな発見と成長ができたのではと思います。

法学部法律学科1年 清宮 幹太

4. 参加学生の感想

坐禅の目的で参加しました。だからこそボランティアだと構えずに気軽に参加でき、また、法話などからボランティア精神などについても考えることができ、初心者として取り組みやすいものでした。

ボランティアとは、何かを犠牲にして行うもの、という印象がありましたが、得るものばかりで、貴重な体験ができました。

法学部政治学科4年 黒川 杏奈

坐禅はとても貴重な体験となり、参加してよかったなと感じました。清掃は、お墓や畳がきれいになると、心が落ち着き、新年に向けて自分の家の回りも掃除しようと思いました。グループワークでは自分がいかに受け身であるかを実感させられましたが、なぜ「どんなボランティアをしたいか」というテーマなのかを少し説明していただけたらと思いました。

法学部政治学科2年 高橋 克典



身体を揺らして自分の「軸」を探す



清掃活動の風景

53. 福島被災地スタディーツアー (チーム・オレンジ学生スタッフ企画)

1. 日 程 2019年12月8日(日)
2. 場 所 福島県いわき市、相双地区など
3. 概 要

本企画は、チーム・オレンジだけではなく被災地に初めて訪れる一般学生を主なターゲットとし、福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことに加え、「仕事を通して見た震災～変化を知る～」をスローガン・目標としたスタディーツアーを企画しました。

アクアマリンふくしまでは、映像を通して講話を聞き、福島県いわき市の被災当時の状況や被害状況を教えていただき、実際にその場所に足を運ぶことによって津波の被害の大きさを肌で感じることができました。物資やエネルギーの問題により、水族館の生物の命の選別をしなければならなかったという話は生々しく、当時のスタッフの苦悩を感じました。

その後、ふくしま観光復興支援センターの小磯氏のガイドによる相双地区の視察を行いました。実際に原子力発電所のある双葉町、大熊町を巡り、震災によって引き起こされた二次被害の状況を目の当たりにし、いま我々にできることを考えさせられました。また、被災当時の住民、原子力発電所の事故による生活圏の変化、その後の復興状況について、元新聞記者、現地に住む人としての視点で話していただきました。

今回のツアーでも現地での視察、講話を通して震災の記憶を共有し、風化防止、防災意識の向上に結びつけることができました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 高木 祐輔

帰宅困難地域の家や畑、道路の様子を実際に見ることができたのが良い経験になりました。未だにガラスが割れていたり、家具が倒れている店や家を見てかなりの衝撃を受けました。

被災地のことはその現場を見ないと理解できないと感じました。「震災からもう8年も経ったのだから」と考えていましたが、復興はまだ終わっていないのだと、今までの考え方を見直すきっかけになりました。

文学部日本文学科 2年

アクアマリン福島で、水族館の職員という立場から見た震災は気づきが多かったです。

エネルギーが限られている中、どの動物を優先的に助けるか判断を下さざるを得なかった職員の心情を思うと心が痛みました。相双地区で、帰宅困難地域を実際に見ると、人の気配が感じられず、不気味でした。道路や建物などはあり、町の形はあるのに、人がいないだけで、こんなにもすたれてしまうのだと思いました。

法学部法律学科 1年



ガイドを聞きながら被災地を回る



集合写真

54. (東京メトロ飯田橋駅ボランティア企画) 目の不自由な方のサポートについて学ぼう

※p.27「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」、p.38「2019年度東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会」は関連プログラムです。

1. 日 程 2019年12月11日(水)

2. 場 所 外濠校舎5階526会議室

3. 概 要

東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフ企画プログラムで、日本視覚障害者団体連合の三宅隆氏、東京地下鉄株式会社(東京メトロ)社員の方をお招きし、前半は講演・質疑応答、後半は体験を行いました。

前半の講演では、「視覚障がい」といっても人によって異なる多様な見え方があること、また様々な状況における〈ベストなサポート〉について学びました。正面または斜め横からの声掛け、立ち位置など、あらゆるサポートの可能性があることがわかりました。活動拠点の「公共交通機関」については、施設面でのバリアフリーの現状について本音も交えたお話を伺うことができました。

日本は、海外に比べハード面のバリアフリーが進んでいるといいます。海外の駅はソフト面が既に構築されている——どんな状況下でも街の人々が助けられる環境にあり、設備面の遅れはその頭れである、ということは印象に残りました。

我々のボランティア活動はごく小さなものにすぎませんが、この場所からまた1歩ずつ、日ごろの活動に勤しみたいと心に決める1日となりました。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

視覚障がいの方からの生の声は聞く機会がなかったため、とても貴重な体験になり、サポートをする上で気をつけるポイントなどを知ることができました。特に、駅で鳴っている音、鳥の声などは、何のためにあるのか気にはなったことがあったが知らなかったため、今回、階段やエスカレーターがあることを知らせるもの、場所を知らせるものであることが分かり、そういうことを意識して聞いてみたいと思います。今回学んだことを今後の活動や生活の中で生かしていきたいです。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 増倉 健太

この企画に参加して、視覚障がい者の方への見方が大きく変わりました。視覚障がいにも様々なタイプの方がいること、白杖や盲導犬の役割、駅構内での盲導鈴の役割、実際にご案内する時にすべきこと、してはいけないこと等、目からウロコの知識ばかりでした。実際にご案内体験もさせていただき、視覚障がい者の方のご案内方法も身に付けることができました。この貴重な経験を駅ボランティアや日常生活の中で視覚障がい者の方に出会った時に活かそうと思います。

法学部法律学科2年 福地 寿希



文学部日本文学科2年 田中 康太



ペアになって学内施設にて体験



講義終了後、集合写真

55. 廃油石鹸づくりを通してリサイクルを学ぼう！ （学生スタッフVSP企画）

1. 日 程 2019年12月15日（日）

2. 場 所 荒川区 吉まぐれ屋

3. 概 要

荒川区居場所ネットワークのバイタルプロジェクトのイベントの一環として、「リサイクルの大切さ、及びゴミ問題について考える機会、学校の教科とは異なる学びを提供する」、「居場所ネットワークに通う子ども達に学ぶことの楽しさを知ってもらう」ことを目的に、企画しました。ボランティア学生スタッフ8名（うち企画者3名）、荒川区居場所ネットワークに通う小・中学生5名が参加しました。

前半はアイスブレイクで話しやすい状態を作り、「ゴミが増え続けるとどうなるか」「4Rとは」についての話をしました。資料を準備したり、問いかけを多くしたので、楽しんでもらえたと思います。

後半は廃油石鹸づくりをしました。材料をペットボトルに入れて混ぜるのですが、その際の隙間時間で環境問題対策に関するクイズを出題したり、自分が普段行っている環境保全活動を考えてもらったことで、子ども達にも主体的にまた活発に取り組んでもらえたのではと思います。

企画後、バイタルプロジェクトの方から「今後もいろんな企画を実施してほしいし、学生がやりたい企画に協力したい」と言ってくれたので、今後の活動にもつながる良い企画になったと感じています。

このような取り組みを継続して行いたいと思います。

文学部哲学科2年 佐久間 喜望

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

はじめての企画で、周りの人に助けてもらいながら行うことができました。子ども達の年齢層が広くて内容を考えるのが難しかったです。皆さんが積極的に参加してくれ、「楽しみながら学ぶ」という目標を達成できたのではないかと思います。今後、石鹸の形も変えるということもできたらいいなと思います。

人間環境学部人間環境学科 1年 阿波加 夏輝

子ども達にリサイクルの問題を、廃油を使って石鹸を作ることで学んでもらえたことは、とても良い経験になりました。子ども達と楽しい時間を過ごし、ボランティアの楽しさを改めて実感しました。最後に別れを惜しんでくれた子どもの姿は忘れられない思い出になりました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宇野 瑠奈



リサイクルについて説明



子どもと一緒に石鹸作り

56. 高円寺子ども食堂クリスマス会で子どもと遊ぼう (学生スタッフVSP企画)

1. 日 程 2019年12月21日(土)

2. 場 所 高円寺子ども食堂

3. 概 要

運営のお手伝いとして、まず会場の用意をしました。机を拭いたり、子どもたちが遊ぶことのできるおもちゃを用意したり、飾り付けをしたりと、子ども食堂の方々と法政大学から、また他校からの参加者が協力して行いました。用意が終わると、利用者が集まり始める13時頃までの間に、自己紹介やお話などをする中で、参加者同士の交流も深まりました。

クリスマス会が始まると、それぞれの役割を務めました。利用者のリストやお金などを管理する受付係、料理を配膳する係などがあり、その他にもピアノを演奏したり、子どもたちと遊んだりお話ししたりと、利用者の方々と交流する機会も多くありました。会の途中では、参加者一同でピアノの伴奏に合わせてクリスマスソングを歌いました。また、子ども食堂からクリスマスプレゼントが用意され、利用者が楽しんでいる工夫が凝らされていました。終了後、ボランティア全員で美味しい食事をいただきました。一同で協力して片付けを行い、活動を終わりました。普段の子ども食堂とは一味違った楽しさを味わうことができたのではないかと思います。

人間環境学部人間環境学科1年 荒巻 洋恵

4. 学生参加者数 8名

5. 参加学生の感想

今回ボランティアをしようと思ったきっかけは、社会政策について勉強する中で、子ども食堂に関して聞くことがあり、どういったものなのかを目で見て知りたいと思ったからです。

子どもたちは元気いっぱい、自然と僕のほうまで笑顔になりました。机の上で福祉について学ぶ以上に貴重な経験をさせてもらえました。本当に今回ボランティアに参加させていただいて良かったです。

経済学部経済学科3年 小笠原 勇気

私自身、中学校や高校で教育支援のボランティアをしています、子ども食堂で幼児や小学生を相手に活動をした事がなかったので、はじめは緊張しました。しかし施設の方から指示をいただいたり、他の方々と協力しながら、よい緊張感を保ちつつ楽しく参加できました。来てくださった子どもや保護者の方々にも楽しんでもらえて嬉しいです。また機会があれば是非参加したいです。

文学部英文学科4年 今野 創太



ピアノに興味深々の子と演奏



受付で来場者にチケットを渡す

57. サンタクロースプロジェクト (荒川区社会福祉協議会主催)

1. 日 程 2019年12月15日(日) 荒川区 汐入おもちゃ図書館
2. 場 所 24日(火) 荒川区 あらかわおもちゃ図書館
 25日(水) 荒川区 おぐ銀座おもちゃ図書館

3. 概 要

サンタクロースプロジェクトは、荒川区社会福祉協議会の職員の方を中心としたメンバーで構成された、荒川区を元気にする活動の1つとして、クリスマスの時期に子どもたちや保護者に楽しんでもらおうという企画です。

10月頃に最初のミーティングを行い、企画の説明を受け、班に分かれて実施日までの準備をしました。各班はそれぞれの場所に合わせて、自分たちができることを模索して準備を進めていきました。

私たちの班は、「子どもたちと一緒に曲に合わせて踊りを踊る」という内容になりました。そのために、週2日ほど集まって、部屋の飾り付け用の装飾を作ったり、踊りの練習や準備をしました。そして、本番を迎えました。とても緊張していて、また、子どもたちは楽しんでくれるか心配でしたが、終わってみれば子どもたちも保護者の方々も笑顔で、終わるころには子どもたちとも仲良くなれて、とても楽しく終われました。他の班も工夫しながら、無事大成功で終わることができました。

この企画を通じて、荒川区の方々、社会福祉協議会の職員の方、他大の学生など、いろいろな人たちと関わることができ、協力して企画を進める大切さを知ることができました。これからのボランティア活動に活かせる、とてもいい体験でした。

学生スタッフ VSP 文学部史学科2年 坪井 雄大

4. 学生参加者数 6名

5. 企画学生スタッフの感想

今回初めて1から作る企画に参加しました。前例がないものでどうやったらいいか考えて取り組んだため、前回参加したものとは違う達成感を得ることができました。

当日は自分たちが考えたもので子供たちが楽しんでくれる様子を見ることができました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 高師 桜子

荒川区おぐざんざおもちゃ図書館では、まだお話ができないくらいの小さなお子さんが多かった為、手遊びやマラカスをを使った演奏、サンタ体操をして盛り上がりました。

30分間の中で何ができるかを班のみんなで1から考え、沢山の案の中で最終的に意見をまとめるという一連の企画にやりがいを感じました。また、企画の内容がそれぞれのおもちゃ図書館ごとに違うところが面白く、考えさせられました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宇野 瑠奈



サンタクロースになり子どもたちを楽しませる(12/24)



荒川サンタクロースプロジェクトのメンバーと(12/15)

多摩ボランティアセンターについて

2019 年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要 （橋本 到 多摩ボランティアセンター長）	86
2019 年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計	89
2019 年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー	90
2019 年度 多摩ボランティアセンター活動の報告	94

多摩ボランティアセンターの活動の概要

多摩ボランティアセンター2019 年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長 橋本 到

2019 年度、多摩ボランティアセンターでは、前年度に引き続き、2009 年の創設以来の二つの方針——「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」「地域との絆の強化」のもと、数多くの成果をあげることができました。2020 年 3 月に入ってから、7 つの企画が新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止・延期となったものの、実行されたイベント数は 32 で、昨年度を 2 つ上回りました。また、種々の活動で、その企画・実行を中心的に担ってくれる学生スタッフも 49 人を数え、倍増した前年度の人数を維持できました（昨年 50 人）。

多摩におけるボランティア活動は、大まかに言えば、大学の立地する相原の地域支援と遠隔地の被災地支援（気仙沼、熊本）の二つに分かれます。

相原での活動では、独自企画のイベントである地域交流会「あいほら想いの竹カフェ」が、学生スタッフの総力を挙げて行われました。この企画は、2017 年から始まり、相原まちづくり協議会から補助金をいただき大学連携事業として続けられているものです。年度内 3 回の開催予定のところ、3 回目（3 月 10 日）は、感染拡大に伴い惜しくも開催直前での中止となりました。第 2 回目は、地域発の「相原の竹あかりプロジェクト」と連携し、初めて野外の相原中央公園において開催し、晴天の空の下、地域の方々と一緒に工具を使って相原自生の竹を加工してイルミネーションを作り、飛び込みの方も交えて、盛況のうちに終わりました。この他にも相原には、ボランティアセンターを介して学生が関わる多くの企画があります。郷土の詩人八木重吉記念館の墓地清掃、小中一貫校町田市立ゆくのき学園や「子どもセンターばお」における子供たちとの交流、介護老人福祉施設ヴィラ町田への慰問、特別養護老人ホーム第二清風園（薬師台）のお祭りのお手伝い、東京医科大学八王子医療センターでの「緊急医療救護所訓練」参加など、地域の文化、高齢者、児童、障害者に対する支援、救護など幅広い活動に参加したほか、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」（町田全域）では、他のボランティア団体との交流の輪を広げつつ、その絆を深めることができました。こうした学生スタッフの精力的な活動は、その領域や人脈を広げており、学生自らの町づくりに関する生きた学びとなるとともに、地域からも大きな信頼や期待を寄せられています。

被災地支援としては、二つのチームがそれぞれ、東日本大震災、熊本地震の被災地である、宮城県気仙沼市（2015 年から継続）と熊本県益城町で活動を行いました（同 2016 年から）。被災から時間がたっているため、所謂瓦礫撤去のような活動はなく、継続的に被災地を見舞い、被災地の方と一緒にできるレクリエーションなどの交流を行い、また、一方で、現

地の複雑な実情はもとより、災害が他人事でなく、常に助け合い、寄り添うことの大切さを学びました。

気仙沼市で活動を行う「チーム気仙沼でつながり騎士（ナイト）」は、例年お手伝いさせていただいていた大谷海岸花火大会が現地防潮堤工事の都合で中止になったのを受けて、急遽、5月にプログラムを変更しました。8月28日から29日にかけて、南気仙沼内ノ脇復興住宅での清掃のお手伝い、住民の皆さんとの交流、大谷学童保育センターでの子供支援といった活動とともに、復興住宅と気仙沼社会福祉協議会本吉支部で、復興に携わられている方々のお話を通じて、短い時間ながら、支援の実行と現地での学習を組み合わせることができました。集落間での復興の足並みの違いや一度壊れたコミュニティーを新たに立ち上げる難しさなどは、やはり現地に行かないとわからないものですが、今後の活動に向けた貴重な材料ともなりました。また、帰途に着く間際には、三浦友幸様（一般社団法人プロジェクトリアス代表）から、震災後の大谷海岸がどのように意見の対立を乗り越え、行政を動かして海岸の景観保全を実現できたか、お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただきました。

「チームたまモン」は、予定していた二次隊が新型コロナウイルスの感染拡大のために中止になりましたが、8月19日から22日にかけて、一次隊が、益城町の木山仮設団地を中心に支援活動を行いました。仮設団地には、仮設の統廃合、復興住宅への人の移動、移動が難しく孤立する高齢者の存在など、様々な問題が存在します。益城町社会福祉協議会では、そうした木山を取り巻く状況を教えていただきました。そして、現地を見守るYMCAや住民の皆さんの協力も得て、昨年までの子供支援に加え、年配の方々との交流も行い、ボッチャやミサガ作りなど老若ともに楽しめる企画を実行しました。また、例年通り、被災地との寄り添いを保つべく、益城町のお茶屋の富澤さんと相原のカトウファームさん、ゆめ工房さんとのコラボで開発した「益城町を応援しなく茶クッキー」ならびに「同プリン」を、学内の多摩祭、竹カフェ、堺市民センター祭、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」などで販売し、ささやかながらその収益を現地に寄付しました。益城の移動図書館からもらったひまわりの種を多摩キャンパスで育てる「はるかひまわりプロジェクト」もこうした寄り添いの一つとして継続しました。

ボランティア活動においては、支援や交流のみならず、それを広く発表し、手を携えるべく活動の輪を広げていくこともまた大切です。学内では、10月に「夏の被災地活動報告会」、12月には「学生ボランティア2019年度活動報告会」にて、意見の交換や相互の啓発を行いました。学外では、2月にイオンモール多摩平での報告会で、中央、明星、実践女子、首都大学東京の各大学の学生とともに、気仙沼チームの学生代表が登壇し、活動の模様をプレゼンしました。その際、プレゼンに先立って同チームが現地の味噌・海産物を使った即席味噌汁を会場にて販売し完売しました。これは熊本チームのクッキー販売のやり方を取り入れての活動になりますが、いずれのチームにおいても、事態の急変や現地の要望に注意し、これまでの活動を振り返り、企画を適切に組み直す力を増してきたことは、ここ

二年強く感じるようになったことです。熊本チームが、2月6日に一般財団法人学生サポートセンターの助成事業表彰式で、東日本30チームのうちの3チームに選ばれ表彰されたことも、その証左かと思います。また、学生スタッフには、18年度に卒業後、地域の社会福祉関連の職を選んだり、現役生でそれを志す者がおり、センターでの活動が、学生のキャリア形成に及んでいる様子も見受けられます。

こうした成果は、まずもって学生たちの真摯な取り組みと充足感がなければ得られませんが、これらは、ボランティアセンターの課長始め、課員さんによる細やかなサポートに負うところも大きい。ボランティアの発意にせよ、イベントの内容にせよ、センターでは、あくまでも学生の自由な発想と行動力を生かしながら、企画の実現に向けて援助や調整の協議を繰り返しましたが、これは学生とセンターの相互信頼がなければできないことで、それがこの二年の間に順調に構築されていったことを感じています。

この報告を作成している時点で、新型コロナウイルスは感染拡大の最中で、まだ出口は見えませんが、学生スタッフは新年度に向けて新しいメンバーを募集し、これまでのノウハウを伝達しなければなりません。いうまでもなく現下の状況では困難が予想されます。また、いずれは、この病疫に由来する新たなボランティアの需要に対応することも課題として上がってきます。そして、さらに、もう一つの大きな課題として、被災地支援の継続に直結する財源の安定化があります。気仙沼支援、熊本支援とも、幸いなことに、それぞれ、この二年間を通して、Yahoo!基金、日本財団（Gakuvo）から、そして、両支援とも本学の「地域にスマイルを届けよう活動助成金」から、助成をいただくことができました。ただ、被災地での活動を次年度以降も安定的に継続できるよう、財源の面で多少とも仕組みが整えられることが望ましいと切実に感じました。

ボランティアセンターには、先に触れたような課題のほか、イベントごとにその時々で発生し、解決しなければならない課題も常時ありますが、これを極力解決し、イベントをしっかり実行し、内容の充実度を高め、それを内外に発信することにかけては、この二年の間に一連の流れが出来上がっていく手応えを感じることができ、特に任期後半のこの一年について言えば、現場に足を運んでも、余計な心配をせずに活動を見守ることができました。もちろんこれらは、まずもって多摩ボランティアセンターに関わった学生、それに、学生を支える職員の皆さん全員の奮闘の賜物ですが、さらに、歴任教職員が築いてきたものを継承できてはじめて可能になっていることも記しておきたい。深く感謝するとともに、多摩ボランティアセンターが、次期センター長のもとで、さらに着実な歩みを続けながら、一段と大きく発展することを祈念したい。

2019年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他（人）	相談数（件）※	開室日数（日）
4月	79	73	6	64	20
5月	62	52	10	50	19
6月	28	14	14	14	20
7月	37	23	14	23	22
8月	15	2	13	23	22
9月	21	17	4	14	20
10月	41	27	14	26	23
11月	48	33	15	29	20
12月	18	18	0	16	19
1月	24	19	5	19	17
2月	9	5	4	4	18
3月	10	6	4	6	18
合計	392	289	103	288	238

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

2019 年度 ボランティア支援プロジェクト イベントカレンダー

月 日	曜 日	イベント・講座・訪問先	概 要	参加者数
5 月 13 日	月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	3 名
5 月 17 日～10 月 1 日	－	はるかかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス	被災地支援の一環として、多摩キャンパス宇宙の風記念モニュメント周辺で「はるかかのひまわり」を育成	24 名
5 月 19 日	日	第 6 回チャレンジ防災	地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加	9 名
5 月 25 日	土	町田市生涯学習センター利用者交流会	町田市生涯学習センターの第 6 回利用者交流会	11 名
6 月 15 日	土	ヴィラ町田傾聴ボランティア & Voice of Winds 演奏会	吹奏楽サークル Voice of Winds による演奏と傾聴ボランティア	31 名
6 月 29 日	土	―相原 11 地区協議会大学連携事業― 第 7 回地域交流会「竹カフェ」	Slow World Café にて、相原地域の方々との交流会	16 名
6 月 29 日	土	第 1 回災害医療ボランティア研修 ～トリアージ編～	他大学と合同で行う災害時の対応法についての研修会	8 名
6 月 30 日	日	たまびよ～七夕飾りを作ろう！！～	子どもセンターばおにて、子ども向けの七夕企画を実施	5 名
7 月 6 日～7 月 7 日	土～日	第 34 回堺市民センター祭り	コラボクッキーの販売	11 名
7 月 8 日	月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	3 名
8 月 3 日～8 月 4 日	土～日	八王子まつり山車曳きボランティア	八王子まつりでの山車巡行	1 名
8 月 19 日～8 月 22 日	月～木	熊本被災地支援活動（第 1 次隊）	益城町仮設団地での子ども・高齢者支援	9 名
8 月 25 日	日	ヴィラ町田夏祭りボランティア	ヴィラ町田夏祭りの運営補助	1 名
8 月 27 日～8 月 29 日	火～木	宮城県被災地支援 ～気仙沼でつながり騎士～	宮城県気仙沼市で学習支援や清掃、交流会を実施	12 名
10 月 5 日	土	第 2 回災害医療ボランティア研修 ～応急手当と搬送編～	他大学と合同で行う災害時の対応法についての研修会	2 名
10 月 6 日	日	東京医科大学八王子医療センター緊急医療 救護所訓練	八王子医療センターでの医療対応訓練	7 名
10 月 10 日	木	2019 夏の被災地ボランティア活動報告会	気仙沼でつながり騎士、チームたまモンによる被災地ボランティア活動報告会	25 名
10 月 14 日	月	パリコレッ！ 芸術祭 2019 竹のわっ！	町田パリオで開催されたイベントに参加	2 名
10 月 19 日	土	第 72 回自主法政祭多摩地区	コラボクッキーの販売とチームたまモンの活動パネル展示	10 名
10 月 27 日	日	第二清風園ハロウィンフェスティバル	第二清風園ハロウィン祭りに参加	13 名
10 月 27 日	日	鶴川 de ハロウィンフェスティバル	鶴川駅前で開催されたハロウィンイベントの運営支援	2 名
11 月 1 日	金	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	3 名
11 月 10 日	日	たまびよ～秋の工作～	子どもセンターばおにて、子ども向けの工作企画を実施	4 名
11 月 10 日	日	相原スポーツ広場～ FUNDAY ～	地域のスポーツイベントの運営補助	5 名
11 月 17 日	日	―相原 11 地区協議会大学連携事業― 第 8 回地域交流会「竹カフェ」	相原地域の方々との交流会	13 名
11 月 23 日	土	イザ！カエルキャラバン！ in リンクス櫛田	障がい者支援施設で開催された防災イベントに参加	15 名
12 月 1 日	日	第 13 回市民協働フェスティバル まちカ フェ！	町田市内の活動団体が集い、活動の紹介展示やワークショップを行い交流を深めるイベントに参加	11 名
12 月 6 日	金	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	2 名

講師、協力先	備 考
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
はるかひまわり絆プロジェクト・法政大学美術研究会	命の尊さや復興の象徴として広まった「はるかひまわり絆プロジェクト」に賛同し、キャンパス内にてひまわりを育成、種を収穫した。
小山内裏公園・八王子、町田、南大沢警察署・八王子、町田消防署・町内会・自治会・町田市社協	地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加し、非常食ブースの運営を担当した。また、イベント全体の運営補助も行った。
町田市生涯学習センター	町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが他団体の学生とともに分科会を企画・運営した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	吹奏楽サークル Voice of Winds のメンバー 28 名による演奏会、学生ボランティア 3 名による傾聴ボランティアを行った。
Slow World Café (多摩キャンパス)・明月堂	相原地域の方々をお招きした交流会。「相原の地域資源」をテーマにグループワークと貿易ゲームを行い、参加者同士の価値観の共有を図った。
南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ・ボラネット多摩・明星大学	多摩地区の大学と地域が連携した「多摩ボラネット」主催の災害医療ボランティア研修。他大学の学生たちとともに、DMAT 隊員による講義と実技講習を受け、トリアージについて学んだ。
子どもセンターばお	子どもセンターばおで、子ども向けの工作企画を実施。七夕飾りの折り紙工作を行った。
堺市民センター・町田ゆめ工房・お茶の富澤。	相原駅近くにある堺市民センターにて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」を販売。当日の舞台部門の司会・運営補助も行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
元町連合町会・八幡上町町会・大学コンソーシアム八王子	八王子まつりの山車曳き子として、八王子駅周辺甲州街道を巡行した。
熊本 YMCA・益城町社会福祉協議会・お茶の富澤。	木山仮設団地にて、子ども向けの遊び企画と高齢者向けの交流企画を実施した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	介護老人福祉施設ヴィラ町田にて、夏祭りの会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。
気仙沼市社会福祉協議会・ボランティアステーション in 気仙沼・気仙沼市内ノ脇住宅・大谷学童保育センター・気仙沼向洋高校旧校舎	気仙沼市内で、学童保育センターの児童の学習支援や、市営住宅の清掃活動を行い、地域の方をお呼びして交流会を開き、被災当時の状況や現在の復興状況などお話を伺った。また、気仙沼向洋高校旧校舎を見学した。
南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ・ボラネット多摩・明星大学	多摩地区の大学と地域が連携した「多摩ボラネット」主催の災害医療ボランティア研修。第 2 回は応急手当と搬送について学んだ。
八王子医療センター・地域交流センター	被災地で活動する「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」のメンバーを中心に、八王子医療センターでの医療対応訓練に参加した。
多摩ボランティアセンター	被災地支援を行っている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」が夏の活動について報告し、意見交換を行った。
町田パリオ・相原にぎわい創生プロジェクト	町田パリオで開催された竹にまつわるイベントに参加。商品販売の補助業務を行った。
町田ゆめ工房・お茶の富澤。	多摩キャンパスの学園祭にて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、チームたまモンの活動紹介パネル展示を行った。
社会福祉法人賛育会第二清風園	町田市にある複合型福祉施設・社会福祉法人賛育会第二清風園にて開催された、ハロウィン祭りの運営支援を行った。
鶴川市民センター・つる川サポーター元気 UP 実行委員会・鶴川地区協議会	町田市鶴川にて開催された、ハロウィンイベントの運営支援を行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
子どもセンターばお	子どもセンターばおで、子ども向けの工作企画を実施。折り紙リースの作成のほか、チームたまモンが販売する「かぶせ茶プリン」のラベルを子どもたちに描いてもらった。
相原中央公園・相原スポーツクラブ委員会	相原地域のスポーツイベントに参加。「キッズ走り方教室」のブースを担当し、学生スタッフが子どもたちに走り方のコツなどを教えた。
相原中央公園・中野屋	「竹あかりの街あいはいら」と協働して、地域の方々と竹灯籠作りなどを実施。東京家政学院大学をお招きし、地域と大学との連携を深めた。
リンクス梶田	障がい者支援施設「リンクス梶田」で開催された防災イベントの運営補助として、被災地で活動する「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」のメンバーが参加した。
町田市市民部市民協働推進課・町田ゆめ工房・お茶の富澤。・カトウファーム	学生スタッフが考案した益城町産茶葉×相原名産品のコラボ商品「かぶせ茶プリン」と「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売を行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。

12月20日	金	学生ボランティア 2019 年度活動報告会	多摩キャンパス学生による活動報告会	9名
1月25日	土	関東ボッチャ選手権大会	障がい者を対象としたスポーツイベントの運営補助	3名
2月6日	木	学生ボランティア団体助成事業表彰式	学生ボランティア団体助成事業の表彰式と懇親会に参加	1名
2月15日	土	第6回大学生ボランティア写真展&イベント	イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示	7名
2月29日～3月2日	土～月	熊本被災地支援活動（第2次隊）	益城町仮設団地での子ども・高齢者支援	中止
3月9日	月	あいほらほうとう&コンサート	相原地域の交流企画に参加	中止
3月10日	火	—相原11地区協議会大学連携事業— 第9回地域交流会「竹カフェ椿」	相原地域の方々との交流会	中止
3月10日	火	和紙キャンドルガーデン—TOHOKU2020—	東北の方々のメッセージを届けるイベントの運営支援	中止
3月20日	金	たまびよ～春の工作～	子どもセンターぱおにて、子ども向けの工作企画	延期
3月26日	木	学生活動報告会【ガクマチ EXPO】	町田・相模原で活動する大学学生団体の活動報告会	延期
3月29日	日	相原さくらまつり	竹灯籠をはじめとする竹のオブジェの制作と点灯式	中止

多摩ボランティアセンター	多摩キャンパスの学生が、この一年間の自分たちのボランティア活動について報告した。
東京ボッチャ協会・町田市社会福祉協議会	町田市で開催されるボッチャの関東大会に参加し、受付や審判などの運営補助を行った。
一般財団法人 学生サポートセンター・国立オリンピック記念青少年総合センター	「学生ボランティア団体助成事業」にチームたまモンが採択され、表彰式と懇親会に参加した。
イオンモール多摩平の森・多摩地区 5 大学・日野市社会福祉協議会	多摩地区の大学・行政とともに被災地ボランティアに関する報告会とパネル展を行なった。また、物産展ではミソスープの販売を行った。
熊本 YMCA・関西学院大学	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
あいほら住民福祉協議会・町田市社会福祉協議会・大地沢青少年センター	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
特別養護老人ホーム椿・明月堂	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
東京ミッドタウン・多摩大学	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
子どもセンターばお	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み延期となった。
町田市生涯学習センター・桜美林・相模女子・サレジオ高専・さがまち学生 Club・大学コンソーシアム八王子	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み延期となった。
さがまちコンソーシアム・相原にぎわい創生プロジェクト・東京家政学院大・多摩美術大・東京造形大・地域交流センター	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。竹灯籠のオブジェの展示も中止となった。

1. 八木重吉記念館清掃ボランティア

1. 日 程 ①2019年5月13日（月）
 ②2019年7月8日（月）
 ③2019年11月1日（金）
 ④2019年12月6日（金）

2. 場 所 八木重吉記念館

3. 概 要

多摩キャンパスから徒歩 10 分ほどの場所にある、相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。参加学生はゴミ拾い、除草作業を行い、終了後は八木重吉さんご一家の墓前にて合掌した。

4. 学生参加者数 ①3名 ②3名 ③3名 ④2名

5. 参加学生の感想

（5/13）

約半年ぶりの活動だったので、落ち葉もたくさん積もっていました。3 人で丁寧に行うことができました。館長さんにご挨拶に行った際、新しく小屋ができて、そこでお話をしてくださるようになるとのことだったので、そのような機会も設けられたらと思います。

社会学部社会学科 2 年 梶原 綾乃

（7/8）

雨が多く、蚊が大量に発生していました。今回は、草も落ち葉も多かったです。みんな、てきぱきと動いていて、すごいかだったので良かったです。入口の木は切らないようにと言われたが、次の活動まで時間が空くので、様子が心配です。

社会学部社会学科 2 年 梶原 綾乃

草むしり自体は順調であったが、一部草木は生い茂りすぎており素手での対応は困難なため、今回は鉋などが必要だと思いました。

経済学部経済学科 2 年 川越 宗紀

（11/1）

最後の活動日から時間が経っていましたが、それほど落ち葉は多くなかったため、足場周りなど、とてもきれいに片付けました。初めて八木さんのお宅へご挨拶に伺うこともできて良かったです。秋は木の葉が落ちてきたタイミングから始めるのが良いと思いますが、今回台風での延期も多かったため、曜日を二つ以上設けるなどの工夫も必要だと感じました。

社会学部社会学科 1 年 山中 一智也

快晴でとても暖かく、気持ち良くお掃除できて良かったです。またボランティアに参加するにあたって八木重吉さんのことを知り、またその詩を読むことはとても勉強になり、良い経験になりました。

現代福祉学部臨床心理学科 1 年 高島 夕季

（12/6）

今回はただ掃除するだけでなく、献花したり、そのあと合掌をしたりしたことで、よりただの清掃ではなくお墓参りに行くという実感を持てたのが良かったと思います。

社会学部社会学科 1 年 山中 一智也

2 回目の参加だったのですが、前回よりも積極的に清掃に参加できたかなと思いました。前回よりも落ち葉が多く、大変だったのですが、とてもやりがいがありました。

現代福祉学部臨床心理学科 1 年 高島 夕季



(5/13) 半年ぶりの活動



(7/8) 草や落ち葉がたくさん



(11/1) 快晴の中行われた



(12/6) 今後も継続して活動する予定

2. はるかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス

1. 日 程 2019年5月17日（金）～10月1日（火）

2. 場 所 多摩キャンパス 宇宙の風記念モニュメント周辺

3. 概 要

阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を育て、命の尊さや被災地復興について考える「はるかのひまわり絆プロジェクト」に参加。多摩キャンパスでひまわりの育成を行った。

4. 学生参加者数 24名

5. 参加学生の感想

（5/17）

今年も無事『はるかのひまわりプロジェクト』を始められて良かったです。熊本支援チーム以外の学生スタッフも参加してくれました。今後も学生同士で協力して大きなひまわりを咲かせたいです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 富所 美羽

今年度も無事ひまわりの種植えを行えたことをとても嬉しく思います。ひまわりが順調に生育し、ひまわりを通して命の尊さに気づくきっかけになればと思います。

経済学部経済学科2年 小森 滉太

1日の内に必要な作業を少人数で終わられて望ましい。この企画は学校全体にはあまり知られていないと思われるので、何かしらの形で存在と意義を広くPRし、ひまわりだけでも多くの人に見てもらいたいと思う。

経済学部経済学科2年 川越 宗紀

（7/30）

雑草が生い茂っていたものが、活動を通してきれいになり、とても清々しい気持ちになりました。夏には大きなひまわりが咲き、学生たちの目に留まればなと願っています。

経済学部経済学科2年 小森 滉太

思った通りに暑かったし、汗もすごい出たけど、いいことをした時の汗だから良いものだと思います。みんなで協力して早く終われて良かったです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道

暑い中での活動だったが、無心で雑草を抜き、頑張った。今年のひまわりは昨年に比べて細いらしいが、元気に成長してほしい。

社会学部社会学科1年 佐藤 慶宗

（10/1）

天候の影響で昨年よりひまわりの育ちが悪く心配でしたが、無事種がとれて良かったです。交代で水やりをやったかいがありました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 海老沢 真由

毎週水やりをしてみんなで育てたひまわりが、花を咲かせた時はすごく嬉しかったです。この嬉しさやひまわりの種が多くの人に届くことによって広がっていったら良いなと思いました。

社会学部社会政策科学学科1年 中來田 聡美

毎週水やりをしていく中で、ひまわりの成長していく様子がわかり、やりがいを感じました。このひまわりの活動が、被災地のことを知ってもらうことに役立てばいいなと思うとともに、様々な支援活動の形があるのだなということを改めて知りました。

社会学部社会学科1年 佐藤 慶宗





(5/17) 土を耕し、種まきの準備



(7/30) 草むしり



(8/21) 無事開花



収穫された種

3. 八王子市・町田市連携イベント 第6回チャレンジ防災

1. 日 程 2019年5月19日(日)

2. 場 所 都立小山内裏公園

3. 概 要

地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加。非常食の試食体験ブースの運営を担当した。

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

私たちは桜美林の学生の方々と連携し、非常食を支給する活動を行いました。初めての経験のため、非常食の配分が大ざっぱで、本来最も盛えていなければならないお昼時には既に在庫が尽きてしまっていたので、来年があれば改善していきたいと考えています。それ以外は皆げがもなく、無事に終えることができて良かったと思います。

社会学部社会学科2年 児玉 務



初めてのボランティアだったので不安もあったが大きな問題なく進めることができて良かったです。災害時の非常食の試食の配膳ということだったが、自分は何の予備知識もなく行ってしまったので、事前にアルファ米についてなど調べて軽く頭に入れておくべきだったと思いました。お客さんにも“非常食”としてのアピールがもっとできれば良かったです。

社会学部社会学科1年 菅野 明日美

実際に被災地でどのように非常食が振る舞われているのか体験できて良かったです。まだ被災地の現地を訪問した経験がないので、もし、そういった場合にもどういう風に対応すれば良いのかわかりました。テンポよく桜美林の方とも連携して配膳を行え、大学の壁もなくて良かったです。

社会学部社会学科1年 島岡 日和



アルファ化米を使ったカレー作り



あっという間に品切れとなった

4. 町田市生涯学習センター利用者交流会

1. 日 程 2019年5月25日(土)

2. 場 所 町田市生涯学習センター

3. 概 要

町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが分科会「オレンジカフェ～考え方は人それぞれ～」を企画・運営し、自分の価値観や人の価値観について、ゲームを通して交流を行った。

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

お話をいただいてから、何回も会議を重ね、無事に当日を迎えられて安心しました。シミュレーション(学生のみ)でやった時とは違った意見が出てきて、とても面白かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 鈴木 琴音

用意されていたショートストーリーがなかなか面白かったので、次はぜひ自分も製作に参加したいと思いました。

社会学部社会学科4年 鈴木 史哉

準備段階から参加させていただいたが、リハーサルから本番まで、学生以外の方の話も聞けて新たな発見があったことが、とてもためになったと思います。普段話さないような人と接することで、新しい考え方を身に付けることができ、良い体験になりました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 松本 大夢

本当に人によって、様々な意見や価値観があるということがわかりました。自分の未熟さも実感したし、他の人の発想力や価値観に驚かされました。こういった活動にこれからもなるべく参加していきたいです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道



全体交流会



人それぞれの『価値観』について話し合った

5. ヴィラ町田傾聴ボランティア & Voice of Winds 演奏会

1. 日 程 2019年6月15日(土)

2. 場 所 介護老人福祉施設ヴィラ町田

3. 概 要

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル「Voice of Winds」のメンバー28名による演奏会と、学生ボランティア3名による傾聴ボランティアを行った。

4. 学生参加者数 31名

5. 参加学生の感想

施設の方々にも非常に楽しんでいただけたようで、とても良かったです。我々スタッフ側としても、けが人も出ず安全に設営を進めることができ安心しました。

社会学部社会学科2年 児玉 務

毎年行っているということもあり、今年も何事もなく終えることができました。利用者の皆さんが「感動した。」「また来てね。」と仰ってくださったのが特に印象に残りました。また来年もやっていきたいと思いました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 菊地 映梨香

高齢者施設に行きボランティアをするというのは、人生で初めてだったので良い経験になりました。

社会学部社会学科1年 乾 裕道



Voice of Winds による演奏会



全3曲を披露

6. 災害医療ボランティア研修

1. 日 程 ①第1回 2019年6月29日(土) ～トリアージ編～
②第2回 2019年10月5日(土) ～応急手当と搬送編～

2. 場 所 明星大学 日野キャンパス

3. 概 要

多摩地区の大学と地域が連携した「多摩ボラネット」主催の災害医療ボランティア研修。明星大学や中央大学など、他大学の学生たちとともに、DMAT 隊員による講義と実技講習を受け、ボランティア活動中に発生した緊急時の対応法について学んだ。

4. 学生参加者数 ①8名 ②2名

5. 参加学生の感想

(6/29)

災害が起きた際、トリアージを行うことがいかに大切か、実習を通して学ぶことができました。また、トリアージを行う中で、傷病者の区別がつきにくい場面が多々あり、難しいと感じました。今回の活動をふまえた上で、次回の災害医療ボランティアにも参加していきたいです。

社会学部社会学科2年 太田 知希

前回医療センターで行った内容を、さらに深く学ぶことができました。『トリアージ』という方法がどれほどの範囲で負傷した人々を支えることができるのかを考えさせられました。

社会学部社会学科2年 児玉 務

一年以内に大きな地震が70%以上の確率で起こると予想されている今、一人でも多くの人が救われるためにはこうしたトリアージ等の知識をたくさんの人にも知る必要があると感じました。医療従事者だけでなく、もし自分の住む地域で災害が起こった時にこの研修で得た知識を生かせれば、と思いました。

社会学部社会学科1年 菅野 明日美

医療に関する知識がなかったため、とても有意義な時間となりました。新しく、トリアージというものを理解し、実際に災害が起きた地域や、身近なところで活かせることを

知ったので、もっと積極的にこういった活動に参加して知識を増やしていけたらなと思いました。実習などを通して、実際の現場でどのように動いて、声掛けをしづらいのか学べて、さらに他大学の人たちとのつながりも持てたので良かったです。

社会学部社会学科1年 島岡 日和

トリアージの意味がわかりました。災害時の患者の優先順位をつける方法がわかって良かったです。次回も日程が合えば参加したいです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道

実際にけがの演技をして、いろんな症状の可能性のあることに気づき、今後も知識をつけたいと思うきっかけになりました。楽しみながらできたのと同時に、学ぶ意欲につながったのは思ったより良かったです。

経済学部国際経済学科1年 鈴木 響香

トリアージとは何か、何の役に立つのか、どのような手順で行うのかを勉強しました。実際に災害が起きた場合、どのような行動が適切なのかを身体を使って学ぶことができましたので良かったです。トリアージを実践してみて、負傷者の区分が難しく、特に呼吸が正常であるかの確認はなかなか上手いかず苦戦しました。しかし同時に負傷者に対し、どのように対応すれば良いのか、どのような声掛けがふさわしいのかなど様々なことも学べました。この研修を機に災害と救助に関するより深い理解ができれば良いなと思いました。

社会学部社会学科1年 柳澤 由伸

ボランティア活動に役に立つ！ 実技講習が中心
第1回 災害医療ボランティア研修
トリアージ編
～ボランティア活動に活かせる災害医療知識～

ボランティア活動中に発生した緊急時に周囲の人(傷病者等)に手を差し伸べることが出来ますか？
自分の安全を守れますか？
ボランティアと緊急時の対応を災害医療で学ぶ

日 時 令和元年 6月29日(土) 9:00～12:30
場 所 明星大学 32号館206教室
参加費 無料 参加募集人員 100名(定員)
申込先 ボラネット多摩 各大学のボランティアセンター

<内容>
① 災害医療について
② トリアージを学ぼう
③ トリアージをやってみよう

講師 災害医療の経験者で活躍したDMAT隊員
災害現場の経験者で活躍したDMAT隊員
主 催 南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ
協 力 ボラネット多摩(多摩地区の大学と地域によるネットワーク)

10月 第2回災害医療
ボランティア研修
5日 時間 9:00～12:30
場 所 明星大学 32号館206教室
参加費 無料 定員 100名(定員)
申込 各大学のボランティアセンター

開 催 応急手当と搬送編
ボランティア活動に活かせる災害医療知識

災害現場の経験者で活躍したDMAT隊員
災害現場の経験者で活躍したDMAT隊員
主 催 南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ
協 力 ボラネット多摩(多摩地区の大学と地域によるネットワーク)

とても実践的に行うことができて、楽しかったです。実際にトリアージを行う時には緊張感があり、現場でどうすべきか、学ぶことができたと思います。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 1 年 佐藤 雅

(10/5)

前回のトリアージ編に続けて参加しました。今回学んだ搬送方法や応急手当は、日常生活においても役立つので参加して良かったと感じました。

社会学部社会学科 2 年 太田 知希

前回のトリアージに引き続き、各搬送方法を学びました。元 DMAT の方からのお話もあり、大変貴重な体験でした。

社会学部社会学科 2 年 児玉 務



(6/29) トリアージについて学ぶ



(6/29) 実践的に訓練を行った



(10/5) DMAT の方からの講義を受けた



(10/5) 実技講習の様子

7. -相原 11 地区協議会大学連携事業- 第 7 回地域交流会「竹カフェ」

1. 日 程 2019 年 6 月 29 日 (土)
2. 場 所 多摩キャンパス EGGDOME2 階 Slow World Café
3. 概 要

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合った。今回はテーマを「これだけは譲れない！相原の地域資源」とし、ワークショップで「相原の地域資源」について意見を交換しながら交流し、その結果を競売ゲームの中で発表、参加者全員の価値観や意見を共有した。

4. 学生参加者数 16 名

5. 参加学生の感想

今回で 7 回目となる竹カフェを無事に終えられて良かったです。学生もたくさん参加してくれて、地域の方と楽しみながらグループワークをしてくれていて良かったなと思いました。今後も頑張っていこうと思います。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 鈴木 琴音



相原町の様々な人と親密になれた。会話の中で、自分がまだ知らないことを知れたのでとても有益でした。

社会学部社会学科 4 年 鈴木 史哉

私は、今日がボラセンでの初めての活動だったので、どんな感じなんだろうと思っていましたが、とても楽しく参加させていただきました！参加してみて、相原という地域は人々のつながりが強く様々な活動が行われているすてきな町なんだと実際ゲームや会話を通して伝わってきました。これを機に他のボランティアにも積極的に参加してみたいなと思いました。

社会学部社会学科 2 年 矢藤 日南乃

計画の段階からスムーズにできたのが良かったです。当日も今まで以上に楽しくアットホームな雰囲気で開催できたのが嬉しかったです。これからもこの空気感を大切に、さらにブラッシュアップし、後輩にも伝えていけるように頑張らないと、と思える竹カフェでした。

社会学部社会学科 2 年 吉井 妙英

今回司会を担当させていただきましたが、参加者の皆さんが優しく温かかったおかげでリラックスしながら進行することができてとてもやりやすかったです。改めて地域の人に支えられているなあと身をもって感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 2 年 宮下 なつ

相原の方々とお話ししてみて、自分があまり相原について知らないのだな、と思いました。知らない分、新鮮なことをたくさん知ることができて、とても良かったです。“今度そこに行ってみよう”と思うこともできました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 1 年 佐藤 雅



学生スタッフによる司会進行



6つのグループに分かれてゲームを行った



学生スタッフを含めて 30 名が参加



相原の地域資源について各チームが発表した

8. たまびよ

1. 日 程 ① 第1回 2019年6月30日(日) ～七夕飾りを作ろう!!～
 ② 第2回 2019年11月10日(日) ～秋の工作～

2. 場 所 子どもセンターばお

3. 概 要

町田市の子どもセンターばおにて、子ども対象の工作企画を学生スタッフが考案。

第1回(6/30)は七夕にちなんで、輪飾りや十字星、織姫と彦星の人形などの工作を行い、幼児と保護者合計17名が参加した。

第2回(11/10)は秋のリース作りと、チームたまモンが「まちカフェ!」で販売する「かぶせ茶プリン」のラベルイラストを、参加した子どもたちにそれぞれ描いてもらった。幼児と保護者合計16名が参加した。

4. 学生参加者数 ①5名 ②4名

5. 参加学生の感想

(6/30)

自分たちで企画をし、実行するのは今回が2回目です。少しずつ慣れてきたため、前回よりも余裕をもって子どもたちと工作をすることができました。今回のイベントで課題ややりたいことが見えてきたので次回につなげていきたいです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 菊地 映梨香

子どもセンターばおで、七夕の工作として、笹に飾れるようなものを3種類用意しました。今回は、今までやってきた中で一番、親御さんとお話を上手にすることができました。自分の作った物を、すべて笹に飾ると、子どもたちも達成感を感じやすいように思えました。はさみを使う際、どこまで手を出して良いのかの判断が難しかったです。今回も、楽しかったし、子どもたちが可愛かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 古沢 公実

全体を見渡して足りないところをフォローする視点が抜けていたため、今後の活動の際には注意しようと思います。今回、工作品の1つに輪飾りを用意したが、ばおの館長さんによると、「ああいった簡単に作れて成果が見えやすいものは、大人も子どもも夢中になりやすいため、今後も凝った内容の工作と単純な工作の2～3種類程度を用意した方が良い」ということでした。今後の活動の参考にしたいです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 渡邊 萌香

(11/10)

別のイベントも被っている中、16人の子どもと親御さんが来てくださいました。皆さんリース作りが楽しいとおっしゃってくださったので私的には大成功でした。今回ボランティアに参加してくれた1年生も楽しかったと言ってくれていたため、今後も続けていければ良いなと思いました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 菊地 映梨香

すべてが楽しかったです。今回は準備をすべて先輩がしてくれたので、私もそこからできるようにしたいと思いました。

社会学部社会学科1年 林 みほ

初めてたまびよの活動に参加して、とても良い経験になりました。自分が想像していたよりも子どもたちが来てくれて、だんだんと慣れてお話してくれたり、親御さんともいろいろなお話ができて楽しかったです。子どもセンターばおさんは、子どもたちにとっても親御さんたちにとっても大切な場所で、そこに学生がイベントを企画して協力して実施することは、双方にとっても良い刺激になると思いました。また機会があれば参加したいです。

社会学部社会学科1年 瀬合 知佳



(6/30) 完成した七夕飾り



(6/30) 親子でご参加いただいた



(11/10) 子どもたちと遊びながら工作



(11/10) 完成したリース

9. 第34回堺市民センター祭り

1. 日 程 2019年7月6日(土)～7月7日(日)

2. 場 所 堺市民センター

3. 概 要

相原駅近くにある堺市民センターで開催された「第34回堺市民センター祭り」にて、熊本支援を広める活動を地域の方に知ってもらうため、ゆめ工房さんとのコラボ商品「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」を販売し、300個を完売した。

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

初日は天候が良く、たくさん人が来たのですが、二日目は雨のため人が少なかったです。小さい子には、同じ目線になり、試食を進めると、その親御さんが買ってくれることに気が付きました。先輩方はいろいろな人に挨拶をされていて、ずっと笑顔ですごいと思ったので、自分も頑張りたいです。

社会学部社会学科1年 林 みほ

初めてのボランティアで、なかなか立ち止まっていたけなかつたりと、大変な面もあったけれど、立ち止まってお話ししたり、買ってくれたりと楽しめました。他の団体の方々と、このボラセンのつながりが感じられて、相原の方々とコミュニケーションがとれて良かったです。

社会学部社会学科1年 瀬合 知佳

今日この活動に初めて参加して、物を売ることの難しさがわかりました。立て続けに売れる場面と、なかなか売れない場面がそれぞれあって、学ぶこともいろいろありました。今回、初めて被災地支援に関係したボランティアができて良かったです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道



益城町を応援しなくっ茶！クッキー



来場者の皆さんに大好評だった

10. 八王子まつり山車曳きボランティア

1. 日 程 2019年8月3日(土)

2. 場 所 八王子駅甲州街道周辺

3. 概 要

大学コンソーシアム八王子の学生ボランティア企画で、八王子まつりの山車曳き体験ボランティアに参加。八幡上町町会の曳役衆の進行にしたがって、山車の引き綱を曳いて歩いた。山車は8月3日(土)～8月4日(日)の二日間にわたって甲州街道を練り歩き、本学学生は8月3日(土)に参加した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

とても暑い中でのお手伝いでしたが、一緒に山車を引っ張った方々に励まされ、頑張ることができました。留学生の方とも、大学の話などができて楽しかったです。お祭りの山車を引くのを見たことはありますが、実際に引くのは初めてでした。見ているよりずっと力強く、たいへん疲れることで、でもそこに携わり、祭りを引っ張る方々の力強さがそれに勝っていたため、自分も最後まで頑張ることができました。今度は自分の地元の祭りにも参加し、お神輿担ぎなどに参加し、祭りを知ってみたいです。

社会学部社会学科 1年 山中 一智也



山車曳きに参加



中国人留学生の方々と交流した

11. 熊本被災地支援活動

1. 日 程 2019年8月19日（月）～8月22日（木）

2. 場 所 熊本県上益城郡益城町

3. 概 要

熊本県上益城郡益城町にて、学生スタッフ「チームたまモン」が現地支援活動を行った。

第1次隊（8月19日-22日）は、益城町社会福祉協議会の方から復興状況などについてお話を伺い熊本城を見学。その後、木山仮設団地にて、餃子作りやポッチャなど、子どもと高齢者が一緒に行える交流企画を実施した。また「益城町を応援しなくっ茶！」プロジェクトでお世話になっている製茶工場「お茶の富澤。」さんを訪問し、工場見学をさせていただいた。

第2次隊（2020年2月29日-3月2日）を予定していたが、新型コロナウイルスに関連した感染症の流行状況を鑑み中止となった。

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

今回の活動内容で良かったのは、やはり高齢者の方と子どもたちが一緒に参加し楽しめるプログラム作り、場作りができたことだと思います。普段は交わることのない世代同士でも、間に大学生を挟むことによってクッションにもなるし、たまにしか現地の活動ができない私たちだからこそイベントとして交流を楽しむ場が可能になったのだと思います。子どもにとっても高齢者の方にとっても、もちろん大学生にとっても違う世代と関わることでできる場があることは非常に貴重であるので、次回も多世代を意識した企画作りができれば良いなと感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

今回の活動を通して一番感じたのは変化です。子どもが減っていることはもちろん、仮設団地の入居率や住民の方の人間関係も去年に比べて変化しています。この変化をうまく掴んで活動に活かすことが大切であると感じました。

経済学部現代ビジネス学科2年 石井 彰吾

実際に初めて被災した現地を訪れ、スライドで映された家が倒壊している写真や液状化現象で道路が下がっている写真などの悲惨な被害状況を見て、もしも関東で起こったら、いつか私も経験するのかなと思うと怖くなりましたし、心が痛くなりました。まだまだ誰かが力を必要としている地域はたくさんあると思います。1人でも多くの方に笑顔になってもらうためにも、一歩を踏み出していただけるお手伝いをできれば良いなと思いました。

社会学部社会政策科学科1年 木村 優海



社協の方にお話を伺う



子どもと高齢者の交流企画を実施



ポッチャで交流



「お茶の富澤。」さんを訪問

12. ヴィラ町田夏祭りボランティア

1. 日 程 2019年8月25日(日)

2. 場 所 介護老人福祉施設ヴィラ町田

3. 概 要

介護老人福祉施設ヴィラ町田にて開催される夏祭りの運営支援をした。会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

先日のヴィラ町田夏祭りでは、私は屋内でのアイスの販売の手伝いをさせていただきました。施設の利用者の方々に、スタッフの方はもちろん、利用者の方のご親族の方も多く参加されていて、様々な年齢層の方と交流をすることができました。販売の時には、小さい声だと届きづらい方もいらっしゃるので、声を大きめにして接する、などと高齢の方への配慮も適宜考えながら接客をするという経験をすることができました。またスタッフの方々の楽しんでもらおうという心意気、そして利用者の方々がとても楽しんでいるのが伝わってくるのも大変印象的でした。ただ、お祭りの手伝いをしに行っただけではなく、こういう企画の持つ力を実際に見ることもでき、非常に良い経験になりました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 廣井 友香



出店のお手伝い

13. 宮城県被災地支援～気仙沼でつながり騎士～

1. 日 程 2019年8月27日（火）～8月29日（木）

2. 場 所 宮城県気仙沼市

3. 概 要

1 日目は、気仙沼市市営内ノ脇住宅集会所で清掃活動と自治会の方々と交流会を行い、「気仙沼の魅力について」のワークショップを開催した。午後は気仙沼市社会福祉協議会の方から現在の復興状況や地域の課題についてお話を伺った後、大谷学童保育センターのお楽しみ会に参加し、子どもたちと触れ合った。

2 日目は、津波の被害に遭った気仙沼向洋高校旧校舎を見学し、被災当時の様子について学んだ。

4. 学生参加者数 12 名

5. 参加学生の感想

4 年間を通し、現地の気仙沼市が着実に復興に向けて進んでいることを感じました。私は気仙沼チームでの活動の 2 年目から参加させていただき、1 年生の頃から気仙沼市や大谷海岸の変化を見ていく中で、コミュニティの運営や支援について多くのことを学びました。また被災地から得た学びを首都圏に発信することも重要な活動だと考えています。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 恩田 祐希

今回の活動で印象に残っている点、反省すべき点は多々あるが、中でも特に印象に残っているのは内ノ脇住宅での交流会です。昨年の大谷海岸での活動では困難だった住民の方々との深い交流ができ、被災地の現状や当時の状況を詳しく知ることができました。震災から 9 年近くが経過した今、被災地に求められているニーズはこうした住民の方々の心理的充足を満たすことのように思えます。この交流会だけでも現地に来て良いと感じました。

社会学部社会学科 2 年 太田 知希

今回現地に行ってわかったことは、ボランティアのニーズは瓦礫の撤去や清掃といった物理的な支援ではなく、住民同士の交流を深めることにあるということです。このようなニーズは現地に行くからこそキャッチできる確実な情報であると思いました。ボランティア活動といっても独りよがりにならずニーズに応えることの大切さを知りました。

社会学部社会学科 2 年 豊満 祐希

8 年がたった今、震災を意識し続けることが難しくなっています。いつ何時また同じような災害が起きるかわからないからこそ、東日本大震災の記録・教訓は忘れられてはいけません。そして、まだ被災地には地域コミュニティの再建などの課題も残されています。私たちにできることはそうした記録、教訓、現状をより多くの人に伝えること、そしてより私たちが主体となった活動を展開して現地の方々の心に寄り添っていくことです。ニーズを考え、形を変えながら、より今後の活動をパワーアップさせていき、少しでも力になれる活動をしていきたいと思いました。

社会学部社会学科 1 年 菅野 明日美



市営内ノ脇住宅集会所で自治会の方と交流



大谷学童保育センターで子どもたちと触れ合った



気仙沼向洋高校旧校舎を見学



交流や学習を通し、充実した2日間

14. 東京医科大学八王子医療センター緊急医療救護所訓練

1. 日 程 2019年10月6日(日)
2. 場 所 東京医科大学八王子医療センター
3. 概 要

八王子市にある東京医科大学八王子医療センター内にて、大規模な災害で多くのけが人が発生した場合に、病院で治療を受けるべき人の優先順位を決める「緊急医療救護所訓練」の運営訓練が行われた。学生たちはそれぞれ担当を任せられ、要救護者に対するトリアージや応急処置を実際に体験した。

この救護訓練を通じ、八王子医療センターや他大学と連携しながら緊急時の体制を確認し、協働することができた。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

実際に震災が起きた際どのような流れで傷病者を治療するのかを学ぶことができました。

今回自分はトリアージを行った傷病者の記録をする仕事を行い、一気に大勢の傷病者が運ばれてきた時は多少混乱する場面もあったものの比較的スムーズに担当業務を行うことができました。

社会学部社会学科2年 太田 知希

今回初めて医療訓練に参加して医療に関する知識が全くない私にも手伝えることがあるのだと知ることができました。本当に災害が起きた時にとる行動も変わってくると思ったので参加して良かったです。 社会学部社会政策科学科1年 中來田 聡美

災害が起きた時、医療関係の人は治療などで出勤しますが、トリアージ記録は知識のない自分でもできることなので、もし本当に起きた時でもできることがあるんだとわかりました。記入された用紙を写して一覧にするだけでしたがどのグループとも連携しなくては成り立たないことだと思いました。 社会学部メディア社会学科1年 大島 瑞稀



担当ごとに訓練を行った



傷病者一覧表の作成

15. 2019 夏の被災地ボランティア活動報告会

1. 日 程 2019年10月10日(木)
2. 場 所 多摩キャンパス 総合棟4階 多目的室

3. 概 要

被災地支援をしている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」の2団体が、夏休み期間中の活動について成果や今後の課題を含め報告を行い、意見交換後、先生方に講評をいただいた。

4. 学生参加者数 25名

5. 参加学生の感想

活動内容、発表内容ともにすごく成長・発展を感じました。これからもぜひ一緒に頑張っていきたいなあと感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

どちらのチームも被災から年月が経ってきたことにより、ニーズが変化しているということを実感し、また現地の状況を伺うことができ、勉強になりました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 廣井 友香

どちらのチームも、震災後からの状況が変わって、課題があったので、それに今後は取り組んでいきたいと思いました。

社会学部メディア社会学科1年 大島 瑞稀

被災地の状況も変わっていくし、それと同時にニーズも変える必要があるんだなと思いました。学生が自分たちで考えて行動することに意味があると思いました。

社会学部社会学科1年 瀬合 知佳

熊本、気仙沼ともに詳しい活動報告を聞くことができ、とても良かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 新井 光咲



チーム気仙沼の報告



チームたまモンの報告

16. パリコレッ！ 芸術祭 2019 竹のわっ！

1. 日 程 2019年10月14日(月)

2. 場 所 町田パリオ

3. 概 要

町田市にある町田パリオにて、竹を使ったコンサートやワークショップ、マルシェ、アート展が行われた。参加学生は、竹に関連する商品販売の補助業務を行った。

4. 学生参加者数 2名

5. 参加学生の感想

イベント当日はあいにくの雨でしたが、たくさんの方がイベントにいらっしゃっていました。子どもたちも多く、竹灯籠作りの体験や、楽器作りなど楽しそうに参加しているのが印象的でした。『竹』というもの1つでいろいろなものができるのだと、私も楽しみながら活動できた1日でした。 現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 鈴木 琴音



『竹』が題材のイベントでしたが、町田だけでもこれだけ集まって大きなイベントになるのか！と驚きました。同じ相原のブース内では竹にドリルで穴を開ける体験ブースを行っていましたが、子どもたちに予想以上に人気があり、地域の方にサポートしてもらいながら楽しそうに竹と触れ合っている姿が印象的でした。今後の活動にも活かせる新たな発見がたくさんありました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空



「竹」をテーマにしたイベント



多くの方でにぎわった

17. 益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売（法政祭）

1. 日 程 2019年10月19日（土）

2. 場 所 多摩キャンパス 経済学部棟 2 階 221 教室

3. 概 要

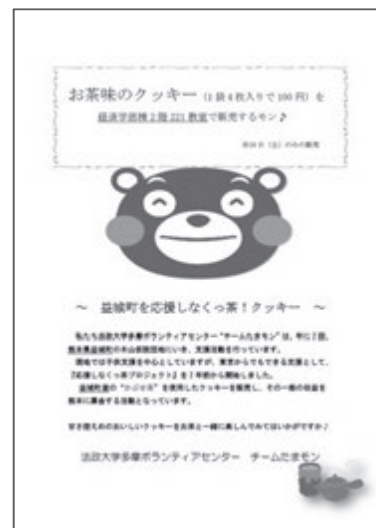
多摩キャンパスの学園祭にて、学生スタッフ「チームたまモン」考案の、ゆめ工房（相原町）とお茶の富澤。（益城町）さんとのコラボ商品「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、同チームが今年度実施した熊本県益城町での活動紹介パネル展示を行った。

4. 学生参加者数 10 名

5. 参加学生の感想

ただクッキーを販売するのではなく、お客様に熊本での活動を伝え興味を持っていただけたため良かったと思います。被災地での活動はボランティアセンター外の学生の認知度は高くないので今回のような機会を利用し広めていくことは有意義だと思いました。

経済学部経済学科 2 年 川越 宗紀



多摩祭でのクッキー販売は今年で 2 回目でしたが、昨年同様、完売に終わって良かったです。今年は昨年も来たという方に出会えて、（残念ながら完売した後だったのですが）特に嬉しかったです。その方の『私は買えなかったけど、それは誰かが買ってくれたということだから良かったわ』という言葉が印象的でした。活動の大切さを実感できた瞬間でした。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 2 年 海老沢 真由

大人の方が、売上のうちの 20 円分が被災地へ募金されると伝ええると快く買ってください、被災地を思う気持ちが伝わる良い活動でした。

社会学部メディア社会学科 1 年 太田 達也

チームたまモンとして多摩祭に出店するのは 2 度目ということもあり、みんなで要領よく準備し協力して当日は販売することができたと思います。今後も継続して、少しずつ東京からでもできる支援を増やしていければ良いなと感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 3 年 橋本 空



100 袋があっという間に完売した



経済学部棟 2 階にて販売

18. 第二清風園ハロウィンフェスティバル

1. 日 程 2019年10月27日(日)

2. 場 所 社会福祉法人賛育会第二清風園

3. 概 要

町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園にて、ハロウィン祭りの運営補助を行った。参加学生は出店のお手伝いをし、アカペラサークルの「はもるぷ」が合唱を披露した。

4. 学生参加者数 13名

5. 参加学生の感想

今回2回目の参加でしたが、昨年よりも地域の方や施設入居者、子どもたちと関わることができたと感じました。飲食コーナーのお手伝いをしましたが、買いに来てくれる方々が笑顔でイベントを楽しんでいる様子を見て、ボランティア側も楽しく活動できました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 千田 佳奈



私自身今年でこのイベントには2回目の参加となりましたが、施設の利用者さんや地域のボランティアさん、学生から子どもまで幅広い世代が集まるととても良い雰囲気イベントだなという風に思いました。イベント当日も温かい雰囲気ですて迎えてくださり、私もとても楽しみながら参加することができました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

イベントへのボランティア参加は初めてだったので戸惑いがあり、積極的に参加できなかったことが反省点の1つだと感じました。また、施設の利用者の方々の方々の車いす移動補助も初心者だったので、かなりレベルが高く感じてしまい、子どものコーナーの手伝いに入れてもらったこともあり、もう少し経験を積むことが必要だなと感じました。しかし、子どもや親御さんとの触れ合いは、とても良い経験になりました。

現代福祉学部臨床心理学科1年 高島 夕季



アカペラサークル「はもるぷ」による合唱



みんなで仮装

19. 鶴川 de ハロウィンフェスティバル

1. 日 程 2019年10月27日(日)

2. 場 所 小田急鶴川駅前

3. 概 要

鶴川地区協議会主催イベント、ハロウィンフェスティバルに参加。

参加学生は受付や舞台、衣装準備、司会等の運営補助を担当し、地域の方々と交流を行った。

4. 学生参加者数 2名

5. 参加学生の感想

子どもたちが楽しんでいる裏では大人たちが頑張っていることを実感しました。子どもたちの喜ぶ顔が見られて嬉しかったです。 経済学部経済学科2年 川越 宗紀



20. 相原スポーツ広場 ～FUN DAY～

1. 日 程 2019年11月10日(日)
2. 場 所 相原中央公園 多目的広場2(スポーツ広場)

3. 概 要

町田市相原中央公園スポーツ広場で行われた子どもを対象としたイベントの運営支援として参加した。

学生は「キッズ走り方教室」のブースを担当し、子どもたちに正しい走り方を教え、50メートル走のタイム測定を行った。

4. 学生参加者数 5名

5. 参加学生の感想

私は受付を担当していたので直接走り方教室には関わっていませんが、子どもたちが楽しそうに腕の振り方や足のあげ方を練習する姿や、息を切らしながらも50メートル走を走りきったあとの達成感ある姿を見て、ほほえましく思いました。今までになかった層にボランティアとしてアプローチできてとても良かったと思いました。



現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

計画があまりできていなかったため、やりながら改善していきました。同じことを5回くらい行いましたが、子どもたちは毎回違う子たちなので、毎回完璧にこなすことはできませんでした。でも交流を通して親御さんとも話ができて陸上を楽しんでもらえたら良いと思いました。

社会学部メディア社会学科1年 大島 瑞稀



大勢の子どもたちと触れ合った



50メートル走のタイムを計る

21. -相原 11 地区協議会大学連携事業- 第 8 回地域交流会「竹カフェ」

1. 日 程 2019 年 11 月 17 日 (日)

2. 場 所 相原中央公園

3. 概 要

昨年度より参加している「竹あかりの街あいはら」の活動の一環として、地域の方々とともに竹灯籠を制作した。竹についてのワークと竹灯籠の制作作業に分かれ、全員にどちらの作業も体験してもらえるような企画を行った。

4. 学生参加者数 13 名

5. 参加学生の感想

8 回目となった今回は、初めて子どもたちが参加してくれました。ワーク自体も、作業が中心だったので、子どもも大人も楽しんでくれていたように思います。いつもとは違った年齢層が参加してくれたことが新鮮で、私たちにとてもたくさんの発見があった竹カフェになりました。屋外での開催で、不安な点もありましたが、天気も良く無事に当日を迎えることができて良かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 鈴木 琴音

2 回目の参加でしたが、地域の方々和気あいあいとしながら活動できて楽しかったです。3 月も参加したいと思います。

社会学部社会学科 2 年 矢藤 日南乃

段取り通りにいかないことがあって少しあたふたした部分がありますが、どの世代の方も楽しんで参加してくださり、とても充実した一日になりました。外での活動も今後の竹カフェに取り入れたいと思いました。

社会学部社会学科 2 年 吉井 妙英

いろんな年齢層の方々とおしゃべりできて楽しかったです。高齢の方とお話する機会は多いけれど、子どもとあまり関わる機会がなかったので新鮮でした。初めてで、気のきかないところもあったと思いますが、優しく受け入れてくださり嬉しかったです。ありがとうございました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 1 年 石川 嵯奈



小さな竹灯籠作り



竹灯籠オブジェクトの製作



22. イザ！カエルキャラバン！ inリンクス梶田

1. 日 程 2019年11月23日(土)
2. 場 所 社会福祉法人武蔵野会 リンクス梶田
3. 概 要

八王子市梶田町にある障がい者支援施設「リンクス梶田」にて実施された、防災イベントに参加。防災体験プログラムや受付、イベントの運営補助を行った。

4. 学生参加者数 15名

5. 参加学生の感想

小さいお子さんから大人の方まで、幅広い方に楽しんでいただきやりがいのある活動でした。また、参加者の方に防災について教えながら楽しみつつも、いざという時に役立つことばかりで、自分たちにとっても勉強となり、有意義な時間となりました。

経済学部経済学科2年 小森 滉太



事前に、万が一近隣で災害が起きたら危険になりそうな場所を把握したり、避難所でどう過ごしたら良いのかを知り、想像を膨らませておくことは重要であると思いました。実際にAEDの使い方を学べる等、学生側も得るものが多かったです。また、子どもたちの笑顔にこのボランティアをする意義を感じました。今後は子どもたちにより興味を持ってもらえるよう、防災学習ゲームの内容を工夫していけたらと思いました。

社会学部メディア社会学科1年 今井 彩里衣



防災カードゲームを運営



災害時の対応をゲーム形式で体験した

23. 第13回市民協働フェスティバル まちカフェ！

1. 日 程 2019年12月1日（日）

2. 場 所 町田市役所2階

3. 概 要

町田市を中心に活動する団体が一堂に会するイベントに参加。学生スタッフが行う熊本支援活動を地域の方に知ってもらうため、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」と「かぶせ茶プリン」の販売を行った。今回は同じく被災地支援を行う玉川大学と共同でブースを運営し、クッキー200個、プリン180個を完売した。

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

まちカフェ！には『益城町を応援しなくっ茶プロジェクト』として3年前から出店していますが、3年目ともなると『今年は絶対買いたかったの〜』と、早めに買いにお越しくださる方もいて、イベント出店を継続することの意味をととても感じました。また今回は玉川大学の太田ゼミの方々と学生コーナーとして隣同士で出店させていただきましたが、陸前高田の物産と並ぶことにより私たちのブースも被災地支援だという点をいつもよりアピールすることができたと思います。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

お客さんに熊本に興味・関心を寄せていただき、とても嬉しく感じました。また、お客さんだけでなく、多くの出店側の人たちにも我々の活動を周知できる良い機会でした。今後も参加していきたいと思います。

経済学部経済学科2年 小森 滉太



プリンとクッキーを販売



多くの方にご来場いただいた

25. 関東ボッチャ選手権大会

1. 日 程 2020年1月25日(土)

2. 場 所 町田市立総合体育館

3. 概 要

町田市立総合体育館で開催された、関東ボッチャ選手権大会に参加。学生は受付や審判などの運営補助を行った。大会は1月25日(土)～1月26日(日)の2日間かけて行われ、本学学生は1月25日(土)を担当した。

4. 学生参加者数 3名

5. 参加学生の感想

今回関東ボッチャ選手権において、審判補助や資料配布、障がいを持つ選手の補助等のボランティアを行いました。私は今までにボッチャの大会や体験会のボランティアを務めていましたが、今回はその中でも一番規模の大きい大会でした。私がお話しした人の中では、足に障がいを持つ方で群馬から電車を乗り継ぎ来た選手もいました。今大会は公式ルールに則り競技が行われ、選手と観客の表情はとても真剣でした。ボッチャは夏季に行われる東京パラリンピックの公式競技です。日本代表もメダルが有力視されています。しかし実際には知名度がとても低いのです。私はこれまでのボランティアを通し、障がい者をはじめりハビリ中の高齢者、幼稚園児・小学生、大人等ルールが簡潔であらゆる人が楽しめるボッチャの魅力にはまりました。今大会ではこれまでの経験を踏まえて主審も務めました。また以前お会いした方とも競技を通じた交流ができました。ボッチャは人と人をつなぐ良いツールであり、また生きがいにもなるスポーツだと私は思います。今後も町田でボッチャの大会・交流会が続きますが、後輩たちがボランティアを通して良い経験を得てくれることを願っています。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 恩田 祐希



26. 学生ボランティア団体助成事業表彰式

1. 日 程 2020年2月6日（木）
2. 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

3. 概 要

学生スタッフチームたまモンが、熊本被災地支援ボランティア活動において、「学生ボランティア団体助成事業」に採択され、表彰式と懇親会に参加した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

助成金で表彰されるのは初めての体験で、とても緊張しました。表彰式の中で、選考された団体を説明するために、3つの団体が例として挙げられたのですが、その中に私のチームが入っていた時は驚きました。その後の懇談会でも、選考委員の方から、『皆さんの活動は』まさに地域交流の理想的な形』というお言葉をいただき、とても嬉しかったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 海老沢 真由



チームたまモンのメンバー



表彰状の授賞式に参加

27. 第6回大学生ボランティア写真展&イベント

1. 日 程 2020年2月15日(土)

2. 場 所 イオンモール多摩平の森

3. 概 要

多摩地区5大学・行政・社会福祉協議会と合同で、被災地活動パネルを展示するとともに、トークセッションや物産展に参加した。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

今回はトークセッションにおいて多摩地域の学生や住民の方々に私たちの活動を認知してもらえたと同時に、他団体の活動理念や課題を知る良い機会となりました。物産展の方も好調で、短時間で完売となったため、機会があればまた実施したいと考えています。

社会学部社会学科2年 児玉 務

他大学の方々がどんな活動をされているのか知ることができて良かったです。また、ミソスープの販売では、たくさんの人に興味をもっていただけたことがとても嬉しかったです。

社会学部社会学科1年 島岡 日和



三陸わかめ屋ムラカミさんの「MISO SOUP」を販売



お客様に丁寧に説明



被災地で活動する学生たちの報告会



他大学の学生とも積極的に交流

小金井ボランティアセンターについて

2019 年度 小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括 （田村 信幸 小金井ボランティアセンター長）	130
2019 年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）	131
2019 年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）	132

小金井ボランティアセンターの活動の概要

小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長 田村 信幸

小金井ボランティアセンターでは 2019 年度、2 回の学内献血、東小金井駅主催イベントでのオリジナル石鹸作りの出展、技術連盟による工学展、小金井祭での体験教室と研究室紹介、老人ホームでのクリスマスコンサートへの参加、地域農家の手伝い、ゴミ拾いを行った。これらは中身の細部が多少変わってはいるもののイベント自体の内容や回数は昨年度と全く同じである。市ヶ谷と多摩では常に新しいイベントを提案していることを踏まえると少々見劣りすると言われても仕方がないかもしれない。これは小金井ではボランティア活動の運営や企画に直接携わる専属の学生が少ないことが原因の一つであろう。

しかし、上記イベントには初めて参加している学生も少なくないこと、そして、詳細は割愛するが研究室紹介については昨年度までと少し形式を変更している部分があるため、学生達は新たな物事に取り組む機会を得ることができたであろう。全く新しいイベントを実施することはもちろん必要でありボランティアセンターとして望ましい姿ではあるが、その一方で継続して参加するということはマンネリ化を避けるための何らかの工夫や方法が必要である。これは見方によっては新しいことを提案することとは異なる難しさがあり、学生自らこの難問を解決したということはボランティアを通して学生の成長を促すというボランティアセンターとしての目的は達成できたと思う。

もちろんいつまでも現状維持が良いというわけではない。今後さらに活動を活発化させるためより多くの学生を集めなければならないが、学生の自主性や主体性を重視するのであれば、多少歩みは遅くとも学生が活動を拡大させたり新たなことを提案したりすることの必要性や重要性に気付くまで見守ることも必要ではないだろうか。そのために今我々にできることは、学生たちが動き出したときにいつでもサポートできるよう十分な体制を整えておくことと考えている。

2019 年度 小金井キャンパス ボランティア活動カレンダー（参考）

小金井ボランティアセンターではまだ組織だったボランティアセンター活動が実施できていないため、参考として小金井キャンパスのボランティア活動について報告する。

月日	曜日	イベント・講座・訪問先	概要	ボランティア参加者数
6月18日	火	学内献血	日本赤十字社主催の学内献血に工体連が実施協力。	5名
8月3日～5日	土～月	nonowa 東小金井「家族の夏祭り」参加	JR 東小金井駅主催イベントで、小金井企画実行委員会が「オリジナル石けんづくり」ブース出展（対象：地域住民・子供）。	5名
10月2日	水	学内献血	日本赤十字社主催の学内献血に技術連盟が実施協力。	8名
11月1日～3日	金～日	工学展	技術連盟が工学展で「科学実験」「工作教室」「紙飛行機教室」を出展（対象：地域住民・子供）。	42名
11月1日～3日	金～日	小金井祭での体験教室企画	小金井企画実行委員会が「よく飛ぶ飛行機」「スーパーボール作り」教室を開催（対象：地域住民・子供）。	101名
11月2日～3日	土～日	小金井祭での研究室紹介	小金井3学部の6研究室の研究室見学を開催（対象：中学生以上の地域住民）。 ※参加研究室中、申請した2研究室に対し「ボランティア活動・研究公開サポート制度助成」制度を適用。	101名
12月中旬	日	老人ホームでのクリスマスコンサート参加	近隣老人ホーム主催クリスマス会に工学部マンドリンクラブが演奏参加。	32名
4月～11月		農業サークル「あぐり」による地域農家の手伝い	農業サークル「あぐり」が年間を通じ地域農家の手伝いを実施。	60名
4月～3月		校内タバコ吸殻・ゴミ拾い	ボランティアセンター小金井職員が年間を通じて校内のタバコ吸殻・ゴミ拾いを実施。	1名

2019年度 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況(参考)

小金井キャンパスで実施しているボランティア活動・研究公開サポート制度の採択状況について、下記の通り報告する。

記

1. 小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度について

本制度は、小金井キャンパスにおける地域貢献を目的としボランティア等の活動を活性化することを目的に、2016年度より新設された。

小金井キャンパス周辺地域（小金井市・西東京市・三鷹市・武蔵野市・国分寺市・調布市）を対象としたボランティア活動や小金井祭における地域住民への正課研究の公開を目的とする活動をする小金井キャンパスに在籍する学部生・院生及び登録団体にに対し、1回の活動につき10万円を上限、一団体年間2回まで助成する。企画の実施期間について、申請年度中に活動を実施し、完了することが条件となる。

活動実施1か月前までに申請することが必要で、毎年度12月上旬を最終受付としている。

2. 2019年度の応募・採択状況

2019年度は3件の応募があり、全件採択された。

団体名	事業名	実施期間	助成額（円）
理工学部機械工学科 吉田研究室	小金井祭研究室紹介 加工計測・機能デザイン研究室の研究紹介活動	11月2日	100,000
理工学部創生科学科 田中研究室	小金井祭研究室紹介 学際宇宙ゼミナールの研究室紹介	11月2・3日	100,000
生命科学部生命機能学科 金子研究室	小金井祭研究室紹介 「細胞レベルで実験したくない!？」	11月2・3日	100,000
計			300,000

以上

2019 年度採択された 助成金一覧・メディア掲載一覧

2019年度採択された助成金一覧

●公益財団法人 電通育英会「学生を対象とする次世代リーダーの育成活動」に採択（市ヶ谷）

助成活動名：富士山外来種駆除ボランティア活動、富士山清掃・トレイル整備ボランティア活動

富士山外来植物駆除ボランティアツアー ⇒報告書はP24を参照

富士山清掃・トレイル整備ボランティアツアー ⇒台風19号の影響により中止

富士山トレイル整備ボランティアツアー ⇒新型コロナウイルス感染症の影響で中止

●公益財団法人 キリン福祉財団「キリン・地域のちから応援事業」に採択（市ヶ谷）

助成活動名：東北被災地ボランティアツアー ⇒報告書はP55を参照

●社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会「養成事業助成金」に採択（市ヶ谷）

助成活動名：災害救援ボランティア講座 ⇒報告書はP41を参照

●一般財団法人 学生サポートセンター「学生ボランティア団体助成事業」に採択（多摩）

助成活動名：熊本県益城町被災地ボランティア チームたまモン⇒報告書はP109を参照

●Yahoo!基金 夏休み《学生ボランティア》被災地復興支援活動助成プログラム（多摩）

助成活動名：宮城県被災地ボランティア チーム気仙沼でつながり騎士（ナイト）

→報告書はP112を参照

●公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）との協働プログラム（多摩）

助成活動名：熊本県益城町被災地ボランティア チームたまモン⇒報告書はP109を参照

2019年度メディア掲載一覧

メディアへの掲載・各種広報実績

キャンパス	媒体名	掲載日・頁	記事タイトル・ボランティアセンタープログラム名等	実施日	番号
市ヶ谷	東海新報	2019年8月22日(7面)	東北被災地支援ボランティアツアー	8月19日～26日	①
	あらんてあ	2020年1月	荒川区社会福祉協議会	12月15日、24日、25日	②
	2019年度大学案内	2019年4月(013頁)	チーム・オレシジ活動	被災地支援ボランティア	③
	東京メトログループ安全報告書	2019年4月(26頁)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア	通年	④
	東京メトログループ社会環境報告書	2019年4月(16頁)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア	通年	⑤
	第33回神田すずらんまつり広報誌	2019年5月	神田すずらん祭り	5月25日	⑥
	千代田区観光協会HP	2019年5月	神田すずらん祭り(ポッチャ体験教室VSPなど)	5月25日	⑦
	広報誌「法政」	2019年11・12月号	総長対談	9月19日	⑧
	学び場ガイド	2019年4月(25・26頁)	時間で選べる法政ボランティアガイド	—	⑨
	法政コンパス	2019年4月105号	ボランティアで見つめる新たな自分	—	⑩
	広報誌「法政」	2020年3月号	活動にかける思い	—	⑪
	東京2020 参画プログラムHP	参画プログラム申請、実施報告	東京メトロ飯田橋駅ボランティア	通年	⑫
			インクルーシブデザインワークショップ	5月17日	
			富士山外来植物駆除ボランティアツアー	5月19日	
			ドッグセラピーへの理解	5月27日	
			ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	5月30日	
			ユニバーサルマナー～多様性の時代～	6月10日	
			自閉症スペクトラム障害について考える	6月19日	
			被災地で働くを考える～仕事として被災地を支え、地域を作るとは～	6月24日	
			ゴールボール体験教室	7月2日	
			避難所体験いざという時あなたならどうしますか。	7月6日	
			高齢者と音楽を通じて楽しく交流しよう	8月27日	
			ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画	10月2日	
			外濠の浚渫工事について知り環境問題改善について学ぶ	10月9日	
			車いすラグビー体験から学ぶ障がい者の理解と多様性	10月23日	
多摩	武相新聞	2019年4月6日	多様性の進む時代的マイノリティについて考える	11月14日	⑬
	東京新聞	2019年5月1日	福島スタディツアー	12月8日	
	J:COM ケーブルテレビ	2019年4月2日	目の不自由な方のサポートについて学ぼう	12月11日	
	フォトジャーナル	2019年4月17日	竹あかりの街あいほら	3月30日	
	町田〇ごと大作戦 18-20HP	2019年4月23日	竹あかりの街あいほら	3月30日	
	相原町づくり協議会HP	2019年6月1日	竹あかりの街あいほら	3月30日	
	町田市HP	2019年7月22日	第7回竹カフェ	3月30日	
	東京家政学院大学HP	2019年7月8日	第7回竹カフェ	6月29日	
	東京家政学院大学HP	2019年12月4日	第8回竹カフェ	6月29日	
	J:COM ケーブルテレビ	2020年2月18日	第6回大学生ボランティア活動展&イベント	11月17日	
多摩	まちだ〇ごと大作戦実行委員会	2020年3月1日	第6回大学生ボランティア活動展&イベント	2月15日	⑭
			町田〇ごと大作戦	2月7日	

メディア掲載概要(掲載誌(紙)・掲載日)※一部抜粋になります。



①東海新報 2019年8月22日

②あらんてあ 2020年1月



③ 2019 年度大学案内



④東京メトログループ安全報告書 2019



⑤東京メトログループ社会環境報告書 2019



⑥⑦第 33 回神田すずらん祭り



⑧広報誌「法政」 2019 年 11・12 月号



⑨学び場ガイド 2019 年 4 月



⑩法政コンパス 2019年4月105号



⑪広報誌「法政」 2020年3月号

⑫東京2020 参画プログラムについての記事の詳細は、
東京2020 参画プログラム HP (<https://participation.tokyo2020.jp>) でご確認ください。



⑬武相新聞 2019年4月6日



⑭東京新聞 2019年5月1日



⑮フォトジャーナル 2019 年 4 月 17 日



⑯まちだOごと大作戦 18-20HP2019 年 4 月 23 日



⑰相原町づくり協議会 HP2019 年 6 月 1 日



⑱町田市 HP2019 年 7 月 22 日



⑲東京家政学院大学 HP2019 年 7 月 8 日



⑳東京家政学院大学 HP2019 年 12 月 4 日



㉑まちだ〇ごと大作戦実行委員会 2020 年 3 月 1 日

2019 年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書

発 行 2020年7月

発行者 法政大学ボランティアセンター

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

Tel:03-3264-9516 Fax:03-3264-5728

E-mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

印 刷 株式会社エイチ・ユー 学内印刷室



市ヶ谷ボランティアセンター
市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階
学生センター内
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL:03-3264-9516
FAX:03-3264-5728
Mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

多摩ボランティアセンター
多摩キャンパスEGG DOME 3階
〒194-0298
東京都町田市相原町4342
TEL:042-783-2072
FAX:042-783-2074
Mail:tama-vc@hosei.ac.jp

小金井ボランティアセンター
小金井キャンパス
管理棟2階小金井学生生活課内
〒184-8584
東京都小金井市梶野町3-7-2
TEL:042-387-6041
FAX:042-387-6201
Mail:kgakusei@hosei.ac.jp